

# 自己点検・評価報告書

令和4（2022）年度

川崎医療短期大学



# 目 次

はじめに

I.	組織図	1
II.	役職者一覧	2
III.	委員会委員一覧	3
IV.	点検・評価	5
1.	大学の基本方針	5
2.	教育課程	7
(1)	教育課程の点検と改善	7
(2)	各学科の教育効果の推進に向けての取組と学修成果	11
	看護学科	11
	医療介護福祉学科	15
3.	学生の受け入れ	17
(1)	素質のある学生確保	17
(2)	入学選抜方法	18
(3)	特色ある広報活動	19
4.	学生支援	20
(1)	学生生活支援体制	20
(2)	健康の維持・管理	21
(3)	進路支援	22
5.	教員・教員組織	23
(1)	教員組織	23
(2)	研究活動の促進	23
(3)	研究活動環境整備	24
6.	社会連携・社会貢献	25
(1)	地域連携	25
(2)	高等学校との連携	25
(3)	ボランティア活動	26
(4)	国際交流	26
7.	内部質保証	27
(1)	自己点検・評価活動	27
(2)	教員活動評価の実施	27
(3)	学生による評価	28
(4)	外部評価	30
8.	管理運営	32
(1)	新キャンパス移転に伴う整備	32
(2)	新型コロナウイルス感染症対策	32
(3)	IR室と点検評価委員会の連携	33

(4) 地球温暖化対策の実施	33
(5) 寮の運営・管理	34

[参考資料]

表2-1 学修成果の達成状況等調査結果	35
表2-2 分野別GPCA	39
表2-3 学生による授業評価結果	40
表2-4 看護学科教育課程表	41
表2-5 国家試験結果	42
表3-1 オープンキャンパス等開催日	42
表3-2 学科別入学試験結果概要	43
表3-3 在籍者内訳	44
表3-4 出身都道府県別在籍者数及び入学者数	44
表4-1 卒業生の進路状況	45
表5-1 専任教員数	45
表5-2 公的研究費（競争的資金等）の獲得件数	45
表5-3 教員研究費の決算	45
表5-4 教育・研究に係る機器及び備品・図書等の整備状況	46
表7-1 FD・SD研修会実施結果	46
表7-2 教員活動評価結果	48
表7-3 学生生活満足度調査及び生活実態調査	49
表7-4 「川崎医療短期大学の教育・学生生活に関するアンケート（卒業後アンケート）」調査結果	61
表7-5 就職支援に関するアンケート	67
表7-6 「卒業生採用に関するアンケート調査」結果概要	69
主要行事	77

あとがき

## はじめに

本学の設置母体である学校法人川崎学園は、令和2（2020）年に創立50周年を迎えました。昭和48（1973）年に、「人をつくる 体をつくる 深い専門的知識・技能を身につける」という建学の理念のもと開設された本学も、令和5（2023）年に創立50周年の節目の年を迎えました。本学では建学の理念を受け継ぎながら、医療と福祉の融合を目指し、かつ超高齢社会のニーズに応える人材の育成という視点から、「人間（ひと）をつくる 体をつくる 医療福祉学をきわめる」という大学の理念のもと、教育・研究活動を実践しています。創立以来幾度かの改組を繰り返した結果、現在は看護学科と医療介護福祉学科の2学科体制になっていますが、大学の理念のもと、引き続き社会の要請に応える医療福祉人材の育成に努めてまいりたいと考えています。

令和4（2022）年度は、岡山市北区中山下に設置した新たな校舎棟の運用を開始いたしました。慣れない環境下で戸惑いもあったかと思いますが、教職員、学生が一丸となって適切な教育活動を継続することができました。新校舎棟は、川崎医科大学総合医療センターや同高齢者医療センターに隣接し、川崎学園岡山キャンパスを形成しています。充実した実習環境を活用し、学生教育や研究の充実を図っていきたいと考えています。

本学は、令和2（2020）年度に一般財団法人大学・短期大学基準協会による機関別認証評価を受審し、適格と認定されました。平成18（2006）年度、平成25（2013）年度に続いて3期目の認証評価でしたが、「自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗している」と高い評価を受けることができました。

本年度も教職員一人ひとりが日々の自己点検・評価活動を積み重ね、適切なフィードバックを通じて改善につなげるとともに、組織としての内部質保証を図っていく方針です。最後に、本報告書作成に携わった教職員並びにご支援いただいた関係各位に御礼申し上げます。

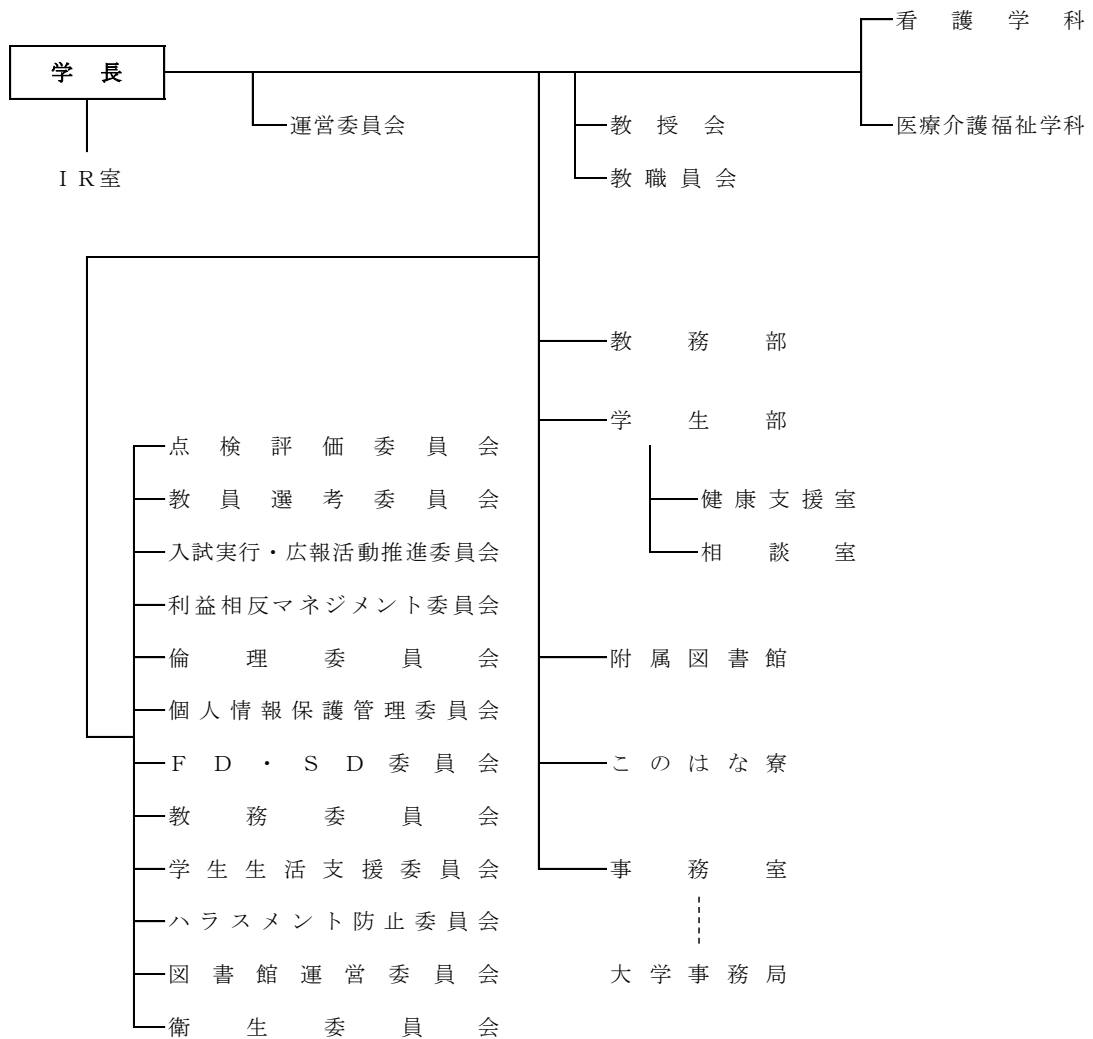
令和5（2023）年11月1日

川崎医療短期大学  
学長 秋山祐治



# I. 組織図

川崎医療短期大学運営組織図（令和4（2022）年4月1日現在）



## Ⅱ. 役職者一覧

令和4（2022）年4月1日現在

役職名	氏名
学 長	秋山 祐治
副学長	新見 明子
教務部長	松本 明美
学生部長	新見 明子
教務部副部長	榊本 朋子
学生部副部長	黒田 裕子
看護学科学科長	岡田みどり
医療介護福祉学科学科長	山田 順子
看護学科副学科長	林 千加子
医療介護福祉学科副学科長	居村 貴子
附属図書館長	松本 明美



### Ⅲ. 委員会委員一覧

令和4（2022）年度各種委員会等委員一覧（令和4（2022）年4月1日現在）

2022.4.1		委員	
委員会	委員長・副委員長	委員	
運営委員会	学長	副学長, 学長補佐, 副学長補佐, 教務部長, 学生部長, NS学科学科長[指], CW学科学科長[指], 事務長	
教員選考委員会	学長	副学長, 学長補佐, 副学長補佐, 選考教員の所属学科学科長, 教務部長, 学生部長	
点検評価委員会	学長 副学長[指]	学長補佐, 副学長補佐, 教務部長, 学生部長, 各学科学科長, 学外有識者(倉敷市), 事務長, 学生代表, (他学長認者) 教員活動評価:(副学長) 自己点検・評価:(副学長) 認証評価(2024年度まで): ALO(新見), A委員(秋山), C委員(榎本)	
入試実行・広報活動推進委員会	学長 教務部長[指]	副学長, 学長補佐, 副学長補佐, 学生部長, 学科学科長, NS学科学科長, CW学科学科長, 事務長, 事務室推薦委員(池田), (他学長認者)	
利益相反マネジメント委員会	学長 副学長[指]	学長補佐, 副学長補佐, 教務部長, 学生部長, 各学科学科長, 事務長, 学外有識者(医福大研究担当副学長)	
倫理委員会	副学長[指]	学長補佐, 副学長補佐, 教務部長, 学生部長, 各学科学科長, 事務長, 学職経験者(医福大研究担当副学長)	
個人情報保護管理委員会	学長[指] 副学長[指]	学長補佐, 副学長補佐, 教務部長, 学生部長, 事務長, 学内情報ネットワーク運用責任者	
FD・SD委員会	教務部長[指] 榎本 [指]	学生部長[指], 重田[指], 掛屋[指], 山田[指], 事務長[指]	
教務委員会	教務部長 教務部副部長	学科学科推薦委員(NS林・沖田, CW居村・山田・大岩), 重田[指], 事務室職員(池田・大戸)	
学生生活支援委員会	学生部長 学生部副部長	学科学科推薦委員(NS太田・三宅映, CW常国), 見尾[指], 養護職員[指], 事務室職員(池田)	
ハラスメント防止委員会	学生部長[指] 小淵[指]	学科学科推薦委員(NS水畑, CW熊谷), 事務室選出委員(足立)	
図書館運営委員会	図書館長	学科学科推薦委員(NS日下, CW時弘), 図書館員(高津), 委員長認者(事務室課長)	
衛生委員会	黒田 [指] 影本 [指]	学科学科推薦委員(NS藤井弓, CW時弘), 事務室推薦委員(小池), 衛生管理者(他学長認者)	

任期: 2021年4月1日から2023年3月31日まで

川崎医療短期大学創立50周年記念事業関連		委員	
委員会	委員長・副委員長	委員	
記念事業実行委員会	秋山 新見	松本明, 岡田, 山田, 田中	
記念事業企画部会	新見 黒田	阿部, 熊谷, 重田, 池田	
記念誌編集部会	松本明 林	居村, 熊野, 見尾, 田中	

## 2022年度 各種委員会ワーキンググループ一覧

2022.4.1

ワーキンググループ (WG)	責任者	構成員
<b>入試実行・広報活動推進委員会</b>		
入試実施WG	副学長	副学長補佐, 教務部長, 学生部長, 各学科学科長, 事務長, アドミッション・オフィサー, 事務室職員 (池田・大戸)
広報活動推進WG (オープンキャンパス・公開講座, ホームページ)	阿部[指]	各学科担当者, 事務室職員 各学科担当者 (オープンキャンパス): NS小淵, CW居村, 事務室職員 (角谷) (公開講座): NS伊藤, CW常国, 事務室職員 (小池) (ホームページ): NS松本佳, CW大岩, 事務室職員 (松若)
広報誌作成WG	熊野[指]	CW大岩, 見尾[指], 事務室職員 (小池)
<b>教務委員会</b>		
学修支援WG	榎本[指]	見尾[指], 学科推薦委員 (林・沖田・居村・山田・大岩)
学習管理システムWG	重田[指]	熊野[指], 河畑[指], 学科推薦委員 (林・沖田・居村・大岩), 事務室職員 (大戸)
基礎教育課程検討WG	松本勇[指]	見尾[指], 重田[指], 事務室職員 (大戸)
カリキュラム検討WG	林[指]	山田[指], 学科実務家教員 (水畑・小淵, 三宅映, 藤井 <sup>中</sup> , 糸島, 伊藤, 吉井, 高橋, 山本, 松尾, 村井, 藤井 <sup>博</sup> , 妹尾, 居村, 常国, 時弘, 杉山, 大岩)
学内情報ネットワーク管理運用WG	重田[指]	熊野[指]
<b>学生生活支援委員会</b>		
障害学生支援WG	学生部長[指]	各学科担当者 (NS福武, CW常国), 学生部副部長, 養護職員[指], 事務長, 事務室職員 (池田)
就職支援WG	見尾[指]	各学科担当者 (NS福武, CW熊谷), 学生部副部長, 事務室職員 (池田)
健康管理WG	養護職員[指]	各学科担当者 (NS太田, CW熊谷), 学生部副部長, 事務室職員 (足立), (必要時校医・衛生管理者)
<b>衛生委員会</b>		
地球温暖化対策WG	影本[指] (衛生委員会副委員長兼務)	黒田[指], 衛生委員会学科推薦委員 (NS藤井 <sup>中</sup> , CW時弘), 事務長, 図書館職員 (高津)

任期: 2021年4月1日 から 2023年3月31日まで

## 2022年度 ハラスメント相談室、IR室一覧

室	室長	室員
ハラスメント相談室	相談室長 (ハラスメント防止委員会副委員長兼務) 小淵[指]	学科推薦委員 (NS小淵, CW熊谷), 事務室職員 (足立), 養護職員[指] 任期: 2021年4月1日 から 2023年3月31日まで
I R 室	室長・副学長	黒田[指], 榎本[指], 熊野[指], 重田[指], 池田[指], 大戸[指]

## IV. 点検・評価

### 1. 大学の基本方針

#### 【現状】

本学の設置母体である学校法人川崎学園が令和2（2020）年に創立50周年を迎えたことを機に、本学では大学の理念の見直しを行い、「人間（ひと）をつくる 体をつくる 医療福祉学をきわめる」と定めた。また、学内の各種方針についても点検評価委員会を中心に、必要な点検と必要に応じた改訂を順次行い、時代に即した教育を推進している。本年（2022年）4月にはキャンパスを岡山市北区中山下に新築移転し、川崎医科大学総合医療センター、令和5（2023）年開院予定の川崎医科大学高齢者医療センターと共に岡山キャンパスと位置付け、教育環境を整備した。また、移転に併せてそれぞれの学科名を看護学科、医療介護福祉学科に改名した。

本年度は、看護学科は指定規則改正に伴う新カリキュラムを開始し、旧カリキュラムとの同時進行による不都合が起きないように対策を取りながら細部に亘る調整を行う。医療介護福祉学科においては、3年制教育課程への変更の2年目であり、2年次のカリキュラムをスムーズに遂行するとともに3年次に行う医療系分野教育の要である病院実習に向けた準備を入念に進める。

このような現状のなか、以下に示す教育理念・目的・教育目標に基づき、社会の要請にこたえ得る医療福祉人の育成に引き続き努めていく。

#### 〔教育理念〕

川崎医療短期大学は、大学の理念のもと、社会に貢献できる専門的な医療福祉人を育成することを教育理念とする。

#### 〔目的〕

川崎医療短期大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、有能にして社会の要請にこたえ得る医療福祉関係の専門技術者並びに業務従事者を養成することを目的とする。

#### 〔教育目標〕

川崎医療短期大学は、大学の理念と教育理念のもと、目的を実現するために以下のような教育目標を設定する。

1. 健やかな心と体をもつ。
2. 医療福祉の専門的知識・技能を身につける。
3. 自ら学び続ける精神をもつ。
4. 多様な人々を理解し共感する心を育む。
5. 医療福祉人としての高い倫理観と責任感をもつ。

これら大学の理念を始めとする各種方針を、新入生に対して入学時合同研修や必修科目である「保健医療福祉概論」で講義したほか、上級生に対しても継灯式（看護学科）や実習開始式（医療介護福祉学科）など機会あるごとに意識付けを行った。また、大学ホームページやキャンパスガイド等を用いて、広く社会へ周知している。

看護学科では、令和4（2022）年より改正される指定規則に対応した新カリキュラムにの

っており、1年次の教育課程を無事遂行できた。医療介護福祉学科においては、次年度新たに始まる病院実習の準備として病院看護部との実習打ち合わせ会の開催や喀痰吸引等実地研修も実施し、学生の病院実習に向けて調整した。

新キャンパスでの1年が経過することから、学生の教育体制や学内生活のニーズを掴むべくアンケート調査を実施し、その結果は「7. 内部質保証 (3) 学生による評価」で示した。

#### 【課題】

昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症による教育への影響が継続している。感染防止対策を充実させ、本年度は講義においては全て対面で実施することができたが、臨地実習においては、実習施設の事情により実習受入れへの条件が課されたり、実際の体験機会の減少など課題は継続している。また、学科や大学行事も徐々に開催されるようになってきたが、感染拡大以前の状況までには至らず、学生の社会性や行動力等を育む機会は減少している。

本年度は、キャンパス移転に伴う学習環境・学生生活支援体制の変化と両学科のカリキュラム改正に伴う教育体制の変更が重なっているため、これらの事柄が効果的な学修成果の獲得等に結びついているかを継続的に検証することが必要となる。

#### 【改善への方策】

感染防止対策を十分にとりつつ、学科・大学行事を感染拡大以前の状態までに可能な限り戻し、大学生らしい活動ができるように取り組む。臨地実習においては、各施設と大学間の連携を密に図ることにより学生の学びの機会を確保する。カリキュラムの改正や学習環境の変化による学修成果の獲得に影響が及ぼさないように、学生に対するアンケートや学生を交えたFD活動によって学生の意見聴取を行うと共に、学年担任を中心にきめ細やかな指導により、十分な学修成果の獲得と教育目標の到達を目指す。

## 2. 教育課程

### (1) 教育課程の点検と改善

令和4（2022）年度入学生から、看護学科は「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」の改正による新カリキュラムでの教育を開始した。一方医療介護福祉学科は令和3（2021）年度「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」の改正があり、それに対応するとともに3年課程へ移行した新カリキュラムでの2年目の教育となった。

また、本学は令和4（2022）年4月から岡山キャンパス（岡山市北区中山下）に移転となり、新校舎での教育を開始した。松島旧校舎棟とは設備をはじめ面積や収容人数が異なる講義室が配備されたため、教育を実施しながら教育環境の調整・改善を図った。さらに看護学科では新・旧カリキュラムに伴う川崎医科大学、川崎医科大学附属病院、川崎医療福祉大学及び川崎リハビリテーション学院所属の非常勤講師の担当科目を調整し、新カリキュラムの医学系科目は隣接する総合医療センター所属の医師等を新たな非常勤講師として招聘した。

令和2（2020）年1月から日本国内でも発症が認められた新型コロナウイルス感染症は、変異を繰り返しながら新株に移行しつつあったが、令和4（2022）年度は感染予防に留意しながら1年を通して対面での授業が継続できた。実習施設等では本年度も受入れ学生の人数制限、患者や利用者との接触時間制限が続いたが、制約があるなかでも全ての学外実習科目において臨地実習が実施できた。

### 1) 教育課程の点検

#### 【現状】

令和4（2022）年4月から岡山キャンパス新校舎に移転した。教育に当たっては時間割を調整し、限られた講義室を有効に活用している。

体育系科目と医療福祉大学所属の非常勤講師の一部授業科目においては、体育館がある松島キャンパスで開講し、看護学科・医療介護福祉学科とも基礎分野を履修する1年次生は前期に週1回を松島キャンパスで授業を受講した。また、看護学科は本年度入学生から改正された新カリキュラムでの教育が始まり、2年次生以上の旧カリキュラムでの教育と並走することとなった。そこで旧カリキュラムの医学系科目は、従来どおり医科大学・附属病院所属の非常勤講師の授業を前期のみ週に1回松島キャンパス体育館で開講した。松島キャンパスでの授業実施日には、非常勤講師の対応、視聴覚機材の調整及び災害時の学生誘導等の役割目的で両学科教員または事務職員が1人体育館に駐在した。1年次科目を受講する必要がある、別途開講等の旧カリキュラムに該当する再履修生は、少人数であったため岡山キャンパス自修室を活用して授業を実施した。医療介護福祉学科は3年課程の完成年度をむかえる令和5（2023）年にむけ、医療に強い介護福祉士の養成を図るため実習委託先病院と実習計画の最終調整を行った。

全学年を対象に学修成果の達成状況等の調査を実施した（表2-1）。令和4（2022）年度卒業生は、医療介護福祉学科は3年制への移行のため在籍者がおらず、看護学科のみの学生を調査対象とした。学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の達成度は、構成する5つの方針について「達成したと思う」「おおむね達成した」と答えた学生はいずれも90%を超

えており、例年に比べ高い結果となった。特に「誠実で礼儀正しく、社会の規範を遵守できる倫理観が育まれた」という項目は 97%と非常に高かった。学修成果を図る一つの指標である授業科目別 GPCA (Grade Point Class Average) では、基礎分野 (基礎科目全体) 3.12 と前年度の 2.97 より上昇がみられた。1 年次生については、専門基礎・専門分野への理解を促す導入 (補完) 教育に相当する看護学科「自然科学入門」の GPCA の低さが昨年度の逼迫した課題であった。授業担当者の変更、教科内容や教授方法の見直し等大幅に刷新したところ、GPCA は大きく改善した。教科目全体での GPCA の結果では、専門基礎分野・専門分野の GPCA の平均は、両学科共にほぼ昨年同様の結果であった (表 2-2)。教育体制に関する満足度においても「自然科学入門・生物・化学などが自分のレベルにあっているかどうか」は、昨年度は「レベルが高い」と答えていた学生が 50%であったが本年度は 30%に減少し、昨年度より学生の学力に見合った内容に改善された。しかしまだ 3 割の学生が自分の学習能力よりレベルが高いと感じている (表 2-1)。

カリキュラムマップ・カリキュラムツリー・ナンバリングを用いた教育課程の編成は各学科及び教務委員会で検証した。カリキュラムマップの各科目とディプロマ・ポリシーの関連について問題状況は発生していないが、看護学科の新カリキュラムでは時間割上、「人体の構造と機能」で脳神経の解剖・生理を学習する前に「病態治療学Ⅱ」の脳神経系疾患を開始することになり、学習順序を適正化していくことが必要である。医療介護福祉学科は、3 年制に移行して 2 年目であるため、完成年度を迎えてから教育課程全体の検証に入る。また看護学科は令和 3 (2021) 年度卒業生からディプロマサプリメントを発行しており、教育成果の評価の精度を上げるために今後はデータを蓄積し、成果を分析し教育の質保証へと活用していく。

#### 【課題】

令和 5 (2023) 年度は、医療介護福祉学科が新カリキュラムの完成年度をむかえる。3 年課程への移行後初の卒業生を送り出す年であり、教育課程の点検・評価を実施し課題があれば速やかに対応していく。専門基礎・専門分野への導入 (補完) 教育の位置付けである「自然科学入門」については、入学生の学力低下が懸念される昨今、その役割に期待が懸かっている。この科目は授業方法や内容の大幅な見直しによって GPCA の改善はみられたものの、入学時の基礎学力の高低差から「レベルが高い」、すなわち授業についていくのに苦慮している学生がまだ 3 割程度存在する。また、看護学科では脳神経の解剖・生理と脳神経系疾患の順序性が課題としてある。したがって令和 5 (2023) 年度にはこれらを改善していく。

#### 【改善への方策】

「自然科学入門」については、年々受講生の基礎学力に懸隔ができてきているため、到達目標を下げるのではなく、基礎学力が十分そなわっていない学生に準拠した教授方法に転換し、対象学生へは補講や課題等で目標達成を支援することでより効果的な導入 (補完) 教育を目指す。看護学科の脳神経系疾患については、解剖・生理を学ぶ「人体の構造と機能」と「病態治療学Ⅱ」の進捗を細部にわたり調整し、順次性に配慮した授業計画を実施する。

## 2) 教育方法の改善

#### 【現状】

令和 4 (2022) 年度から看護学科では新カリキュラムによる教育が始まり、医療介護福祉

学科は3年課程のカリキュラムが2年目を迎えた。前回の点検評価で、新型コロナウイルス感染症の影響下での遠隔授業に関して、改善の方策を計画したが本年度は全ての授業を対面で実施することができた。授業方法の改善目的で始めた学生参画のFD・SD研修会も4年目を迎え、教育改善への取組を継続して実施できている。授業評価結果に関しては、昨年度評価が最も低い項目であった授業外学習（予習、復習を含む）について、学生からの意見も含め授業方法の工夫を依頼した。その結果、令和4（2022）年度の「学生による授業評価」では、前期4.2、後期4.0と大幅な改善が見られた（表2-3）。学生からの講義改善への提案では、小テストなどがある授業は予習や復習をするが、教員から講義内容をまとめてあるプリントが配付される授業は、自分で改めてまとめノート等を作成していないという意見があった。

#### 【課題】

課題の提示やプリントを活用することで授業外学習（予習、復習を含む）時間については改善がみられているものの、一部の学生は学習時間がかなり少なく、学習に関する学生の主体性が十分育まれているとはいえない。将来の医療福祉専門職者として、学生が主体的に学習に取り組めるような工夫が必要である。

本学では、教育方法の改善としてFD・SD研修会（学生参画のFD・SD含む）と教員相互の授業参観（事務職員も参観し授業改善にむけ協力する体制あり）がある。教育方法の改善のために、教員相互の授業参観を活用することも今後の課題とする。

#### 【改善への方策】

自主学習を進めるためには、まとめてある講義プリントではなく、自分でまとめる講義資料にすることや、事前に自己学習できるような小テストなどを取り入れるよう教員に周知を図っていく。また、学生参画FD・SD研修会を継続して実施するなかで、より学生の自主性を発揮できる方法を学生とともに検討していく。教員相互の授業参観については、FD・SD委員会が中心となって運用を促していく。

### 3) 学修に関する支援

#### 【現状】

本学が全学的に実施している学修支援は、①入学前学習、②新入生オリエンテーション、③社会人基礎力の養成、④個別指導の強化、⑤教材のWeb化である。さらに各学科においては、基礎学力支援、国家試験対策等きめ細やかな支援を行っている。

本学は医療福祉大学・リハビリテーション学院との3施設合同入学前教育プログラム（Kラーニング）を開始して2年目をむかえる。各施設・学科で入学後の学修と関連の高い学習教材を選択することができ、本学では数学・英語・国語・医療福祉基礎の4科目を選択している。また、本学独自の入学前教育であった漢字ドリルや新聞の書き写し、各学科の課題等はDラーニングとして継続している。Kラーニングでの基礎学力テストの結果は、担任・アドバイザーに提供し、選択科目の履修指導に活用した。さらに提出状況に問題があった学生の情報も担任・アドバイザーに提供し、入学後の学修指導に生かした。

入学後の学習方法をより深めるために入学前学習と付随させて12月と3月にキャンパスカミングデイを開催した。本年度も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、昨年度に引き続き来学とZoomのハイブリット型で開催した。Zoomでの参加は、12月は全参加者のう

ち25%、3月は13%と、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行への目途がついた3月は、Zoomでの参加が減少し来学者の割合が増えた。前年度の課題であった参加率については、本年度は開催案内を専願入試及び学校推薦型選抜後期の合格通知書に同封したことが功を奏し、12月開催の第1回目の参加率が昨年度29.7%（専願参加率33.0%）、本年度58.8%（専願参加率72.2%）と30ポイント近く上昇した。しかし、3月開催の第2回目に関しては、昨年53.9%（専願参加率54.9%）から本年度43.1%（同48.6%）と参加率の低下がみられた。これには開催時期を昨年度より2週間近く早い時期に設定したことの影響が考えられる。

第2回キャンパスカミングデイでの強化授業に関しては昨年度と同様、「役に立った」「少し役に立った」とあわせると94%の学生が満足していた。一方、Kラーニングの難易度を尋ねたところ、英語・国語・数学は「少し難しい」「かなり難しい」をあわせて73.2%、医療福祉基礎は「少し難しい」「かなり難しい」が58.5%と半数以上が難しいと感じていた。ほとんどの学生が入試において基礎学力確認テスト（英語・国語・数学）を受けて合格しているにもかかわらず、入学前学習を難しいと感じていることがわかった。このことは合格者の基礎学力確認テストの高低差を鑑みると相応の結果といえる。

第2回目開催時にキャンパスカミングデイに何を期待して参加したかを聞いたところ、友達づくりと答えた者が22人（53.7%）と最も多く、次いで学校の雰囲気を知りたい7人（17.1%）、4月からの生活について5人（12.2%）、疑問の解消・不安の解消・強化授業がそれぞれ2人（4.9%）ずつと、参加者は学習より友達づくりに重きを置いている。教務委員会としては特に3月開催のキャンパスカミングデイは強化授業に力を入れているので、参加者のニーズも捉えつつ、基礎学力の底上げを目指していきたい。

新入生オリエンテーションでは、短期大学設置基準である1単位は45時間の内容を持って構成する、すなわち「教室等での授業時間」＋「準備学習や復習の学習時間」＝45時間というものが基本的な大学教育であることを強調し、学習習慣・授業外学習の重要性を説明した。

社会人基礎力に関しては、該当する14項目を昨年度から卒業年次生を対象に調査（表2-1）している。一昨年の調査で、「コミュニケーション能力」の項目が低かったため、社会人基礎力を高めることを教育目標の一つにしている「保健医療福祉概論」の授業で、次年度からは社会人基礎力養成講座（医療福祉人としてのコミュニケーションの基本と実践）の時間を2時間から4時間に授業計画を修正した。令和4（2022）年度卒業生については、14項目中11項目で80%以上の学生が在学中の教育で「大きく増えた」「増えた」と答えている。しかし、「コンピューターの操作能力」「グローバルな問題の理解」「プレゼンテーションの能力」については昨年と比べて「変化なし」が多く、今後の課題が示唆された。

本学ではGPA活用の一貫として、GPAや出席状況を基に学修意欲の低下に伴う留年が予測される学生を抽出し、学習や生活支援・指導を行う学修支援を運用している。その学修支援の対象学生選出の基礎となる「成績不振学生への学修支援要領」の点検により医療介護福祉学科の支援基準を一部変更して運用した。

川崎学園3施設（本学・医科大学・医療福祉大学）の共通システムとして、Web上への教材の公開、教材サイトや動画サイトなどのマルチメディア教材へのアクセス、レポートの提出など、eラーニング等に対応可能な講義機能を含んだ教育システム「Web Class」がある。



本学では令和4（2022）年度から、このシステムの運用を開始することになった。ただし、まだ教員間でのICT活用技術の格差が大きいため、本年度は教材・資料等の全面移行は据え置き、「Moodle」の併用利用も可能とした。全学年対象の満足度調査（表2-1）では、「Web Classなどのeラーニング教育」については「とても満足している」「満足している」と答えた学生は55.0%であった。学生が活用しやすいWeb上の教材について、本年度もFD・SD委員会と教務委員会が協力し「Web Class講習会」を実施した。

#### 【課題】

入学生の基礎学力の向上のために、入学前学習の充実が大切である。なかでも本学ではキャンパスカミングデイの参加率を上げることを課題として捉えている。受講した学生へKラーニング・Dラーニングの難易度を調査するだけでなく、それらが入学後に役立っているかどうかを検証することが不可欠である。一方社会人基礎力については、在学中にあまり進歩がみられなかった「コンピューターの操作能力」について改善していきたい。ペーパーレス化が進む中、コンピューターの操作能力にも関係する「Web Class」での資料提供や自己学習の充実を図る必要がある。このことは学生のコンピューターの操作能力の修得にも役立つ。そのうえで「Web Class」や「eラーニング教育」についての学生の満足度を高めていきたい。

#### 【改善への方策】

次年度もキャンパスカミングデイの案内はホームページだけでなく、合格通知書に同封する。この時に第2回目の開催日時も明記し、第2回目の参加も進めていく。特に強化授業を設定している第2回目のキャンパスカミングデイでは、専願入試での入学予定者の8割以上が参加することを目標とする。入学1年後にDラーニングだけでなく、Kラーニング・キャンパスカミングデイ等入学前学習が日々の学修に役立ったかどうかも確認していく。また、学習支援のツールとして「Web Class」の活用を積極的に進めていく。そのための教員への支援として研修会だけでなく、教務委員会学習管理システムワーキンググループが相談や技術補助を中心にサポートしていく。学生へも授業外学修に「Web Class」を利用するよう働きかける。

## (2) 各学科の教育効果の推進に向けての取組と学修成果

### 看護学科

#### 1) 教育方法の改善

##### 【現状】

##### ① 新カリキュラム初年度実施と新旧カリキュラムの運用

指定規則改正により新カリキュラム（表2-4）を令和4（2022）年度からスタートさせた。新設科目の「看護フィールドワーク論」では、地域踏査を通して地域住民の暮らしを学ぶフィールドワーク教育を導入し、地域包括支援センターの支援活動の見学も行った。「病態治療学」では最新の医学知識から臨床判断の実際を教授し、2年次からの看護専門学習へスムーズに移行できるようにした。基礎看護学「ヘルスアセスメント」では解剖生理学を土台に看護診察技術の強化を図る授業を展開した。

令和4（2022）年度は、新旧カリキュラム混在により履修計画の複雑化が予測された。対象となる再履修生に支障をきたさないように時間割調整を行った。

## ② 新キャンパスでの授業展開

### (ア) 岡山-松島キャンパス間の移動

ほとんどの授業は岡山キャンパスで実施できるが、「健康体育基礎演習」は医療短期大学及び医療福祉大学の体育館で行われるため1年次前期は週1回松島キャンパスでの履修とした。学生にとってキャンパス間移動により、学習活動に支障がないよう生化学や倫理学などの他科目も松島キャンパスで受講できるように時間割調整を行った。

### (イ) 授業環境の工夫

看護実習室は2室がスライディングウォールで仕切られ各15台ずつベッドが配置されている。各実習室で別項目の技術実習が行えると共にスライディングウォールを取り外すと30ベッドで同一項目の実習が行えるなど、学習内容に応じて多様な実習展開の工夫ができた。さらに補助教員の増員やデモンストレーション時にビデオ撮影した画像を大型スクリーンに投影し、手元の作業を学生が確認できる設備(ATOMシステム)を整えたことで、更にきめ細かな実技指導を可能とした。

新キャンパスにおける看護学科の主な講義室は、大中の講義室各2室である。前期は1・2年次、後期は1・3年次の科目で大講義室を使用し、2年次科目は中講義室2室をABクラス別に使用した。10室ある自修室も領域別の学内実習や少人数学習室として活用するなど学生にとって学びやすい学習環境が提供できた。

#### 【課題】

令和5年(2023)年度は2年次科目が新カリキュラムに移行し、下位学年科目の履修生増加が予測されるため、新旧読み替えや別途開講科目の開講により、適切に履修できるよう時間割調整が大きな課題となる。しかし、時間割確定時(1月)には成績が判明せず、次年度の旧科目履修生は確定していない。そのため、3月の成績通知後に個別に履修登録指導を行うが、学生によっては新旧科目の履修調整が難しい可能性がある。

昨今のパソコンを利用した教育環境の充実から、今後の電子教科書導入は喫緊の課題である。しかし、教員は各々の教育目的を基に教科書を選定している現状があり、電子教科書による教科書出版社の偏りと多様性のある教育のバランスについても検討する必要がある。

#### 【改善への方策】

次年度の新旧カリキュラムが混在した授業計画において、特に成績不振の学生個々の科目履修状況をチェックし、適切に履修ができるよう指導していく。

電子教科書導入に向けて本学科に適した方法で実施を検討する。また、電子教科書導入に有用な機種(タブレット)とIT教育で知識技術の習得に有用な機種(パソコン)の双方が折り合う機種選定など、ワーキンググループを立ち上げ検討を行う。

## 2) 学外実習への取組

### 【現状】

#### ① 新型コロナウイルス感染症下における実習指導改善への取組

臨地実習においては、各実習施設と新型コロナウイルス感染対策の方針や基準を確認しながら、学生、患者・利用者の安全確保を第一に展開した。臨地実習実施日数の割合が(コロナ禍前の全期間を100%とすると)昨年度の48%から85%まで戻った。しかし、患者・利用者へのケア介入時間の低減など対人接触の機会が少ない状況は続いた。

本学科では、ウィズコロナ対応における臨地実習の代替教育として各領域で学内実習の充実を図っている。その中で成人看護領域では、昨年度文部科学省の大学改革推進等補助金で整備した多職種ハイブリッドシミュレータを活用し、新たな学習プログラムを実施した。演習後の調査では「状況判断力」「アセスメント力」「観察力」「対象のおかれた状況理解」が身についたと回答しており、臨床の再現性の高いシミュレーション教育と臨地実習を組み合わせるにより看護実践力の向上に繋がることが示唆された。

#### ②新カリキュラムの基礎看護学実習Ⅰ

カリキュラム改正の要点の一つとして「コミュニケーション力の強化」があげられている。1年次履修の「基礎看護学実習Ⅰ」では、令和4（2022）年度より新たに患者とのコミュニケーションを図る体験学習を組み入れた。学生による授業評価ではコミュニケーション実習への肯定的評価がみられ、看護への関心を高める結果となった。

##### 【課題】

令和4（2022）年度より始動した成人看護領域のシミュレーション教育や基礎看護学実習Ⅰのコミュニケーション教育のように、看護実践能力を育成するためには実践と思考を連動させながら学習させる必要がある。また、2年次履修の「基礎看護学実習Ⅱ」が令和5（2023）年度より実習単位が1単位増え3単位となる。実習期間の延長とこの実習で受け持った事例で一連の看護過程を学習する。最終学年の領域別実習を見据え、看護過程の展開ができる基礎力をつけるため、具体的な実習方法の検討が課題となる。

##### 【改善への方策】

シミュレーション教育を臨地実習と組み合わせ、看護実践能力向上に向けた教育方法を検討していく。また、「基礎看護学実習Ⅱ」は、実習目標到達に向け3週間の実習内容・方法から実習評価に至るまで具体的な指導案を立て臨床側へ協力を依頼する。

### 3) 学修成果

#### 【現状】

#### ① 令和4（2022）年度卒業生の学修成果

##### (ア) 学修成果の把握とディプロマサプリメント

卒業時の学修状況を調査した結果、看護学科ディプロマ・ポリシーの5項目の達成度は、92%以上が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答し、多くの学生が看護学科のディプロマ・ポリシーに沿った能力を身につけたと自己評価している。また、看護学科の学修成果達成度では、「看護の専門知識を身につけることができた」「看護職としての社会性・倫理観を身につけることができた」「対人関係能力を身につけることができた」と答えた学生は95%を超え、他の2項目も93%を超え高い達成状況を示した（表2-1）。一方、学修成果の5つの能力の獲得状況をディプロマサプリメントとして昨年度導入し可視化した。これは、3年間の学びの総括的評価をするために、臨地実習評価表を活用し評価したものである。昨年度の結果から評価基準の設定において知識面と知識面以外の4項目の評価の偏りが課題となった。そのため知識面以外の4項目のルーブリック型評価基準（4段階評価）を見直すことで項目間の不均衡は是正した。各項目の学修成果は、昨年度と同様に「社会性・倫理観」が3.6と最も高く、次いで「看護の探究力」2.9、「対人関係能力」2.9、「科学的根拠・思考に基づく看護実践能力」2.7、「看護専門知識」2.25という結果であった。

本学科では学修成果を卒業時到達度の評価だけでなく、学修成果の積み上げに至るプロセスに目を向け、学習への内発的動機付け、学習途中の形成的評価に活用している。目標達成までの途中段階で到達状況を振り返り、各学生の課題を明らかにして、学生自身も自己課題に気付くことでその後の学習の動機付けにもなり、目標をもった取組が可能になっている。

#### (イ) 看護師国家試験合格状況と進路

国家試験受験対策として3年次の早い時期から国試チューター教員の指導を受けられる体制をつくり、外部講師による特別補講や全国模試・学科内模試の受験機会を増やした。全国模試の結果から成績低層の学生を学力強化チームとして編成し、適宜面接を行って学習計画の見直しや実施確認など学習支援を行った。その結果、第112回看護師国家試験合格率は95.8%で全国90.8%を上回ることができた(表2-5)。

進路状況は就職率100%、進学者は大学編入者1人であった。修業年限内に卒業ができなかった学生の留年率は昨年度よりやや増加した。体調不良による療養や適性に悩み休学に至った学生に対しては学生の思いを丁寧に確認し、必要時は保護者とも面談した。退学率は低減できたものの、留年の最多要因は成績不振によるものであった。

#### ② 分野別 GP 分布

各科目のGPCA平均得点を分野別にみた。例年と同様に看護の専門的な学習が深まるにつれ学習難易度が上がっており、GPCAも基礎科目が最も高く、専門基礎科目、専門科目の順に低下していた。特にGPCA2.0を下回る看護専門科目は、昨年度は1つの看護学領域に限定されていたが5領域で下回っており、2年次科目にその傾向がみられた。

#### 【課題】

全国的に大学入学生の低学力化が問題視されており本学科も同様の問題を抱えている。これまでの国家試験不合格者の内訳をみると現役生より留年経験者の割合が多い傾向にある。留年者の特徴として、基礎学力不足や学習習慣の欠如、読解力・課題探究力・論理的思考力の低さなどがあげられる。より専門性の高い科目を履修する2年次において不認定科目を有する学生が増加する要因でもある。また、再履修科目を多くかかえる学生より、再履修科目が少ない学生の方が空き時間が多く学習に取り組むやすい環境にあるものの、実際には有効に時間活用できていない現状もある。学習面に課題のある学生を低学年時から把握し、成績低迷者の底上げをしていくためにも課題探究や深掘りする学習法の修得、自律学習に向けた支援など学力向上に向けた対策が必要である。

成績評価については、国家試験合格を目指すため、知識・思考・理解力などを重視した観点評価となる筆記試験結果の重み付けが大きく、絶対評価で成績判定をしている。専門科目のGPAが低い影響要因とも考えられるが、筆記試験の難易度を下げることが学習到達度達成にはつながらないため、評価基準や評価方法の検討も課題となる。

#### 【改善への方策】

留年生の低減を図るためには、入学後早い段階からの学習の動機付け、学習習慣の身につけ方、課題探究や深掘りする学習方法の指導など、基礎的な知識を着実に修得できるようにする。定期試験後に成績不振が判明する段階では遅いため、早期発見・早期サポート対策を行う。1年次生には担任とともにアドバイザー教員も加わり学習・生活支援を行うシステムにしているが、専門的学習が進み難易度が上がる2年次生への学習サポート体制づくりも

検討する。オフィス・アワーを活用し個別指導できる補習体制を整える。学習環境として図書館や自修室、学生ラウンジなど授業以外で学べる場所が整備されているので、時間と空間の有効活用を促す。また、成績評価では可・不可の割合が極端に多い科目において到達目標設定の見直しや、筆記試験の重み付けを軽減し小テストや課題提出、プレゼンテーションなど多元的評価による総合評価の検証を進めていく。

## 医療介護福祉学科

### 1) 教育方法の改善

#### 【現状】

令和3（2021）年4月から本学科は医療介護福祉の3年制教育に移行した。これまでの2年課程の教育をベースに、新たに3年次に医療系分野（医療福祉系科目群、実習科目群、マネジメント系科目群）を加えたカリキュラムに沿って、3年次の時間割の作成等を進めている。

岡山キャンパス移転に伴い、中国四国厚生局による介護福祉士学校指導調査を受けた。実習に関して、実習時間は基準を満たしているが、実時間と申請の時間に差があるため実態に即した形に変更すること、実習要項に休憩時間を記載し、実習時間が把握できるように記載する旨の指摘があった。指摘事項としてあがった実習日数、時間について検討し早急に対応して改善を図った。

#### 【課題】

3年次の医療系分野では、介護福祉士教育として初めて5週間の病院実習を導入する。この実習において最大限の教育効果を上げるために入念な準備が必要となる。

#### 【改善への方策】

令和5（2023）年度の実習開始に向けて、実習先の病院と実習連絡会を開催した。学園内2病院を含む9病院から19人の参加があった。1、2年次の実習での学びを踏まえた病院実習の目的、目標と喀痰吸引等実地研修について協議した。次年度に初めて介護福祉士の実習を受け入れる病院が多く、今後も実習病院の看護部と連携を取りながら、実習がスムーズに行えるように調整を行っていく。喀痰吸引等実地研修については、実習直前に同意の得られた患者の有無について把握した上で、実地研修に取りかかることを説明し、協力依頼をした。

### 2) 学外実習への取組

#### 【現状】

本学科では、1年次に介護実習Ⅰ-1、介護実習Ⅰ-2、2年次に介護実習Ⅰ-3、介護実習Ⅱを開講している。これらの実習を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の修得を目指している。本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一部学内実習となったが、行動ルールに沿って感染予防対策を徹底した上で、実習先の理解を得て実習を行うことができた。

#### 【課題】

新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いてきているが、次年度以降も感染予防対策を徹底した上で実習ができるように学生指導を行う。地域包括ケアシステムの構築に向け、こ

れからの介護福祉士に必要となる「病院から福祉施設まで」医療の知識を生かした介護の展開ができるよう3年次に病院実習に加え、地域介護実践実習を次年度より導入する。

#### 【改善への方策】

地域介護実践実習を導入するにあたり、次年度の介護実習指導者連絡会に向けて、3年次実習要項を作成して、地域介護実践実習の目的、実習目標を実習指導者へ説明する予定である。通所系事業所で介護過程を展開する実習は初めての試みであり、実習指導者の理解が不可欠となる。今後も実習施設と連携を取りながら、実習がスムーズに行えるように調整を行っていく。

### 3) 学修成果

#### 【現状】

本学科は、国家資格取得を目指す学科であり、資格取得率、就職率も学修成果の検討材料である。本年度は卒業学年がおらず、国家試験の受験はしていないが、学科の支援としては、1年次から基礎学力支援及び模擬試験受験を実施した。2年次では医療介護福祉総合演習Ⅰ・Ⅱにおいて、小グループでの国家試験受験対策を行っている。学生個々の学力差があり、学習方法をそれぞれの学生に合わせて選択して、苦手とする科目を克服できるよう指導している。特に、「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」「障害の理解」の3科目に焦点を当てた対策を実施した。具体的には、人体の構造について臓器の絵を描き、しくみについて理解した上で、疾患の理解、生活する上で気をつけることを調べ、国家試験対策としてだけでなく、その知識を生かしたアセスメントができるように対策を強化している。

#### 【課題】

学習が進むにつれ、レジュメに記入できていない、資料をファイルできていない学生が出てくる。その状態のまま期末試験を迎えると、再試験科目が多くなる傾向があるため、早い時期から担任やアドバイザー、各科目担当教員による継続的学修支援を行うことが必要である。学習習慣がついていない学生もおり、復習プリントを取り入れて、学習時間の確保につなげる必要がある。

#### 【改善への方策】

2年次になると国家試験対策に向けて学力別の教育を行い、特に成績不振学生に対しては個別の学習方法を指導している。基本的な理解ができていることが学習の前提となるため、授業内でのレジュメ記入、資料のファイリングができているかといった基本的事項をしっかり確認をとり、担任やアドバイザー、各科目担当教員が早めに学習進度を的確にチェックし、その都度意識付けを行う。

### 3. 学生の受け入れ

#### (1) 素質のある学生確保

##### 【現状】

本学では素質ある学生の確保に向け、平成 28 (2016) 年度から発足した川崎学園アドミッションセンターのもと、戦略的に入試広報活動及び学生募集を行っている。令和 4 (2022) 年度入学生は両学科とも入学定員を充足することができなかつたため、全教職員をあげて学生募集に努めた。広報活動に際して所属する学科の広報だけでなく、本学両学科の PR ができるよう、本格的な高校訪問を開始する前にそれぞれの学科のアピールポイントを周知する研修会を開催した。また、新型コロナウイルス感染症の影響による進学先の地元志向を踏まえ、県内及び近隣県の指定校を大幅に増加した。これにより看護学科では令和 5 (2023) 年度指定校での受験者数が前年度の 15 人から 21 人に増加した。また、医療介護福祉学科は指定校の調査書評定平均値の下限を変更し、素質ある学生の確保に努めることとした。

また新たな試みとして、広くステークホルダーに本学の魅力を知ってもらうため OHK 岡山放送「TV オープンキャンパス OH! キャン博」に参加した。また本年度はアクリル板やフェイスシールドなどを用い、感染予防に留意しながら全てのオープンキャンパスで、対面での体験や相談を実施することができた。医療福祉大学会場で開催される 3 校合同オープンキャンパス時にも、岡山キャンパスにある本学を見学できるよう午後からはチャーターしたバスで新校舎での見学・相談会の参加を促した。しかし本年度の学園祭も、外部からの来場者を制限したため、学園祭と同時開催していた進学相談会ができなかつた。そこで別途 10 月に本学単独の入試・進学相談会を開催するとともに、10 月・11 月には高校生が放課後気軽に本学に立ち寄れるよう、「いってみよ！放課後キャンパスツアー」を毎週実施し、本学の魅力を積極的に PR した。(表 3-1)

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も徐々に薄まりつつあり、県外会場も含め会場型での相談会やガイダンスも昨年度より増え、高等学校で実施のガイダンス(県外 7 校、県内 23 校)、県内進学相談会 10 回、高校訪問 383 校(県外 206 校、県内 177 校：看護学科 161 校、医療介護福祉学科 222 校)で実施できた。また本学だけでなく川崎学園が実施する対外的行事の PR も可能な大型デジタルサイネージを本学校舎壁面に設置し広報活動に活用している。

##### 【課題】

18 歳人口の減少、受験生の県内志向、4 年制大学志向、日本経済の低迷等数々の影響で、本学志願者は一昨年度 282 人、昨年度 263 人そして令和 5 (2023) 年度入試においては 258 人と減少傾向が続いており、両学科とも入学生数が募集人員を下回る結果となった。岡山キャンパスは岡山駅から近いこと兵庫県や香川県等近県からの志願者増加を期待したが、姫路・相生・坂出・高松等他県通学圏内の志願者は思ったより増加しなかつた。さらに高校訪問時に本学キャンパスが、倉敷市から岡山市へ移転したことも周知されていない事実と直面することがあった。本学の交通の利便性のよさを含め移転を周知し、広報活動を展開することが急務である(表 3-2、3-3、3-4)

##### 【改善への方策】

10・11 月に開催した「いってみよ！放課後キャンパスツアー」は高校生にとって在学

が勉学や生活している大学内を見学でき好評であり、受験にもつながった。次年度は4月等早い時期から開始し、オープンキャンパスの参加や受験生獲得に活用する。また指定校の枠を広げ素質ある学生の確保に努める。ガイダンスや高校訪問の機会を生かし、他大学や専門学校とは異なる本学両学科の教育や優れた学習環境をPRしていく。従来教員が中心になって運営していたオープンキャンパスでの全体会や学科紹介を、在学生自らが表に立ち楽しく充実した学生生活を紹介し、ピア（仲間）として高校生に伝えていく。

## (2) 入学選抜方法

### 【現状】

川崎学園アドミッションセンター主導のもと、本学・医療福祉大学・リハビリテーション学院の3施設で文部科学省の改革に沿って入学選抜を計画し実施している。これにより「学力の3要素」を多面的・総合的に評価し、適切な入学者選抜を実施している。本年度は令和6（2024）年度入試に向けて評価基準の中の、調査書内の評価割合の適切化を図った。また令和4（2022）年度から、高等学校での新学習指導要領による教育が開始されたことを受け、新カリキュラム適用の3年生が受験する令和7（2025）年度入試に向け、高校教育に準拠した入学者選抜方法を検討した。具体的な方法や内容は継続検討中であるが、令和7（2025）年度入試の骨子は3月のオープンキャンパスの入試説明会で対象学年の来場者に告知した。

IRのデータを基に入試実行・広報活動委員会や点検評価委員会で、入試区分別の募集人員の検討を諮った。入試区分別の募集人員は現状を維持するが、本学は高等学校との信頼関係を重視しており、令和5（2023）年度入試において指定校選定数を増加させた。その中に川崎学園が鹿児島県霧島市と医療人材の育成に向けた協定を締結したことを受け、霧島市及び近郊の7つの高等学校も新たに含めた。昨年度から採用した医療介護福祉学科の、オープンキャンパスで所定の課題を行い『有資格認定証』の交付を受けた者を学校推薦型選抜前期「有資格」枠で受験できる選抜方法は、本年度は認定証発行6人中、3人は総合型選抜で出願、2人は指定校枠で出願、1人は未受験と『有資格認定証』を活用した出願者はみられなかった。また、本年度実施の併願入試から1学科分の受験料で、3施設内の3学科までが併願できるよう運用を変更した。

### 【課題】

素質ある学生の確保のために適切な入学者選抜を実施しているが、18歳人口の減少を含む種々の影響で、受験者数の減少が続いている。そのため、今後は高等学校現役生だけでなく、既卒生の中からも本学のアドミッション・ポリシーに適う人材を発掘していくことも課題として挙げられる。また、高等学校の新カリキュラムに対応した入学者選抜について、令和5（2023）年度中に具体的な方法を決定し高等学校へ周知していくことが必要である。

### 【改善への方策】

指定校数の増幅に際して、新たな選出校や人数を増加させた高等学校に対しては、本学の優位性だけでなく、アドミッション・ポリシーやディプロマ・ポリシーを丁寧に説明し、高等学校が安心して生徒を送り出せるよう信頼関係の構築に努める。入試区分ごとの入学後の学生の学修状況の評価を実施し、募集人員の適切化を図る。学内の入試実行・広報活動委員会や点検評価委員会で、アドミッション・オフィサーやIR室から提供されるデータを元に入学者選抜方式の点検・評価を継続していく。また、社会人（高等学校既卒生）が受験し



やすい、入試区分や選抜方法を検討し、入学生の確保に努める。

### (3) 特色ある広報活動

#### 【現状】

川崎学園広報連携室と協力しながら広報活動推進ワーキンググループが中心となり、広報活動を展開している。本年度は、OHK 岡山放送企画番組「TV オープンキャンパス OH! キャン博」の制作に取り組み、地上波と Web アプリを活用し岡山キャンパスの恵まれた教育環境について広く情報発信を行った。また、SNS を活用し幅広い層へ情報を伝えるべく大学公式のInstagramを開設した。

これまで新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため高等学校教員を対象とした入試説明会が中止されてきたが、本年度は3年ぶりに3施設合同での開催となった。そこで岡山キャンパスの施設紹介や両学科それぞれの特徴や魅力についてアピールした。また、3施設の広報を担当する県外スタッフとの説明会も対面式で開催された。本学は学校行事の関係でリモートでの参加となったが岡山キャンパスへ移転したことを重ねて周知し、受験者獲得に向けた情報提供に努めた。さらに、医療介護福祉学科においては、医療知識の充実を図った3年制の教育がスタートしていることを一層周知していくため、医療知識を持った介護福祉士の仕事を紹介した学科独自のリーフレットを作成し、積極的に広報活動に取り組んだ。

#### 【課題】

さまざまな広報活動を実施しているにもかかわらず、岡山キャンパスへの校舎棟の移転が未だ十分に周知されていないことが課題である。特に、岡山市内外、近隣県の高等学校においてその傾向がみられる。本学の立地の良さ、恵まれた教育環境や特徴をこれまで以上に的確に伝えるよう、効果的な手段を講じる必要がある。1人でも多くの方々に実際に岡山キャンパスに来学してもらい、その魅力を十分感じてもらいたい。

#### 【改善への方策】

多彩な手段を活用して広報活動を展開していくなかで、従来型の広報媒体（キャンパスガイド、受験雑誌、新聞掲載等）もブラッシュアップしながら継続していく。情報発信の内容を更に充実させるため、学生と教職員、広報連携室と一体的な体制のもとで、ホームページやSNSを活用し、タイムリーに本学の魅力や教育内容等を伝えていく。

## 4. 学生支援

### (1) 学生生活支援体制

#### 【現状】

学生が生活面、学業面で困難な状況に陥らず、有意義な学生生活を送ることができるように全学をあげて支援している。

これまで実施してきた担任制とアドバイザー制は、本年度も継続した。看護学科では学年ごとに担任2人、副担任2人、1年次生はこれに加えて担任以外のアドバイザー教員を20人配置した。また、医療介護福祉学科では各学年1人の担任及び担任以外の教員がアドバイザーになっており、両学科とも入学当初から生活指導や履修登録指導などを中心に細やかな支援を行っている。校舎構造が変わり、学生が相談のために教員居室を直接訪問することはできなくなったため、eポートフォリオやTeamsなどを利用した学生・教員間の連絡手段をオリエンテーションして、教員に直接連絡が取れるように指導した。この方法は学生から教員への連絡方法としてかなり定着してきている。教員は学生への一括連絡や簡単な個別連絡にこれらを利用して迅速に伝達しており、定期的あるいは必要時・随時の個別面談などは対面で支援を行っている。

新入生オリエンテーションは、4月1日から4月7日まで、入学式をはさんで日曜日を除いた6日間で実施した。約1週間で学生生活導入に必要な指導・支援をほぼひと通り行った。感染状況が比較的落ち着いた時期であったため、対策を講じたうえで、従来と同様に2学科合同で行うものや学科別に行うもの、クラス別に行うものなど、内容と座席数や設備の違いなどを考慮して教室を選択し、効果的な指導が行われるように工夫した。

また、キャンパス移転により大学周辺の環境が変わったため、例年は1年次生のみが受講している警察署員による生活安全・交通安全に関する講演を、3年次生は同時中継で受講し、2年次生には別の機会を設けて教員が指導した。これらにより安全な学生生活を送るための意識付けが行えた。

学友会・部活動は徐々に活発化してきた。活動制限が緩和され、行事は形式を変えての実施が増えた。感染者クラスターを発生させないためにその時期の状況に応じた感染対策や実施内容・方法の助言・指導を行い、学生の企画を支援した。下学年にも参加を促し、昨年度の課題であった活動の継承を援助した。また学科教員が指導して学園祭の仮装パフォーマンスに出場したことが契機となり、新たな同好会が発足した。低迷している課外活動を教職員が指導・援助し、学生の活動の場を増やすことで社会性の育成につなげている。

#### 【課題】

コロナ禍による活動制限のために部活動の継承が困難だったこと、キャンパス分離により体育館と校舎の距離が遠くなったことなどが阻害要因となり、活動が中断された部も多い。また校舎内には、以前のような部活動を実施できる場所や道具の置き場所がないため、学生は活動方法に戸惑っている部分もある。また学友会活動では活動内容・方法が変わってきている時期であるため、学生のみでの活動は難しい。

#### 【改善への方策】

学園祭への出場や部・同好会の立ち上げ、部活動を校舎内でできるような提案・調整・指導などを実施して支援する。また学生が課外活動をするときに発生する困難感に気付いて

早めに対応できるように、活動の見守りや話し合いへの参加を行うなど、次年度は活動支援を行う教員を増員する。

## (2) 健康の維持・管理

### 【現状】

本学では、学生が心身共に健康で専門職の資格取得に向けて学修が進むように健康管理ワーキンググループ、健康支援室、相談室、障害学生支援ワーキンググループ、ハラスメント防止委員会が学科と連携を取りながら支援している。

健康管理ワーキングでは、年間5回会議を開催し、学生の健康診断実施計画や感染症予防のための四種抗体検査及びB型肝炎抗体検査の実施計画を総合医療センターと調整している。抗体検査の結果、抗体価の低い学生の予防接種計画も立案し、学生の学外実習が開始される前までに抗体がつくように配慮している。新型コロナウイルス感染症の感染予防対策は、大学の行動ルールに基づいて、健康管理ワーキングのメンバーが中心となって学生指導を行った。また、年間を通して学生生活に慣れた頃にUPI健康調査（学生の心の問題をチェックする心理テスト）を実施し学生の気持ちを知る機会を設けている。

健康支援室を令和4（2022）年度は年間延べ438人の学生が利用している。大半は、抗体検査やワクチン接種相談、健康診断後の再測定等である。しかしながら1割は心身不調による相談であったり、体調不良による休息の必要だったりと継続的な支援が必要な学生がいる。相談内容によっては病院受診を勧め、また、学生相談員に繋げ、担任とコンタクトを取るなどできるだけ対応に徹している。学生相談室は年間44件の利用があり年々やや減少傾向にある。

障がい学生支援では、本年度は2件の支援申請があり、個々の学生の要望に応じた支援を継続した。支援申請をしていないが、就職に対する配慮の必要な学生もあった。

ハラスメント防止については、相談しやすい環境整備として、学内掲示ポスターとリーフレットにQRコードを設定した。また本年度も学生にアンケートを2回行い、ハラスメント知識の確認と実際にハラスメントへの遭遇の調査を実施した。実際のハラスメント相談は1件のみであったが、実習指導などで教員の指導をハラスメントと感じている学生が見られたことから、可及的に「ハラスメント防止対策—アカハラになる前に—」と題して、ハラスメントになりやすい事例を使用して、指導を受けに来た学生との対応の方法をロールプレイにより教員が学習する研修を行った。

性的マイノリティの学生への配慮として、ジェンダー・セクシュアリティに関する相談・実施の方法を整備し、主な配慮例を検討した。

### 【課題】

健康診断の日程調整には、健康管理ワーキングのメンバーで実施を担当する総合医療センターの関係者と協議を重ね決定していくために早くから連携を取りながら行うことや授業の関係を基に組み込んでいく必要がある。相談室利用に関しては、学生へ更に周知し気軽に訪室できる体制の検討が必要である。

障がい学生支援については、支援の開始から卒業後までを視野に入れた検討が必要となる。

ハラスメント防止としては、実際の相談とアンケート結果に違いがあり、相談をすること

に躊躇している面が認められるため、相談しやすい環境整備を整えることが引き続き課題である。

#### 【改善への方策】

健康診断においては年間予定を早い時期から検討していく。相談室の利用率を上げていくために掲示のみならず学生へ理解しやすい広報活動をしていくなどの手段を検討する。

障がい学生支援では、就職支援ワーキンググループとの連携が今後必要である。

ハラスメント相談窓口の設置を更にアナウンスし相談しやすい体制を検討する。

### (3) 進路支援

#### 【現状】

本学では進路支援として、就職支援は学生生活支援委員会内の就職支援ワーキンググループが、進学・編入学支援は教務委員会が行い、個別対応を学科が実施している。

就職支援では、大学主催で「身だしなみ（化粧・髪型）講座、就職活動スタートアップ講座、自己分析講座、履歴書の書き方講座、面接対策講座、社会人基礎力・マナー講座」を企画し、専門企業に依頼し実施している。身だしなみ講座は、インターンシップに行く学生にも考慮して2年次生を対象としている。他の講座は、2年次の後期から開始し、各学科の就職活動開始時期や特徴に即して合同で開催できる講座と単独学科で開催するものに分け、支援を強化している。卒業生の進路状況は表4-1であり、就職率は100%である。

令和4（2022）年度進学・編入学支援として「進学（編入学）ガイダンス」を6月と1月に実施し、延べ28人の学生が参加した。このガイダンスでは、進学や編入学の実績、資格取得別の進学経路、受験対策として専門科目・小論文・英語等の学習の仕方を説明した。特に1月に実施する第2回目のスチューデント・アシスタントによる合格体験談は好評で、下級生に対するピア・サポーターとして機能している。昨年度の点検評価の結果をふまえ、本年度は早い時期からガイダンスの時間割調整ができた。本年度は全学生の時間割上空いた時間帯に進学（編入学）ガイダンスを入れたため、Web上でのガイダンス公開は実施しなかった。進学者は看護学科から、日本赤十字看護大学への編入学が1人のみであった。

#### 【課題】

就職支援では、就職試験に小論文を課す施設が増し、添削指導が一時期に集中することと、学生が直前になって申し込むことから十分な指導時間を確保することに苦慮している。

進学・編入学支援については、スチューデント・アシスタントを担う進学合格者が1人しかおらず、合格体験談発表後の座談会が講義形式の質問会となった。小グループでの座談会のような和やかな雰囲気ややや欠けたきらいがあった。また学生から進学・編入学先をどこにするか相談する機会がほしいという要望がだされた。

#### 【改善への方策】

小論文の添削指導の受け方については、学科での就職ガイダンス時に再度説明を行う。

1年次から進学・編入学を希望している学生がおり、継続した支援が必要である。担任やアドバイザー面談では進学だけに特化した面談とはならないため、「進学（編入学）ガイダンス」時にも相談できる場を設けていく。また参加できなかった学生だけでなく、参加した学生も勉強の仕方など繰り返して確認できるよう Web Class にガイダンスの動画や資料を掲載していく。

## 5. 教員・教員組織

### (1) 教員組織

#### 【現状】

本年5月1日現在における専任教員（助教を含む）の総数は40人であった（表5-1）。短期大学設置基準で定める教員数26人を上回っている。専任教員40人に対し、学生は416人であり、「教員1人当たりの学生数」は大学全体で見れば10.4人である。学科別では、看護学科で12.5人、定員を下回っている医療介護福祉学科では3.0人となっており、いずれも学生一人ひとりへのきめ細やかな指導が可能な体制に結びついている。

本学の専任教員の採用及び昇任の選考にあたっては、教員選考規程に基づいて実施している。専任教員の専門性を補う内容及び基礎分野の一部教育にあたっては、必要に応じて川崎学園の豊富な人的資源から非常勤講師を任用して教育の質を高めている。

#### 【課題】

医療介護福祉学科は、現段階では短期大学設置基準で定める教員数10人を満たしていないが、令和3（2021）年度入学生から3年制に移行し、完成年度を迎える令和5（2023）年度には設置基準で定める教員数を充足する予定である。両学科とも専門性が求められることや近年の人員不足の社会情勢により、教員確保が難しい状況がある。

#### 【改善への方策】

本学にふさわしい教員の確保については川崎学園の人的資源の開拓や大学教育を通して若手の人材育成に計画的に取り組んでいく必要がある。

### (2) 研究活動の促進

#### 【現状】

公的研究費を適正に運営・管理するため、最高管理責任者（学長）を中心とした管理運営体制を組織し、「公的研究費の不正防止に関する基本方針」のもと、研究活動の促進に取り組んでいる。研究者等への研修に関しては、医科大学・医療福祉大学との共催等により、公的研究費の運営・管理に関わる全ての構成員を対象として、コンプライアンス等研修会、研究倫理教育研修会、科研費獲得に関する研修会等を開催している。また、新任教員に対しては、年間を通じて開催する新任教員SD研修会の中で研究活動に関する研修も行っている。その他、外部教材として、研究倫理eラーニングコース「eL CoRE」も活用している。

このように研究活動を促進している状況下において、本年度は公的研究費（競争的資金等）獲得に向けて新規で4件申請し、採択件数は2件であった（表5-2）。

研究費獲得後の監査体制としては、学内外の人員で構成された監査組織を設けており、特に総評をいただく本学園の監事との連携を強化している。11月には公的研究費を獲得している教員に対してモニタリングを実施し、12月には内部監査を実施して当該教員の科学研究費の執行状況や研究の進捗状況についてヒアリングするとともに、評価・助言を行った。また、あわせて公的研究費の管理運営体制の整備状況に関する監査を実施した。これらの監査結果は監事に報告して総評を得るとともに、今後の体制整備に関する意見ももらっている。また、モニタリングや内部監査結果については、教職員会の際に全教職員に周知し、研究活動の活性化に向けた啓発活動に繋げている。

#### 【課題】

研究者等への研修等の増加、18歳人口の減少に伴う学生確保のための広報活動、入学する学生の多様化に伴う生活指導や補充的学修支援などの各種対策の増加等によって、教員が研究活動にあてる時間が十分確保できない状況が見受けられる。

#### 【改善への方策】

各種研修会や研究倫理審査等については、医科大学・医療福祉大学の協力体制のもとに行っている現状の方法を継続することで、教員の負担軽減を図る。また、多様化した学生対応に要する時間の縮減については、全教員による組織的な生活指導や授業改善等を行い、学生の生活、学修両面において資質能力の向上を図り、自立した学生の育成に努めることで教員の研究時間確保の解決を目指す。

### (3) 研究活動環境整備

#### 【現状】

本学の教員研究費については、川崎学園大学事務局から総基準額として予算立が行われ、教員数（職階別の在職者数）、学生数、経年的実績等を勘案して学科別に積算し、割り当てられている。本年度の予算執行の内容は、表5-3のとおりである。また、本年度の教員の研究に係る機器・備品・図書等の整備状況については、表5-4のとおりである。

研究活動に関しては、本学の教員同士による共同研究、学外者との間で行われる共同研究を含め、講義・実習等による学生教育やその他の学務に差支えない範囲であれば、自由に行うことが可能になっている。また、医科大学の研究センターや学内の教育用実習室を利用することが可能な状態にある。

#### 【課題】

新校舎に移転した本年度から専任教員の教員研究室はワンフロアに配置された。専任教員が研究または実験に使用する特別な研究室や実験室などは設けられていないため研究場所や施設設備の確保が課題となっている。

#### 【改善への方策】

各教員の努力はもとより、大学としても学園内他大学との連携による研究施設の利用や共同研究に対して時間的な配慮を行うなど対策を進めたい。また、研究テーマの発掘、若手教員への指導、科学研究費獲得者による研修会等の開催によって、スムーズに研究活動が開始できるよう支援を行う。

## 6. 社会連携・社会貢献

### (1) 地域連携

#### 【現状】

令和4（2022）年度の公開講座は、新型コロナウイルス感染状況に配慮しつつ感染対策及び予防措置を十分に講じ、岡山キャンパス移転後初めて学内にて対面で開催した。7月に医療介護福祉学科による「あらためて知りたい！認知症と人とのかかわり方」、11月に看護学科による「暮らしに活かす看護の知恵 -安全に食べて元気に暮らす-」というテーマで実施した。大学と地域の連携による公開講座においては、本学教員がそれぞれの専門性を生かした保健医療や介護をめぐるテーマを設定し講師を務めた。いずれも多くの受講者から高い評価を受けており、大学の地域貢献として期待に応えることができた。

#### 【課題】

岡山市中心部にキャンパスを置く大学ではあるが、本学で開催される公開講座がキャンパス周辺地域にまだ十分に周知されていない現状がうかがえる。また、講座のテーマや内容にもよるが、受講者が高齢者に偏ってしまう傾向にある。岡山市中心部という立地の良さを生かし、より幅広い年齢層の受講者を増やしていく必要がある。

#### 【改善への方策】

今後は、地域連携を推進し、地域に開かれた大学として岡山キャンパスの魅力をアピールしていく。そのためにも、総合医療センターと新たに開院される高齢者医療センターとの連携を図り、地域のニーズに即した内容で企画を立案していく。

### (2) 高等学校との連携

#### 【現状】

令和4（2022）年度は、県立林野高等学校、県立岡山御津高等学校、県立和気閑谷高等学校からの訪問を受入れ、模擬授業・演習や学内見学を実施した。一方本学教員が高等学校に出向く、進学ガイダンスを含む模擬授業は岡山県外7校、県内23校で実施した。新型コロナウイルス感染症の影響が和らぎ、昨年度と比べ2倍となる訪問高等学校数となった。本学と協力体制を構築している県立総社高等学校とは、入学前学習の教科別ポイントの内容調整、入学後の教育に活用するための合同研修を実施している。本年度の研修は、高等学校学習指導要領の改訂で、共通必修科目として新設された「情報Ⅰ」の授業を参観し意見交換を行い、本学の「情報処理演習」科目に役立てている。

#### 【課題】

高等学校からの訪問を受け、移転後の岡山キャンパスで実習や演習を体験してもらっているが、講義内容や真新しい校舎の施設・設備面で好評を博している反面、まだまだ参加校数が少ないことが課題となっている。県南の高等学校に限らず、より多くの高等学校と連携を図る必要がある。

#### 【改善への方策】

高等学校に出向いて行うガイダンスや模擬授業は高校生から好評で、看護や医療福祉の啓発にも役立っている。高等学校から依頼された本学への訪問、ガイダンス、出前授業等に積極的に協力していく。文部科学省が高大接続教育の一環として踏みきった学習指導要領

の改訂を見据えながら今後も高等学校と連携を図り、入学選抜・大学教育改革に努めていく。

### (3) ボランティア活動

#### 【現状】

キャンパス移転に伴い学外活動の場を岡山に移したため、ボランティア活動の内容も若干変化があった。本年は近隣の商店や町内会と合同の清掃ボランティア活動に3回（学生6人、教員3人）、岡山駅周辺での防犯関係の啓発活動への参加2回（学生4人、教員2人）、岡山県学生ボランティア連絡会の総会・フォーラム・研修会への参加2回（学生4人、教員2人）であった（いずれも延べ数）。

#### 【課題】

ボランティアの機会は増えてきたが、活動への参加学生・教員に偏りが出ている。3年制という本学の学修の特性上、ボランティア体験ができる機会はそれほど多くないため、より多くの学生が社会的活動を体験できることが望ましい。

#### 【改善への方策】

ボランティア活動の継承を学生間で行えるように支援し、活動参加者を増やすようにする。教職員も複数人で対応にあたるように計画する。

### (4) 国際交流

#### 【現状】

平成30（2018）年度から医科大学、医療福祉大学との合同で実施している上海研修は、新型コロナウイルス感染症の蔓延より令和2（2020）年度には全面的に中止となり、翌令和3（2021）年度よりオンライン交流を3校合同で企画したが、本学の学生参加は無かった。令和4（2022）年度度も本学からの参加者はなく、上海健康医学院及び上海中醫藥大学と医科大学、医療福祉大学の学生交流にとどまった。

#### 【課題】

本年度もオンライン交流となり、学生の関心は低い状態が継続していることが課題となる。

#### 【改善への方策】

学生のオンライン交流に対する関心が低いことから、実際の交流場面が具体的に伝わる工夫を行いオリエンテーションの充実をはかる。また、新型コロナウイルス感染症も位置付けが変化するため、情勢を確認しながら現地交流が可能となるよう3大学間の意思疎通を十分に行い、提携大学との打ち合わせを密にする。



## 7. 内部質保証

### (1) 自己点検・評価活動

#### 【現状】

大学の内部質保証を充実するために教学マネジメント体制下にある点検評価委員会を本年度は9回開催し、アセスメント・ポリシーに基づく学修成果の点検・評価を実施した。教育課程の編成及びその適切性、学修成果、入学者選抜の妥当性の検討を行い、授業評価、学生の満足度調査、生活実態調査、卒業後アンケート、就職先アンケート等学生及び外部評価からもその適切性をIR室と連携しながら検討した。それらの結果は、自己点検・評価報告書やホームページ上に示した。また、昨年策定したガバナンス・コードにおいても点検し、その結果をホームページ上に示した。

さらに、私立大学等改革総合支援事業及び私立大学等経常費補助金「教育の質に係る客観的指標」の充実についても検討を進め、私立大学等改革総合支援事業タイプ1『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開において74/95点を獲得し選定を得た。「教育の質に係る客観的指標」も41/44点を獲得した。このような指標を活用しPDCAサイクルを適切に回すことが、本学の強みを生かす取組に繋がると考える。

教員の教育力向上のために、令和4（2022）年度は本学単独の各種研修会を8回（他新任教員向け研修会6回）、医療福祉大学との合同研修会4回、医療福祉大学との共催授業研修カンファレンスを2回実施した。また、学生参画のFD・SD研修会も実施し、学生から授業外学習時間増加のための創意や授業環境に対する要望などの意見が出され環境改善を図った（表7-1）。

#### 【課題】

大学の内部質保証を充実するために、IR室と連携してデータ分析を行っているが、素データの分析に留まっているデータもあり、多角的に分析することで大学の意思決定に有効なものを発掘していく必要がある。

また、教員の質向上のためのFD・SD研修についても実施後の変化による点検評価も今後は検討すべきと考える。FD・SD活動の中で、研修会の開催及びそれらの教職員参加率はよいが、教員相互の授業参観の実施が半数以下と少ない。学生対象の授業評価だけでなく、教職員の授業参観による授業改善にも取り組んでいく。

#### 【改善のための方策】

学修成果の点検・評価については、ディプロマサプレメントや卒業時の学修成果達成状況調査などが近年加わってきているため、今後はそれらのデータ等も用いて、多角的に評価できるようにIR室と分析方法について検討を重ねる。

前期授業終了後に、全教職員に授業参観実施状況を示し参観を促す。「授業評価」と「授業参観」を通して教員の教える力の向上に努める。

### (2) 教員活動評価の実施

#### 【現状】

教員活動評価は、「行動評価」と「目標管理評価」をもとに学科長の総合評価で実施され、学長の二次評価を経て、各教員にフィードバックされる。学長は新任教員及び2年目教員に

は個人面談も課して、二次評価を実施している。令和3（2021）年度教員活動評価結果は表7-2に示すようにS1人、A17人、B14人、C1人であった。昨年度に引き続き多くの教員が高い活動状況であった。前回の改善への方策として示した教員活動評価の客観化を進める方法として目標管理評価に点数化を導入した。また、評価期間の適正化を図るために教員活動評価要領を改正し、評価者の追加を可能とした。

#### 【課題】

目標管理評価の点数化を実施し各目標の達成度が客観化されたが、教員各位の目標設定の基準にやや偏りがあり、学科長の評価と数値の違いが出たものがある。学科長の評価と数値が大きく開くものについては目標の難易度の設定やエフォート率の偏りに課題があるのではないかと考えられる。適正な評価を実施するためには各目標設定について学科長と教員間の共通理解が必要と考える。

#### 【改善への方策】

目標管理評価の数値化の適切性を確保するために、学科長の総合評価を行う際の個人面談時に前年度の評価と共に当該年度の目標設定について相互で確認することとする。目標管理評価について定量化し数値化は導入したばかりであるため継続的に変化を把握していく。

### (3) 学生による評価

#### 1) 教育体制・支援に関する学生評価

##### 【現状】

卒業生対象の教育体制満足度では、「専門的知識等学修に関する教育体制」、「学外実習の教育体制」、「国家試験・資格試験対策」の満足度が90%以上であり教育体制に関する満足度は高かった。就職支援は80%以上が満足し、進学・編入学支援は約半数の満足度であった。

全学年対象の教育体制に関する満足度では、専門基礎や専門科目のレベルが高いと答えた学生は48%程度おり、2年次生にその傾向が強かった。シラバスへの科目内容の表記、授業計画、科目の開講時期や順序、単位認定の方法などに対する満足度は82%以上であり教育体制の満足度とは高いといえる。学年別の満足度はおおむね2年次生はやや低く、3年次生は否定的な評価がほとんどない状況であった。1年次の専門基礎・専門分野への導入（補完）教育科目である自然科学入門や生物学などの科目は、レベルが高いと答えた学生は昨年50%であったものが30%まで減少した（表2-1）。

##### 【課題】

専門基礎科目や専門科目が多くなる2年次生において、教育体制の満足度はやや低いことから、科目の不認定者や留年者の減少のためにも個々の学生に応じてきめ細やかな指導をしていく必要があると考える。

##### 【改善への方策】

Web Class等での予習や復習を含めた学修を継続して進めていくとともに、学生を交えたFD・SD研修会などで、学生が主体的に学習に取り組むための方策と基礎学力不足の支援内容を学生と共に検討し、教育方法の改善を目指していく。また、ディプロマ・ポリシーの達成度を卒業時のみでなく、学年毎に段階を踏んだ成長の過程を調査していく。

## 2) 学生満足度調査

### 【現状】

学生による大学評価として、全在学生を対象に7月～8月に学生生活での困りごとの調査を1月～2月に学生生活満足度調査を行った。また卒業学年を対象として1月～2月に就職支援アンケートを実施した。学生生活での困りごと調査では新校舎になって照明が明るすぎることやプロジェクターの文字が小さいことが指摘され、スライドを見えやすくするための照明の調整やプロジェクターの機種変更などの改善につながった。

学生生活満足度調査(表7-3)では、担任による支援、教員支援、アドバイザー支援など学科教員の支援体制に対して「満足している」「おおむね満足している」と回答した学生が7～8割と全体の4分の3を占め、満足していない学生はいずれも10%未満と低かった。このことから教員の支援体制についてはおおむね満足していると考える。施設設備面では、飲食場所については「あまり」「ほとんど」満足していないと答えた学生が23.1%と多かった。一方、昨年度の課題としてあげた「生活付帯設備(ロッカールーム、トイレなど)」「インターネット環境」「冷暖房設備」などに関しては、昨年度の約半数の学生が「満足していない」に対し、本年度は「満足していない」が25%未満まで減少した。飲食場所は感染対策のために座席数を減らしていることが影響しているためか満足度は低かったが、校舎新設とともに環境を整えたインターネットや冷暖房などに対しては満足度が上がり改善がみられた。しかしながら他の項目に比して「生活付帯設備」「インターネット環境」「通学補助設備」などは満足している学生が5～6割と低い状況である。

アンケートの自由記述では、ロッカールームの混雑、雨合羽置き場の設置希望、駐輪場の屋根の設置希望、飲食可能場所の拡大希望、教室へのごみ箱の設置希望、自動販売機の種類の増加等の希望が多数寄せられた。これらに対して、改善可能であった雨合羽置き場の設置、飲食可能場所の拡大、自動販売機にアイスクリームの導入など行い年度末までに要望に応えた。

### 【課題】

施設・設備が新しくなり満足度の評価が上がった項目もある一方で、「生活付帯設備」「インターネット環境」「通学補助設備」の満足度の向上が課題である。

### 【改善への方策】

飲食場所の拡大については、新型コロナウイルス感染症の対応基準に則って、座席数の確保に努める。またロッカールームは、同じ場所が混まないような配置の工夫はしているが、旧校舎のロッカーに比較すると容量が小さくなっているため、それが影響していることも考えられる。配置を再検討するとともに、学生が混みあわない使用方法の工夫を考える。インターネット環境は、調整中であるので継続的な調査結果により対応を強化する。

## 3) 卒業後アンケート

卒業生による大学評価として令和3(2021)年度の卒業生を対象として、Google フォームを用いたオンラインアンケートを8月に実施した。回答率は、看護学科 40.2%、医療介護福祉学科 64.3%であった。在学中の教育については、専門的な講義・演習・実習について約9割の学生が良好な評価をしており、教育活動の全般を通して涵養される能力につい

でもプレゼンテーションとリーダーシップ以外は7～9割の卒業生が高く評価している。そして本学での学びを9割以上の学生が良かったと評価していた。教育面では倫理観や責任感、生涯学習などの項目から専門職としての自覚もできており、学生生活支援でもマナー指導、担任制度、アドバイザー制度の良さを実感している結果であった（表7-4）。

#### 【課題】

卒業後のアンケートは、就職や進学後の体験を通して、本学の教育を振り返える貴重な意見である。そのため、多くの卒業生の意見が聴取できることが望ましいと考えるが、回収率がここ数年低下してきているのが現状である。その対策として、本年度は簡便性を考慮してQRコードを依頼葉書に設定して依頼を試みたが、その成果はあまり見えず回収率を増加させることが継続課題である。

#### 【改善への方策】

卒業時の連絡先登録の種類を増やすなど工夫を重ねる。

### 4) 就職支援アンケート

#### 【現状】

令和4（2022）年度の看護学科の卒業生が、在学中に受講した「就職活動スタートアップ講座」「自己分析講座」「履歴書の書き方講座」「面接対策講座」「社会人基礎力・マナー講座」について評価した。その結果、89～97%の学生がこれらの講座の開催時期を「適切」と評価し、それぞれの講座の役立ち度は平均7.5～8.5ポイント、中央値はいずれも8.0ポイント以上（1～10の10段階評価）であった。就職前の「社会人基礎力・マナー講座」を除き、講座の開催時期を早めたことも奏功し、講座の有用性が評価された（表7-5）。

#### 【課題】

「自己分析講座」の前に実施する本格適性診断「MATCH plus」を十分に活用することができなかつたり、インターンシップや病院見学会に参加せず病院のことをよく知らないまま受験する学生がいたことから、自己分析への更なる支援が必要と認識する。

#### 【改善への方策】

学生が自己分析と病院・施設選びを適切に行い、説得力のある志望動機や自己PRを作成できるよう支援する。

### (4) 外部評価

#### 1) 卒業生就職先アンケート

#### 【現状】

令和5（2023）年1月にGoogleフォームを用いて、令和3（2021）年度卒業生の就職先にオンラインアンケートを依頼した。回収率は、看護学科が69%、医療介護福祉学科が73%であった。総合的満足度（1～5の5段階評価）の平均値は、看護学科4.2ポイント、医療介護福祉学科4.8ポイントと、昨年度を上回る評価をいただいた（表7-6）。

#### 【課題】

昨年度まで採用側の期待値と卒業生の能力に差があった「基本的マナー」について若干の改善がみられた。しかしながら、「コミュニケーション能力」と「対人関係・仕事の協調性」は変わらず差がみられた。これらの点に関する取組が更に必要である。

### 【改善への方策】

病院・施設実習において、対人援助職者に必要な能力が身につくよう教育を一層充実させる。アクティブラーニング型の授業や演習・実習を推進するとともに、社会性を育む正課外活動を推奨する。入学直後から学びと社会性に対する動機付けを行い、自身の看護観や介護観、倫理観の構築に対する支援を通して、自己を客観視し自ら問題解決できる学生を育成する。

### 2) 倉敷市の評価

倉敷市に令和3（2021）年度の自己点検・評価報告書をもとに評価して頂いた。概要としては、教育体制では、新カリキュラムへの移行をふまえたより高い学習効果に向けての教育課程の見直しや基礎学力の底上げを図る取組などが評価され、学生支援では、相談しやすい体制づくり、就職率 100%を達成する進路支援などが評価された。内部質保証についても、内部点検にとどまらず在学生、卒業生からのアンケートにより多面的な点検が評価され、それを改善につなげるよう助言があった。

また、社会連携・社会貢献では、倉敷市大学連携講座への協力や学生の防犯パトロール活動に対して謝意が示され、学生の社会参加が地域の活性化につながるために岡山移転後の継続に期待を寄せられた。

おおむね、大学の基本方針に基づいて、社会の要請にこたえ得る医療福祉人の養成に努めていると評価されたが、一点、教員組織について、設置基準を上回っているものの学科間で教員1人当たりの学生数の差に対して、適正配置を示唆された。

## 8. 管理運営

### (1) 新キャンパス移転に伴う整備

#### 【現状】

令和4（2022）年4月から岡山キャンパス新校舎棟の運用を開始した。事前の教室使用の計画、時間割調整や実習計画に基づいて運用を開始したが、授業や研究活動を進める中でいくつかの調整の必要が生じた。特に、照明・映像・音響設備等の改善について運用の見直しも含めて必要な対応を行った。

松島キャンパス体育館と付随する講義室は、両学科1年次生の体育関係等の授業、看護学科2年次生の専門科目の授業、看護学科の学外実習の症例検討等のミーティング等において、学生及び非常勤講師の利便性に配慮した上で有効に活用した。

新校舎棟における消防計画書を作成するとともに既存の防災マニュアルを刷新し、危機管理・防災指導體制の整備にあたった。6月には防火訓練と安否確認を全教職員・学生を対象に実施した。

#### 【課題】

新校舎棟の施設・設備面においては、今後も追加で調整が必要となる部分については、順次対応していく必要がある。

また、6月に実施した防火訓練では避難場所への避難を行ったが、市街地の避難ルートにおいては安全確保が難しい場所が存在することが判明し、避難場所の見直しも含めて今後の課題となった。

#### 【改善への方策】

施設・設備面で調整が必要な部分については、運用の見直しも含めて、今後も企画部や施設部をはじめとする関係部署と緊密な連携を図り、適切に対応していく。

防災訓練は毎年継続して行うことで、市街地での避難がよりの確にできるように検討を重ねていく。

### (2) 新型コロナウイルス感染症対策

#### 【現状】

本年度の新型コロナウイルス感染症に対する対策も学園の方針にのっとり継続した。本学の感染者は、令和4（2022）年1月に初めて出現し、年度末までに11人あったが、令和4（2022）年度全国的に感染が蔓延した状況から、この1年間で、学生91人、教職員11人合計102人の感染者があった。感染予防対策は、4月のキャンパス移転に伴い行動ルール7を一部変更し、6月に行動ルール8を発出して、全体の感染対策の充実を図った。特に学外実習を行う学生の行動制限・復帰基準を厳密に運用しながら、学生の学修が制限されない環境づくりと学外施設への影響が極力少なくなる対策を講じた。感染状況は、家庭内感染によるものが多くを占めており、学内でのクラスターの発生は無く、集団感染による教育活動・行事等大きな変更を生じることなく大学運営を継続できた。年度末には、感染状況が縮小してきた状況や政府の方針にならい、学内の行動制限を緩め、通常の大学生活に戻る方向で行動ルールの変更を行った。また、予防接種についても学外実習を行う学生については、3回目のワクチン接種を積極的に進め9割以上の学生が接種した。接種ができない学生におい

では、ワクチン接種を条件としない実習施設へ配置し、学修の機会を確保した。

**【課題】**

昨年度に引き続いて、学外実習における実習施設からの要請で、実習前や感染後の復帰前に PCR 検査を求められている施設がいくつか存在している。また、今後の感染症法の新型コロナウイルス感染症の分類の変更に関わる施設受入れの調整が課題となる。

**【改善への方策】**

学外実習施設と綿密な連携を取り、文部科学省の指針及び本学の感染症対策の取組を十分説明したうえで、施設側の要望があれば、実習が円滑に実施できるように対応する。

### **(3) IR 室と点検評価委員会の連携**

**【現状】**

本年度は、IR 室会議を 3 回開催し、新キャンパス移行後の各種学生調査に関するデータ収集及び分析の実施と新キャンパス移行後のデータ管理体制の構築について検討した。また、教学体制、学生支援に関するデータ収集（各学科の GPCA と GP 分布の分析、学生による授業評価、学生生活満足度調査・生活実態調査、入試区分別の学修成果）と分析は、点検評価委員会と連携しながら実施した。

IR 機能の向上については、本年度も大学評価・IR 担当者集会へ室員が参加し、研修内容を室員が共有するとともに、医科大学、医療福祉大学と IR セミナーを共同開催して、他大学の取組からデータ分析・活用方法の知見を得た。

課題であったデータ管理の一元化を目指す一環として、FD・SD 研修会として医療福祉大学虫明昌一先生に「大学の情報管理について」をテーマに講演を依頼し、情報セキュリティの知識を深めた。

**【課題】**

新キャンパス移転後に再度学内データ MAP の作成を試みたが、データ分類法に難点が存在し、次年度への課題となった。また、内部質保証のためのデータ活用の検討は継続的な課題である。

**【改善への方策】**

新キャンパス移行後のデータ管理体制の構築に向けて、情報管理規程の整備や学内データ MAP 管理、運用体制の整備を引き続き行っていく。

また、教学マネジメント体制の強化のために、点検評価委員会や学園内 IR 組織との連携を継続する。

### **(4) 地球温暖化対策の実施**

**【現状】**

本年度の地球温暖化対策ワーキンググループは、衛生委員会の一部委員の他に事務長、図書館職員を含む 6 人で構成されている。本年度も 7 月、12 月の年 2 回省エネパトロールを実施して、省エネ活動の実態把握を行った。また、6 月 13 日に岡山県環境保全事業団から特別講師を招き、「医療福祉人として視野を広げる ―地球温暖化について―」と題した講義を行い、啓発に努めた。

**【課題】**

新年度新校舎へ移転し省エネに対応した施設環境となり、エネルギー消費の観点からは効率的な運用ができています。その反面、エレベーターの使用、講義終了後の消灯ができていないことがあるなど、使用状況の把握と指導が必要である。

**【改善への方策】**

施設・設備の移転に対して、新施設に対応した地球温暖化対策マニュアルに改訂した。また、地球温暖化対策ワーキンググループでは、省エネパトロールの実施や広報・啓発活動により、教職員学生の協力を得て省エネに対する学内の取組を継続し、改善方法を検討する。また、状況に応じて地球温暖化対策マニュアルの見直しを行う。

**(5) 寮の運営・管理**

**【現状】**

令和5年（2023）年4月の川崎学園学生寮「中山下レジデンス」の開寮に向けて、企画部をはじめとする関係部署と緊密な連携を図り、規程を制定するとともに、開寮及び入寮生受け入れに必要な事項の検討・調整を行った。

また、令和元（2019）年10月に新設された女子学生寮「このはな寮」の入寮者数は、令和4（2022）年4月1日現在で、514人である。

令和4（2022）年度は、新型コロナウイルス感染症の感染者が全国的に増大したが、感染防止策を継続的に行ったことで、寮内でのクラスターは発生しなかった。

**【課題】**

中山下レジデンスは開寮時に同学年が多く入寮したため、今後、学年による入寮者の偏在が生じる。特に、令和6（2024）年度新入生の入寮希望数は空き室数を上回ることが予測される。

**【改善への方策】**

令和6（2024）年度入試合格者に対する中山下レジデンス入寮申込方法及び抽選対応等について検討を進めていく。



表 2 - 1 令和 4（2022）年度学修成果の達成状況等調査結果

教務委員会

表中の略称について  
 NS：看護学科  
 CW：医療介護福祉学科

## I. 調査時期、対象者数

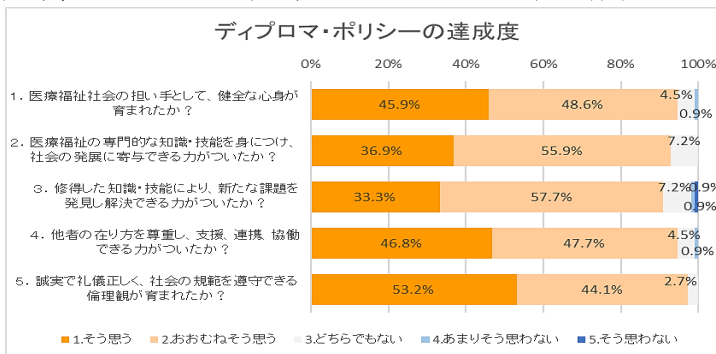
1. 調査時期：令和 5 年 1 月下旬～ 2 月上旬
2. 対象者：令和 4 年度在學生（休学者を除く令和 5 年 1 月 1 日に在学している者）  
 回収率は、3 年次生（卒業予定者）94.9%（111 人/117 人）、1 年次生 78.0%（99 人/127 人）、2・3 年次生（卒業予定者を除く）91.4%（138 人/151 人）であった。

## II. アンケート結果および分析

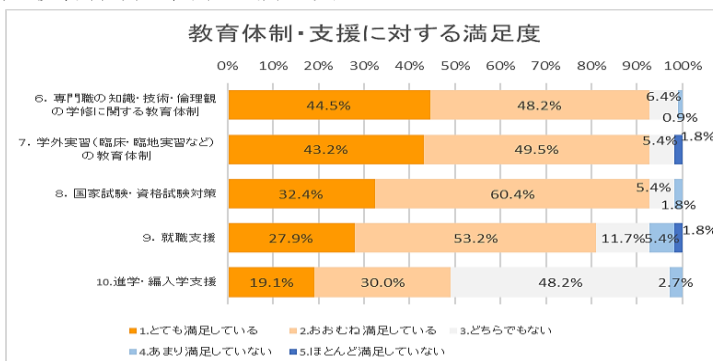
### 1. 3 年次生（卒業予定者）対象調査

令和 4（2022）年度は、医療介護福祉学科が 2 年制から 3 年制への移行により卒業生がいないため、看護学科の卒業生のみが調査対象であった。ディプロマ・ポリシーの達成度は、構成する 5 つの方針に関して「[そう思う] [おおむねそう思う] と答えた学生は、90%を超えており、例年に比べて高い結果となった。特に、「誠実で礼儀正しく、社会の規範を遵守できる倫理観が育まれた」は 97%と高かった。また、社会人基礎力自己評価では、14 項目中 11 項目で 80%以上の学生が、「大きく増えた」[増えた] と答えている。昨年と比較すると「他の人と協働して物事を行う能力」「人間関係を構築する能力」「一般的な教養」が「増えた」と答えた学生が多く、逆に昨年高かった「コンピューターの操作能力」「グローバルな問題の理解」「プレゼンテーションの能力」は「変化なし」が多かった。

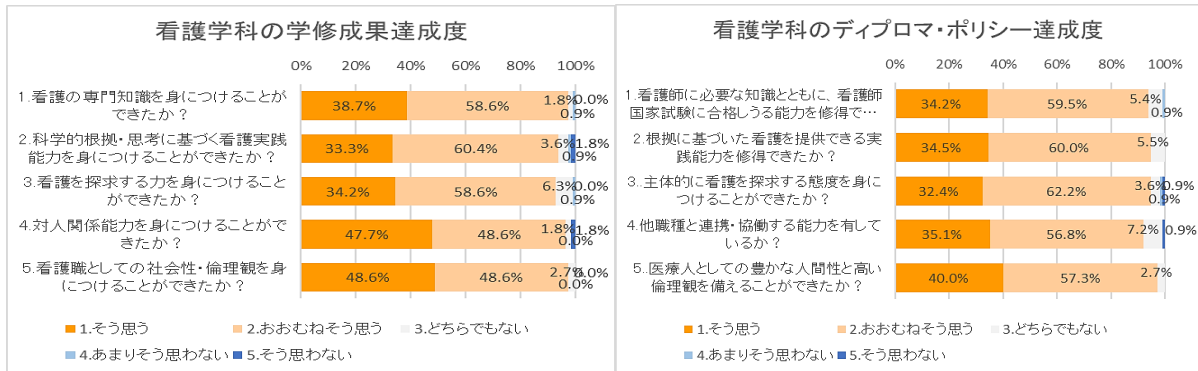
#### 1) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）達成度



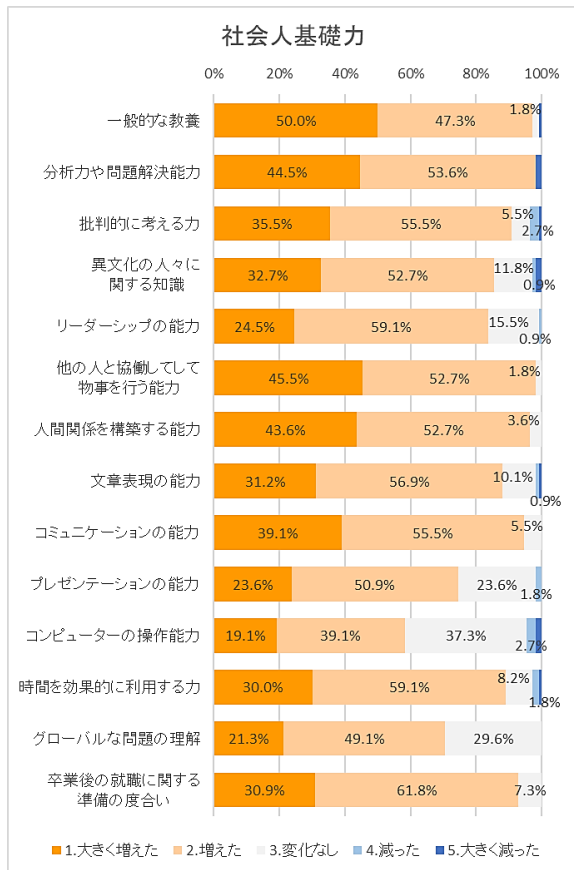
#### 2) 教育体制に関する満足度



### 3) 学科の学修成果および学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）達成度 （看護学科）



### 4) 社会人基礎力自己評価



### 2. 教育体制・支援に関する項目

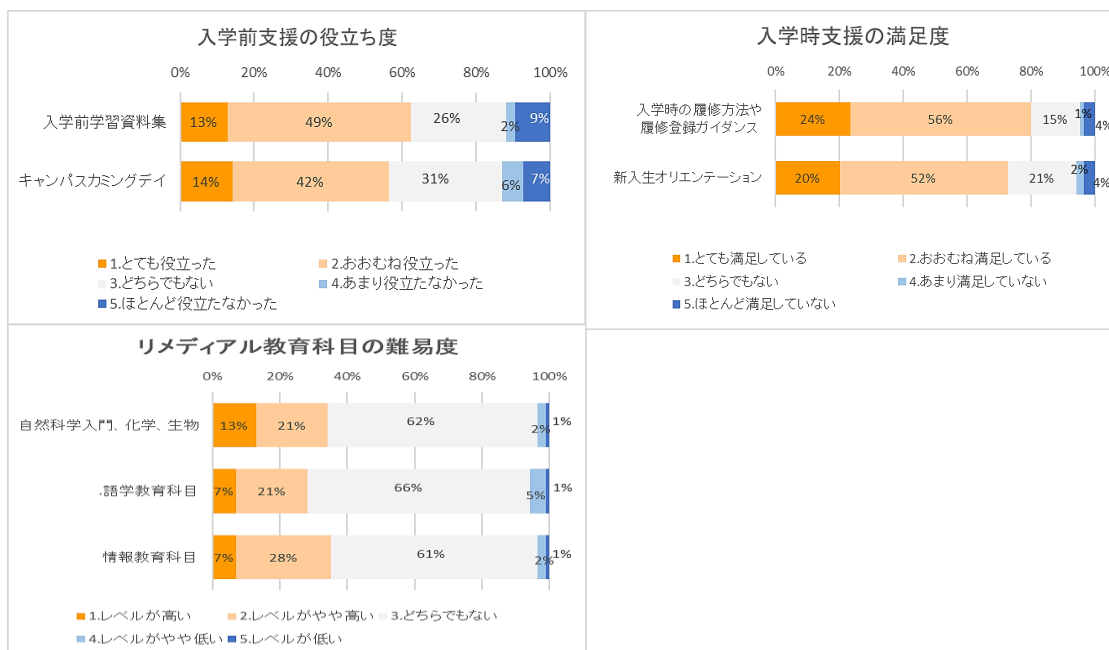
教育体制に関しては80%~90%が[とても満足している][満足している]と答えている。

1年次科目の「数学、化学、生物などの科目」「情報教育科目」「語学教育科目」が自分のレベルに合っていると答えたのは50%であった。これらのリメディアル教育の科目は、昨年は「レベルが高い」と答えた学生が50%であったのに対して30%と改善されている。

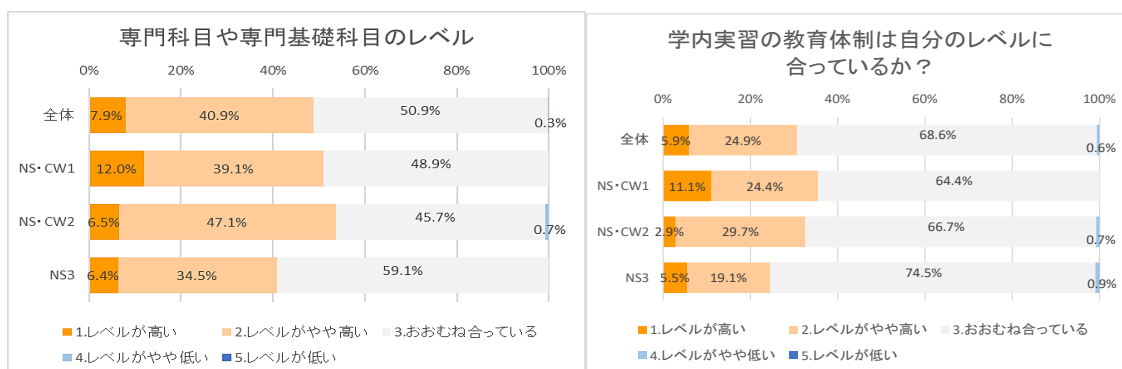
全学年共通項目での教育体制に関しては、令和4年度はMoodleからWeb Classへの移行

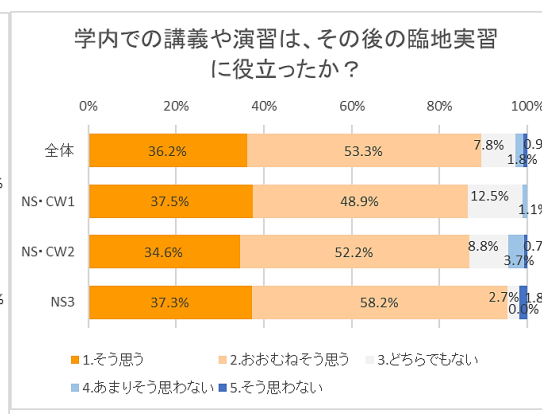
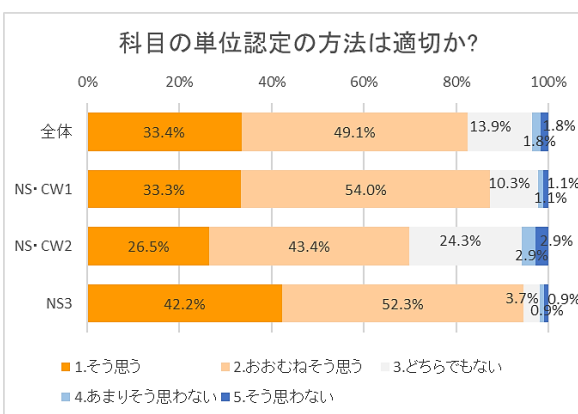
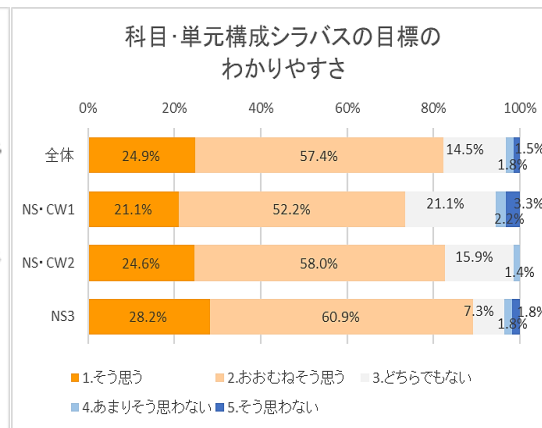
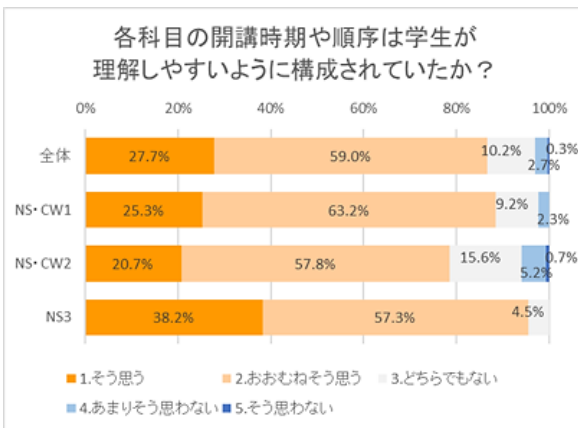
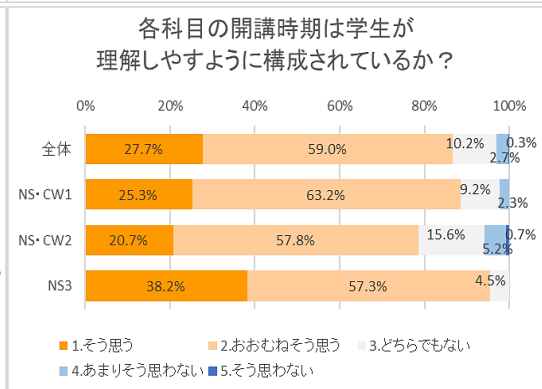
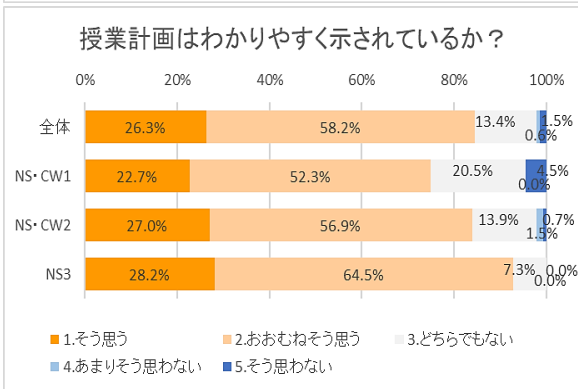
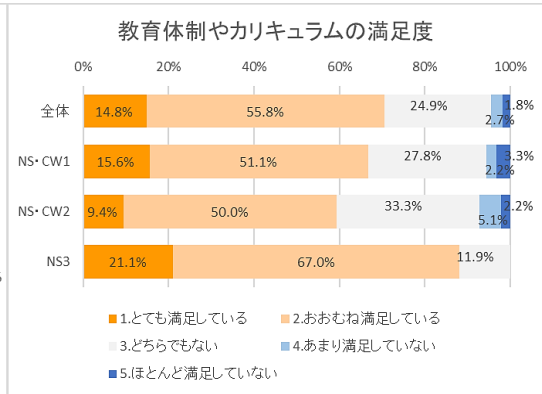
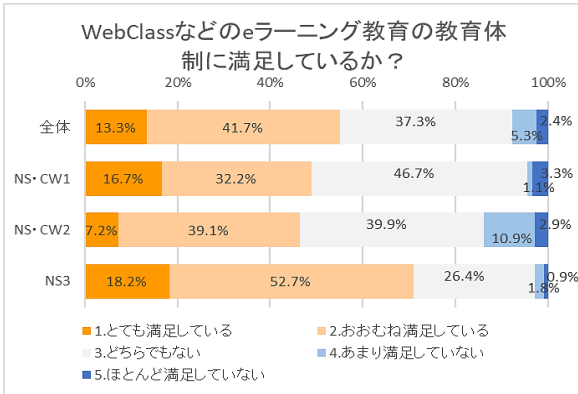
期でもあり、基礎学力支援、eラーニング教育に関しては、使い慣れた Moodle から、全く違うシステムである Web Class を使わなければならない、eラーニング教育等への満足度は低かったと考える。シラバスに関しては、80%の学生が「わかりやすい」と答えた。また、各科目の開講時期や順序性や構成は学生が理解しやすいように構成されていたと答えている。学内での講義や演習はその後の臨地実習で役立ったと答えた学生も 90%近くおり、カリキュラムの構成は学生にとっては効果的であると考え。看護学科、医療介護福祉学科ともに新カリキュラム完成年度に向けて、継続して検証していく。

### 1) 1年次生対象の教育体制に関する満足度（入学前支援、入学時支援、基礎分野科目）



### 2) 全学年対象の教育体制に関する満足度（専門基礎分野・専門分野、教育体制）





### 3) 学修時間調査

学修時間調査では、平均的な1週間での学修時間が1～2時間が30%と最も多いが、4時間以上/日と答えた学生も16%おり、日頃からの学修への取り組み状況が明らかとなった。シラバス等で事前学修や事後学修時間の指示がされていることから、今後もWeb Class等を使用した学修時間の確保を進めていく必要がある。

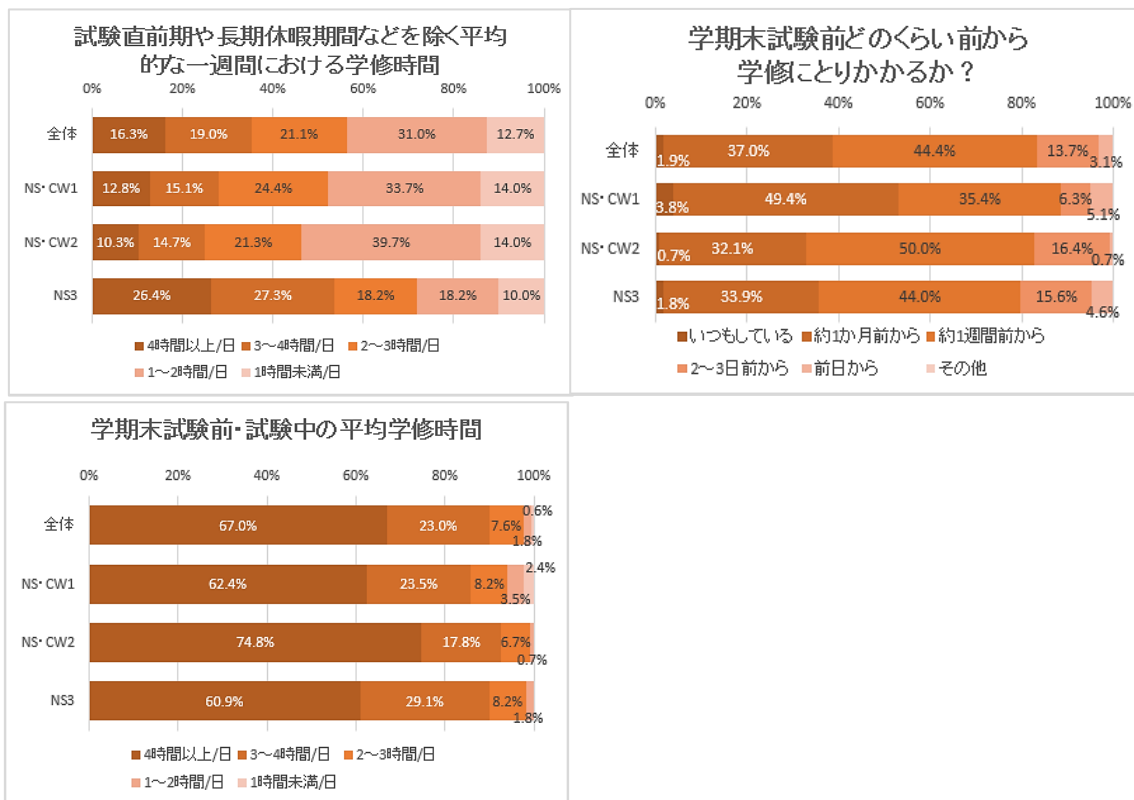


表 2 - 2 分野別 GPCA

	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度
基礎分野 (基礎科目全体)	2.97	3.12
看護学科専門基礎分野	2.63	2.69
看護学科専門分野	1.91	1.87
医療介護福祉学科専門基礎分野	2.83	2.64
医療介護福祉学科専門分野	2.68	2.64

表 2-3 学生による授業評価結果（令和 4（2022）年度）

大項目	質問項目		前期	後期
	(対象科目数)		(33)	(30)
I 学生の自己評価	1)	私は、シラバスの内容（到達目標、授業内容、評価方法）を理解している。	4.5	4.4
	2)	私は、この授業中、マナー（携帯電話、私語、いねむり、遅刻、早退をしない）を守った。	4.6	4.6
	3)	私は、授業に意欲的に取り組んだ。	4.6	4.5
	4)	私は、授業外学習（予習、復習を含む）をした。	4.2	4.0
II 授業の基礎的な事項	5)	この授業は、テーマや到達目標、内容、評価方法等を予め明確に示された。	4.6	4.4
	6)	この授業は、シラバス（到達目標、授業内容）に基づいて行われた。	4.7	4.5
	7)	この授業は、時間割に沿って行われた（休講、変更をあまりしない）。	4.7	4.6
	8)	この授業は、学生が授業に集中できる環境を整える努力をしていた。	4.5	4.4
III 学習の推進に関する事項	9)	この授業は、学生が興味を持てるよう授業内容や方法を工夫されていた。	4.5	4.4
	10)	この授業は、板書や配付資料、視聴覚機器等の教育器材の使用によって理解が深まった。	4.5	4.4
	11)	この授業は、適切な進度で行われた。	4.5	4.5
IV 総合評価	12)	私は、シラバスで求められた到達目標をほぼ達成できた。	4.3	4.3
	13)	私は、総合的にこの授業に満足している。	4.5	4.5

表 2-4 看護学科教育課程表

令和 4 (2022) 年 4 月改正

区分	授業科目	卒業単位	単位		区分	授業科目	卒業単位	計		
			必修	選択				必修	選択	
基礎分野	科学的思考の基礎	自然科学入門	4		2	基礎看護学	看護学概論	11	1	
		統計学		2					1	
		情報処理演習		2					1	
		化学			2				1	
	生物学		2		1					
	人間と生活・社会の理解	保健医療福祉概論	12	1			基礎看護援助論Ⅲ		1	
		倫理学			2		基礎看護援助論Ⅳ		1	
		文章表現		2			ヘルスアセスメント		1	
		心理学			2		臨床看護援助論Ⅰ		1	
		人間関係論		2			臨床看護援助論Ⅱ		1	
		家族社会学		2			臨床看護援助論Ⅲ		1	
		健康体育基礎理論			2	看護過程論	2			
		健康体育基礎演習		1						
	基礎英語Ⅰ		2							
	基礎英語Ⅱ		2							
	英語リーディング		2							
計	16	12	18							
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	人体の構造と機能Ⅰ	16	1		成人看護学	成人看護学概論	8	1	
		人体の構造と機能Ⅱ		1			成人看護援助論Ⅰ		1	
		人体の構造と機能Ⅲ		1			成人看護援助論Ⅱ		1	
		人体の構造と機能Ⅳ		1			成人看護援助論Ⅲ		1	
		看護解剖生理学		1			成人看護援助論Ⅳ		1	
		生化学		1			成人看護援助論Ⅴ		1	
		臨床栄養学		1			周術期看護論		1	
		臨床薬理学		1			臨床看護アセスメント		1	
		病理学総論		1						
		臨床微生物学総論		1						
	社会保険制度と健康支援	医学概論	6	1		老年看護学概論	4	1		
		健康科学概論		1		高齢者援助論Ⅰ		1		
		衛生公衆衛生学		1		高齢者援助論Ⅱ		1		
		看護関係法規		1		終末期看護論		1		
		社会福祉学総論		1		小児看護学概論		4	1	
		医療ソーシャルワーク論		1		小児看護援助論Ⅰ			1	
	計	22	22	0	小児看護援助論Ⅱ	1				
					家族看護論	1				
					母性看護学概論	4	1			
					母性看護援助論Ⅰ		1			
					母性看護援助論Ⅱ		1			
					保健指導論		1			
				精神看護学概論	4	1				
				精神看護援助論Ⅰ		1				
				精神看護援助論Ⅱ		1				
				薬物療法と看護		1				
				看護管理と医療安全	6	1				
				看護研究		1				
				災害看護学		1				
				看護倫理学		1				
				総合看護演習	2					
				基礎看護学実習Ⅰ	23	1				
				基礎看護学実習Ⅱ		3				
				地域・在宅看護論実習		2				
				成人看護学実習Ⅰ		3				
				成人看護学実習Ⅱ		3				
				老年看護学実習		3				
				小児看護学実習		2				
				母性看護学実習		2				
				精神看護学実習		2				
				看護の統合と実践実習		2				
				計	70	70	1			
				合計	108	104	19			

表 2 - 5 令和 4 (2022) 年度 国家試験結果

学 科	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
看 護 学 科	119	114	95.8	90.8
医療介護福祉学科				84.3

(注) 医療介護福祉学科は、令和 3 年度から 3 年制に移行したため、令和 4 年度新卒者はいない。

表 3 - 1 令和 4 (2022) 年度 オープンキャンパス等開催日

	開 催 日
本学単独オープンキャンパス	5 月 14 日 (土)、8 月 20 日 (土)
3 校合同オープンキャンパス	6 月 19 日 (日)、7 月 24 日 (日)、3 月 26 日 (日)
予約制入試・進学相談会	10 月 22 日 (土)
いってみよ! 放課後キャンパスツアー	10 月 14 日 (金)、10 月 21 日 (金)、10 月 28 日 (金)、 11 月 2 日 (水)、11 月 9 日 (水)、11 月 18 日 (金)、 11 月 22 日 (火)、11 月 30 日 (水)



表 3 - 2 令和 5 (2023) 年度 学科別入学試験結果概要

		看護学科			医療介護福祉学科			合 計		
総合型選抜	募集人員	50			25			75		
	志願者数	42			6			48		
	合格者数	37			6			43		
	入学者数	36			6			42		
学校推薦型選抜前期	区分	指定校	有資格	公募	指定校	有資格	公募	指定校	有資格	公募
	募集人員	23			15			38		
	志願者数	21	0	9	3	0	1	24	0	10
	合格者数	21	0	5	3	0	1	24	0	6
	入学者数	21	0	5	3	0	1	24	0	6
学校推薦型選抜後期	区分	A 日程		B 日程	A 日程		B 日程	A 日程		B 日程
	募集人員	9		6	4		0	13		6
	志願者数	59		44	3		0	62		44
	合格者数	55		41	3		0	58		41
	入学者数	20		0	1		0	21		0
一般選抜前期	区分	A 日程		B 日程	A 日程		B 日程	A 日程		B 日程
	募集人員	17		13	2		2	19		15
	志願者数	35		26	1		1	36		27
	合格者数	28		20	1		1	29		21
	入学者数	10		0	0		0	10		0
一般選抜後期	募集人員	2			2			4		
	志願者数	6			1			7		
	合格者数	2			1			3		
	入学者数	1			1			2		
入 学 定 員	120			50			170			
入 学 者 数	93			12			105			

表 3 - 3 在籍者内訳（令和 4（2022）年 5 月 1 日現在）

		1 年			2 年			3 年			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
看護学科 入学定員 120 収容定員 360	在籍者	3	111	114	7	112	119	13	143	156	23	366	389
	(休学)	0	0	0	0	2	2	3	12	15	3	14	17
医療介護福祉学科 入学定員 50 収容定員 100	在籍者	3	11	14	3	10	13	/			6	21	27
	(休学)	0	0	0	0	0	0				0	0	0
合 計 入学定員 170 収容定員 460	在籍者	6	122	128	10	122	132	13	143	156	29	387	416
	(休学)	0	0	0	0	2	2	3	12	15	3	14	17

表 3 - 4 出身都道府県別在籍者数及び入学者数（令和 4（2022）年 5 月 1 日現在）

出身高校県名	在籍者数	内入学者数		
		看護学科	医療介護福祉学科	合 計
北海道	1			
宮城県	1			
兵庫県	13	3	1	4
鳥取県	13	3		3
島根県	14	3	1	4
岡山県	252 (60.6%)	78 (68.4%)	9 (64.3%)	87 (68.0%)
広島県	62	15	2	17
山口県	19	4		4
徳島県	2			
香川県	14	2		2
愛媛県	16	2	1	3
高知県	3	1		1
福岡県	1			
佐賀県	1			
鹿児島県	3	2		2
沖縄県	1	1		1
合計	416	114	14	128

表4-1 卒業生の進路状況（令和5（2023）年5月1日現在）

区分 学科	卒業 者数	就 職（昨年同期）			学園関係 就職者数	求人 件数	進 学		その他
		希望者数	就職者数	就職率			希望者数	進学者数	
看護学科	119	112	112	100 (100)	56	297	1	1	6

- 備考 1. 卒業者数のうち2人は前期末卒業  
 2. 医療介護福祉学科は、2021年度から3年制に移行したため、2022年度卒業生はいない。  
 3. 『その他』は進路未定の者、就職・進学とも希望のない者等の数を含む。

表5-1 専任教員数（令和4（2022）年5月1日現在）

区 分 学 科	専 任 教 員 数					設置基準で定 める 教員数*	
	教 授	准教授	講 師	助 教	計	イ	ロ
看 護 学 科	7	8	8	8	31	12	4
医療介護福祉学科	3	0	2	4	9	10	
合 計	10	8	10	12	40	26	

- \* イ 学科の種類及び規模に応じ定める専任教員数  
 医療介護福祉学科の設置基準で定める教員数は3年制完成年度の教員数  
 \* ロ 短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数

表5-2 公的研究費（競争的資金等）の獲得件数（令和4（2022）年度）

区 分 学 科	科学研究費 （代表）			科学研究費 （分担）	その他		
	新規		継続	新規・継続	新規		継続
	申請	採択			申請	採択	
看 護 学 科	0	0	1	3	1	1	0
医療介護福祉学科	2	0	2	3	1	1	0
合 計	2	0	3	6	2	2	0

表5-3 教員研究費の決算（令和4（2022）年度）

（単位：円）

区 分 学 科	教員数 （人）	研究費	研究旅費	機器・備品 等の整備費	研究に係る 図書費*等	合計
看 護 学 科	31	2,784,515	596,262	301,257	—	3,682,034
医療介護福祉学科	9	1,472,574	21,440	0	—	1,494,014
図 書 館	—	—	—	—	3,411,748	3,411,748
合 計	40	4,257,089	617,702	301,257	3,411,748	8,587,796

- \*図書費には、寄贈を受けた書籍を資産として組み込んだ金額を含む

表5-4 教育・研究に係る機器及び備品・図書等の整備状況（令和4（2022）年度）  
（単位：千円）

学 科 \ 区分	機器及び備品	図書	合計
看 護 学 科	7,063	633	7,696
医療介護福祉学科	1,716	98	1,814
そ の 他	322	2,681	3,003
合 計	9,101	3,412	12,513

\*図書欄中の“その他”は本学全体で購入した資産額

表7-1 令和4年度（2022）年度 FD・SD 研修会実施結果

1. 本学開催のFD・SD研修会

研修会名	開催日	研修内容	講師	出席者数
FD・SD 研修会	5月30日（月）	研究の倫理審査申請書に 関して	看護学科 岡田 みどり 学科長	ビデオ視聴 9 人を含め 36 人
FD・SD 研修会	6月6日（月）	Web Class 講習会 2022	重田 崇之・熊野 一郎・沖 田 聖枝・河畑 匡法 (LMS WG)	ビデオ視聴を 含め 36 人
FD・SD 研修会	6月9日（木）	高校訪問での各学科アピ ールポイント	医療介護福祉学科 山田 順子 学科長 看護学科 林 千加子 副学科長	36 人 資料のみ 3 人
FD・SD 研修会	9月8日（木）～ Web 視聴	自己効力感を高める学生 とのかかわり～いいとこ ろをみつめる～	医療介護福祉学科 山田 順子 学科長	36 人
学生参画 のFD・SD 研修会	9月15日（木）	学生参画のFD・SD研修会	学生代表 看護学科:6人・ 医療介護福祉学科:4人 教員:5人	16 人
FD・SD 研修会	12月26日（月）～ Web 視聴	2023 年度シラバス作成等 に関して	松本 明美 教務部長	43 人
FD 研修会	2月27日（月）	ハラスメント防止対策 ～アカハラになる前に～	ハラスメント防止委員会	28 人
FD・SD 研修会	3月1日（水）	大学の情報管理について	川崎医療福祉大学 医療情報学科 虫明 昌一 講師	37 人

2. 医療福祉大学主催（\*医療福祉大学・医療短期大学共催）

研修会名	開催日	研修内容	講師	出席者数
授業研究 カンファ レンス*	5月20日（金）	「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策のために遠隔授 業を活用した体育実技系必修科目 の模索—受講学生を対象にしたア ンケート調査結果—」 「128名に対するノートPCでの履 修登録の試みから見えた課題」	川崎医療福祉大学 総合教育センター 門利 知美 講師 保健看護学科 細川 京子 講師・ 小薺 智子 講師	出席確認 なし

FD・SD 研修会（医療福祉大学）*	①② 7月15日（金）～ Web 視聴  ③④⑤⑥ 9月5日（月）～ Web 視聴	科研費獲得に関する研修会 ①「過去の採択事例から」【基盤(B)】 ②「過去の採択事例から」【基盤(C)】 ③「過去の採択事例から」【若手研究】 ④「申請全体のレイアウト」 ⑤「WGメンバーからのアドバイス」 ⑥「応募の最新情報・質問への回答」	川崎医療福祉大学 ①副学長 小野寺 昇 臨床工学科 茅野 功 教授 ②副学長 小野寺 昇 作業療法学科 黒住 千春 教授 ③副学長 小野寺 昇 医療福祉学科 直島 克樹 講師 ④副学長 小野寺 昇 医療福祉デザイン学科 岩藤 百香 講師 ⑤⑥ 副学長 小野寺 昇 副学長補佐 守屋 文夫	①9人 ②13人 ③2人 ④2人 ⑤3人 ⑥3人
FD・SD 研修会（教育研究に関する研修会）（医療福祉大学）	8月30日（火）～ Web 視聴	第1部：令和3年度 Lectures of the year 賞表彰式 第2部：授業DX研修会—講義資料の電子（ペーパーレス）化— ①「保健看護学科の電子データ配布に対するアンケート結果」 ②「話の聴き方について、ノートの取り方について」	川崎医療福祉大学 ①保健看護学科 細川 京子 講師 石井 陽子 准教授 ②総合教育センター 西脇 藍 講師	25人
FD・SD 研修会（教職員の資質向上に関する研修会）（医療福祉大学）	9月14日（水）～ Web 視聴	障がい学生への合理的配慮の提供と支援について	【演者】 公益社団法人 岡山県社会福祉士会 会長 今岡 清廣 川崎医療福祉大学 ボランティアセンター長 学生部副部長 田並 尚恵	26人
FD・SD 研修会（教職員の資質向上に関する研修会）（医療福祉大学）	9月 Web 視聴	奨学金について	川崎医療福祉大学 学生課 中元 宣孝 教務課主任 黒住 光正	24人
授業研究カンファレンス*	2月22日（水）～ Web 視聴	①学生持ち込みノートPCを使用した情報リテラシー教育 ②医療福祉学概論における複数教室同時展開授業についての報告 ③教育用電子カルテ「Medi-Eye」を活用した効果	①川崎医療短期大学 看護学科 重田 崇之 講師他 ②川崎医療福祉大学 総合教育センター 福井 夕希子 助教 ③川崎医療福祉大学 保健看護学科 大坂 卓 講師 細川 京子 講師	5人

### 3. 新任教員 SD 研修会

	開催日	内 容	講師他	参加者数
1	4月1日(金)	大学の理念・教育理念 学生支援と評価 学則および履修規程	新見 明子 副学長 松本 明美 教務部長	6人
2	5月26日(木)	FD・SD研修に関して 授業参観の必要性とその方法	松本 明美 教務部長 榎本 朋子 教務部副部長	6人
3	6月22日(水)	実習指導の困りごと	掛屋 純子	5人
4	7月7日(木)	教員ポートフォリオ(SP)の作成 教員評価・成績評価・授業評価に関して	榎本 朋子 教務部副部長	5人
5	10月19日(水)	学生面接時のポイント 困った学生の対応の仕方	黒田 裕子 学生部副部長	3人
6	3月13日(月)	1年間の教育研究活動についての総括 授業評価および自己点検に関して次年度に向けて	松本 明美 教務部長	5人

表7-2 令和3(2021)年度教員活動評価結果(二次評価結果)

評価	看護科	医療介護福祉科	計
S	1	0	1
A	13	4	17
B	12	2	14
C	1	0	1
D	0	0	0
計	27	6	33

S：極めて高い活動状況である

A：高い活動状況である

B：普通の活動状況である

C：期待水準を下回る活動状況である

D：期待水準を大幅に下回る活動状況である

表 7 - 3 令和 4（2022）年度学生生活満足度調査及び生活実態調査

学生生活支援委員会

表中の略称について  
 NS：看護学科  
 CW：医療介護福祉学科

### I. 調査時期、対象者数

1. 調査時期：令和 5 年 1 月下旬～ 2 月上旬

2. 対象者及び対象者数・回答者数及び回答率

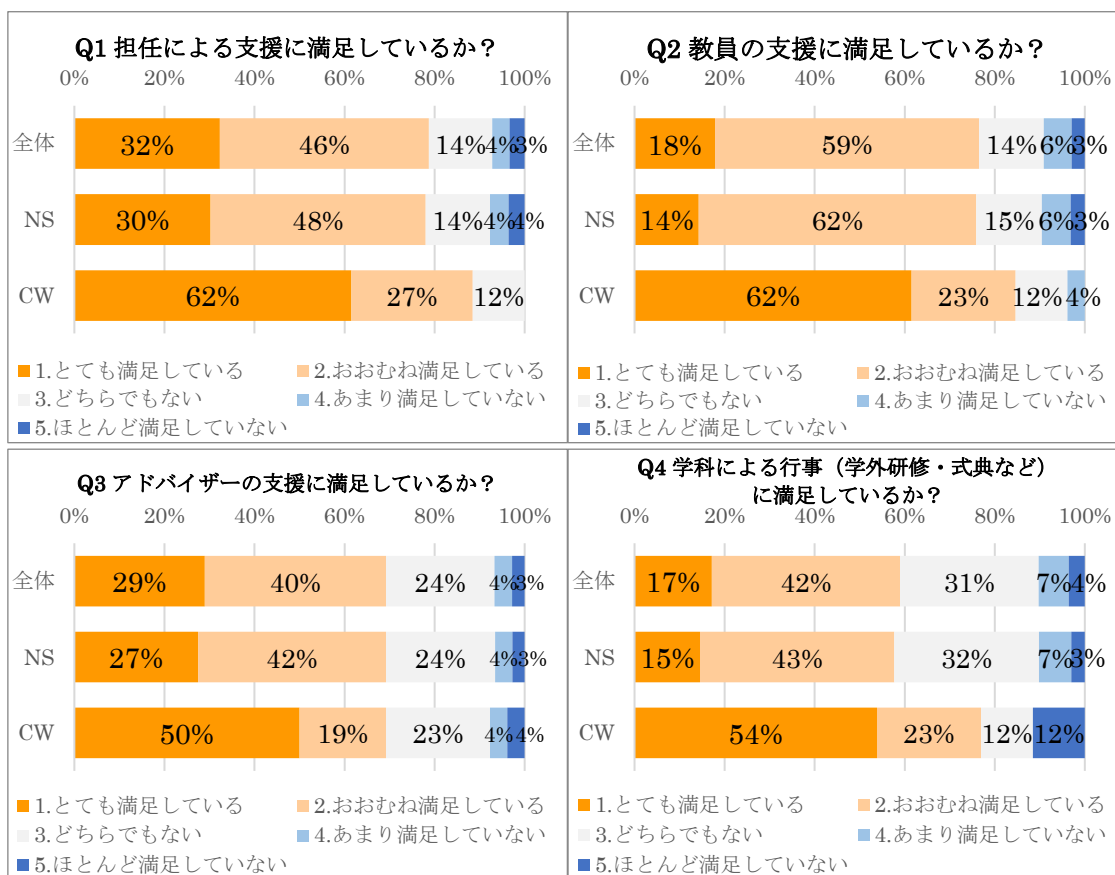
対象者：令和 4 年度在学学生（休学者を除く令和 5 年 1 月 1 日に在学している者）

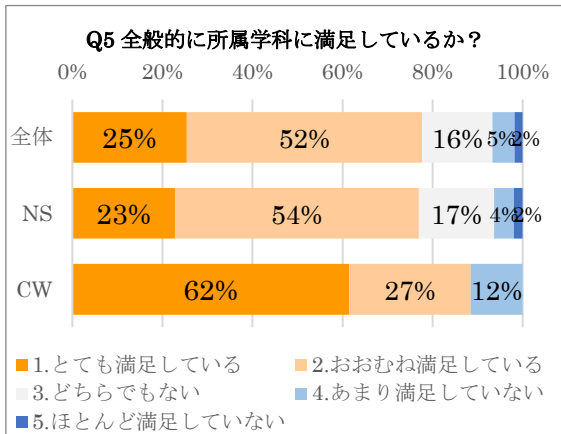
学生	クラス別					学科別		全体
	NS1	NS2	NS3	CW1	CW2	NS	CW	
対象者数	114	112	143	13	13	369	26	395
回答者数	113	110	141	13	13	364	26	390
回答率	99.1%	98.2%	98.6%	100%	100%	98.6%	100%	98.7%

### II. アンケート結果

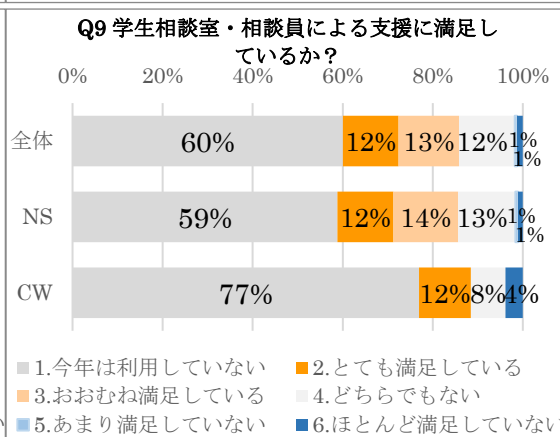
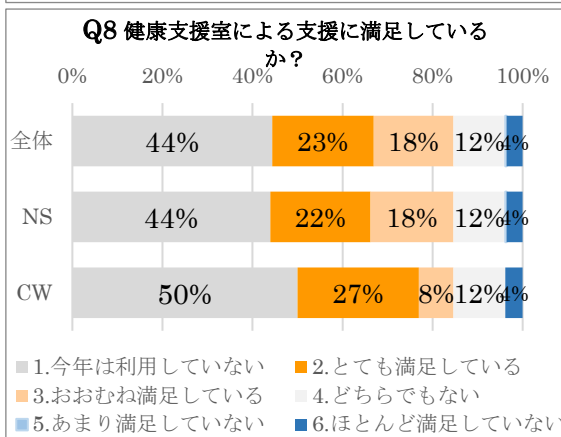
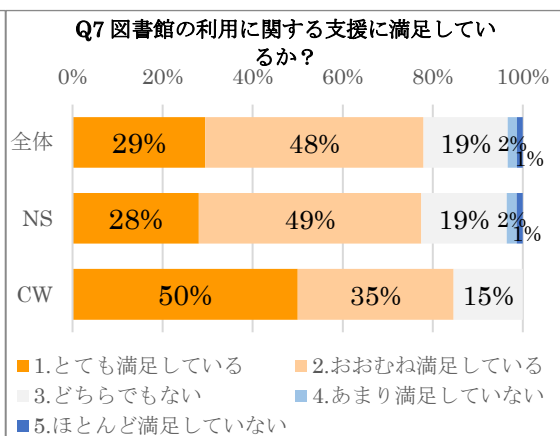
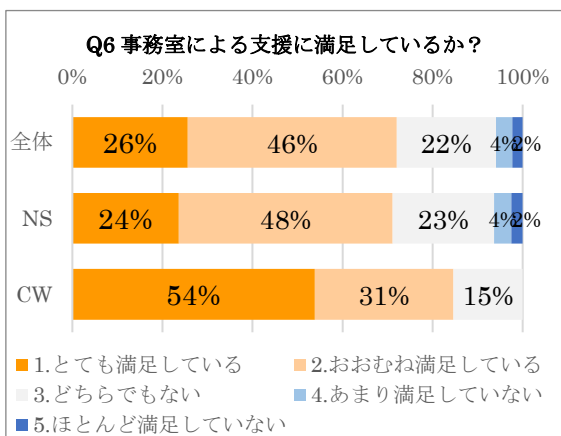
1. 大学生生活満足度

1) 学科支援

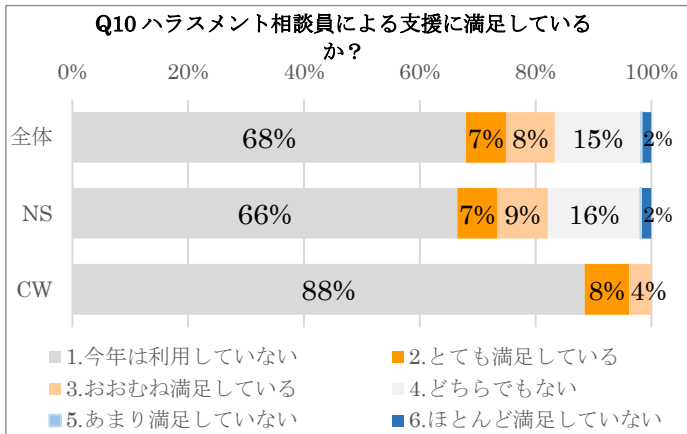




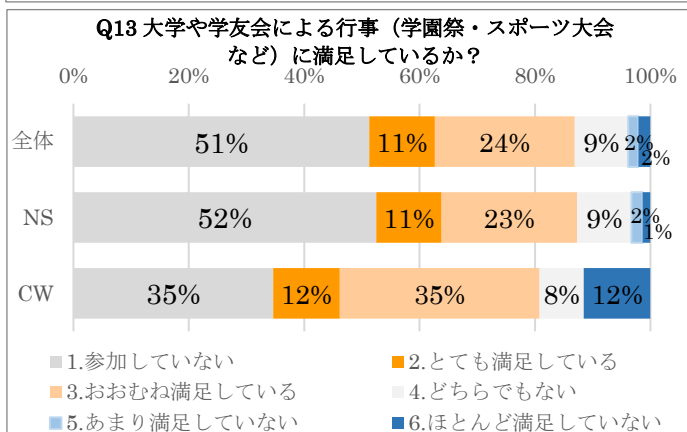
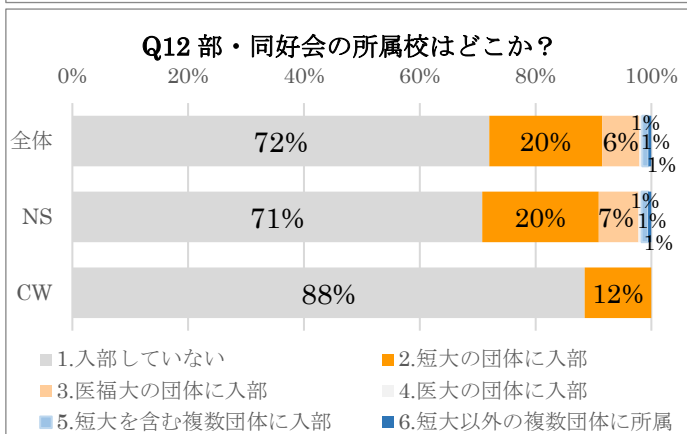
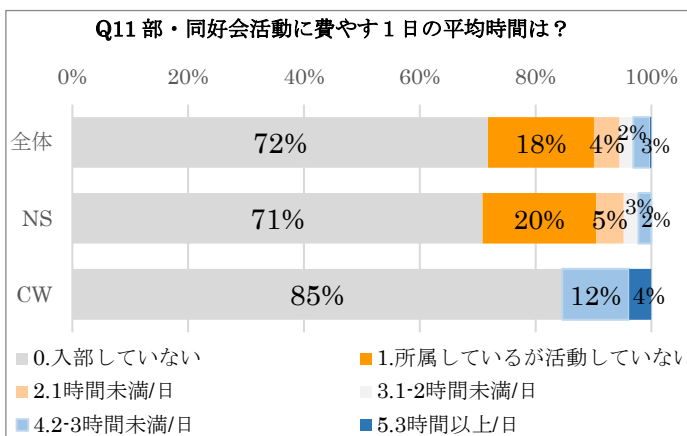
2) その他の部署の支援



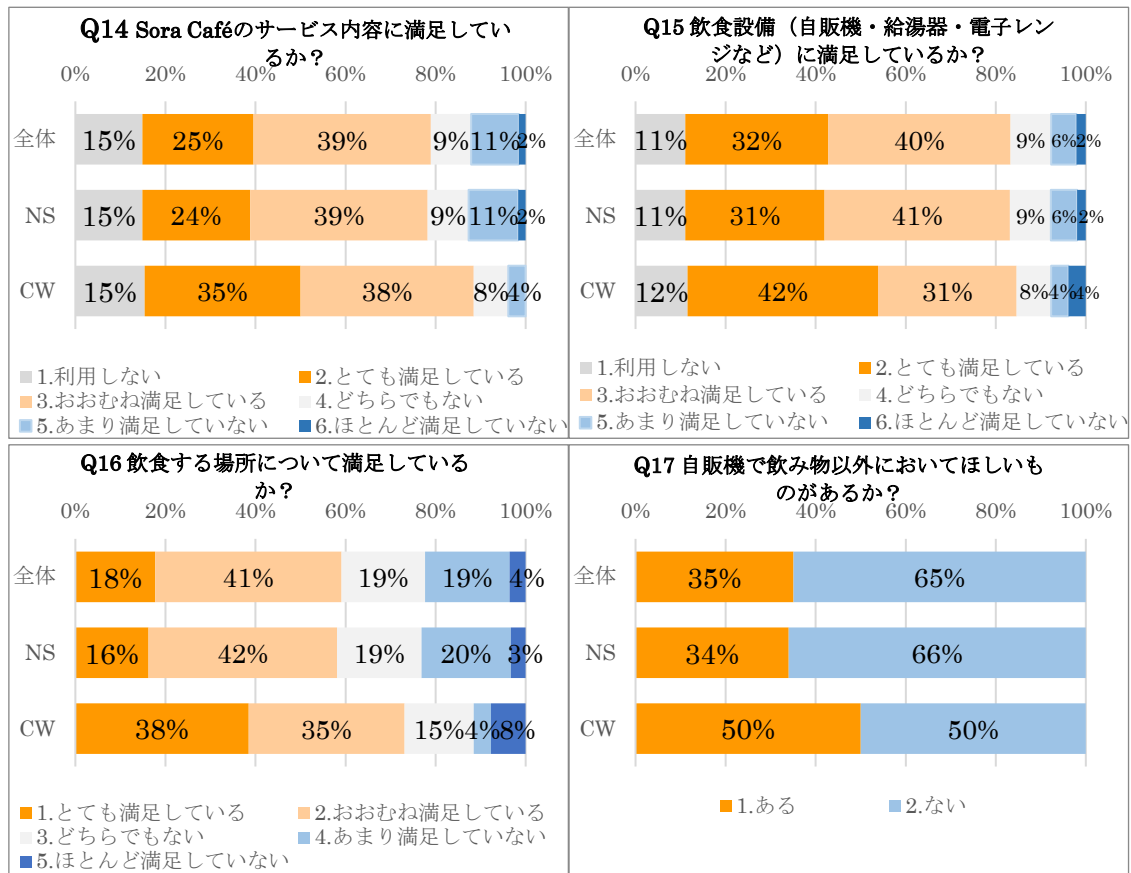




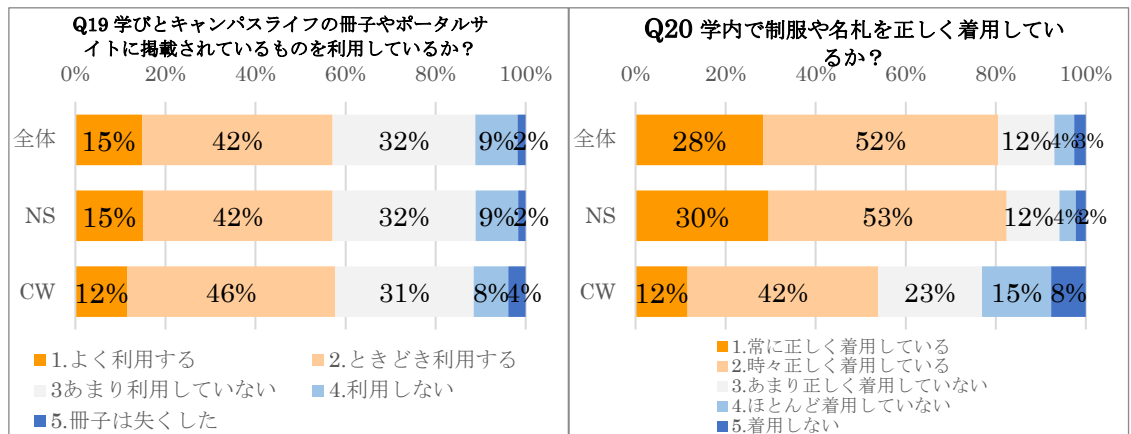
3) 学友会（部・同好会）の活動について

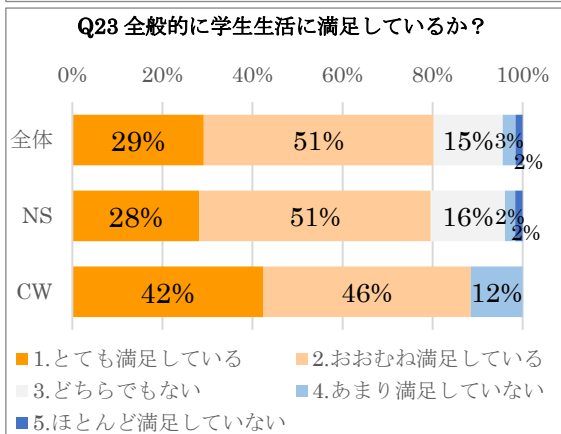
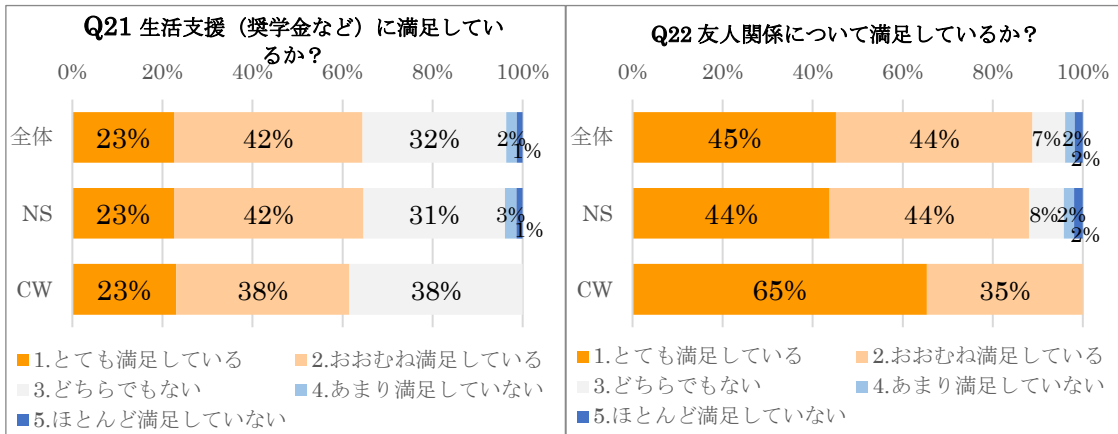


4) 飲食施設について

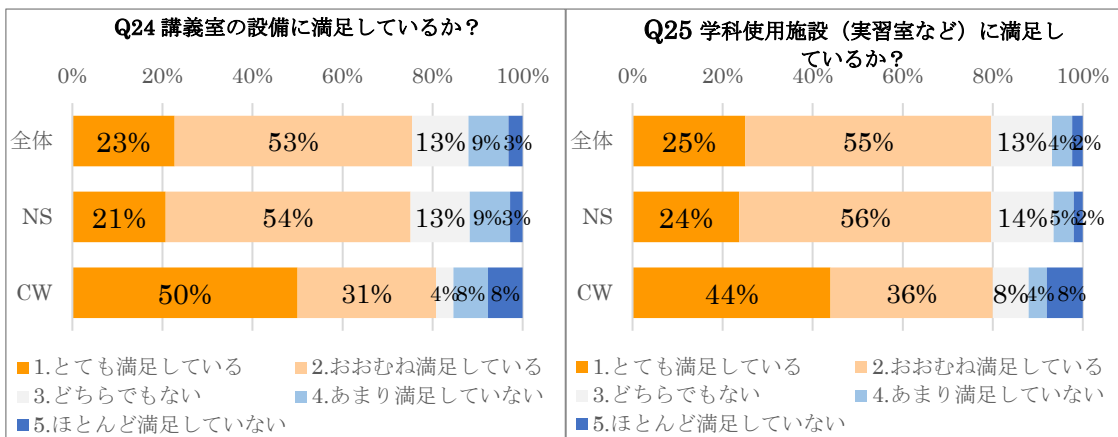


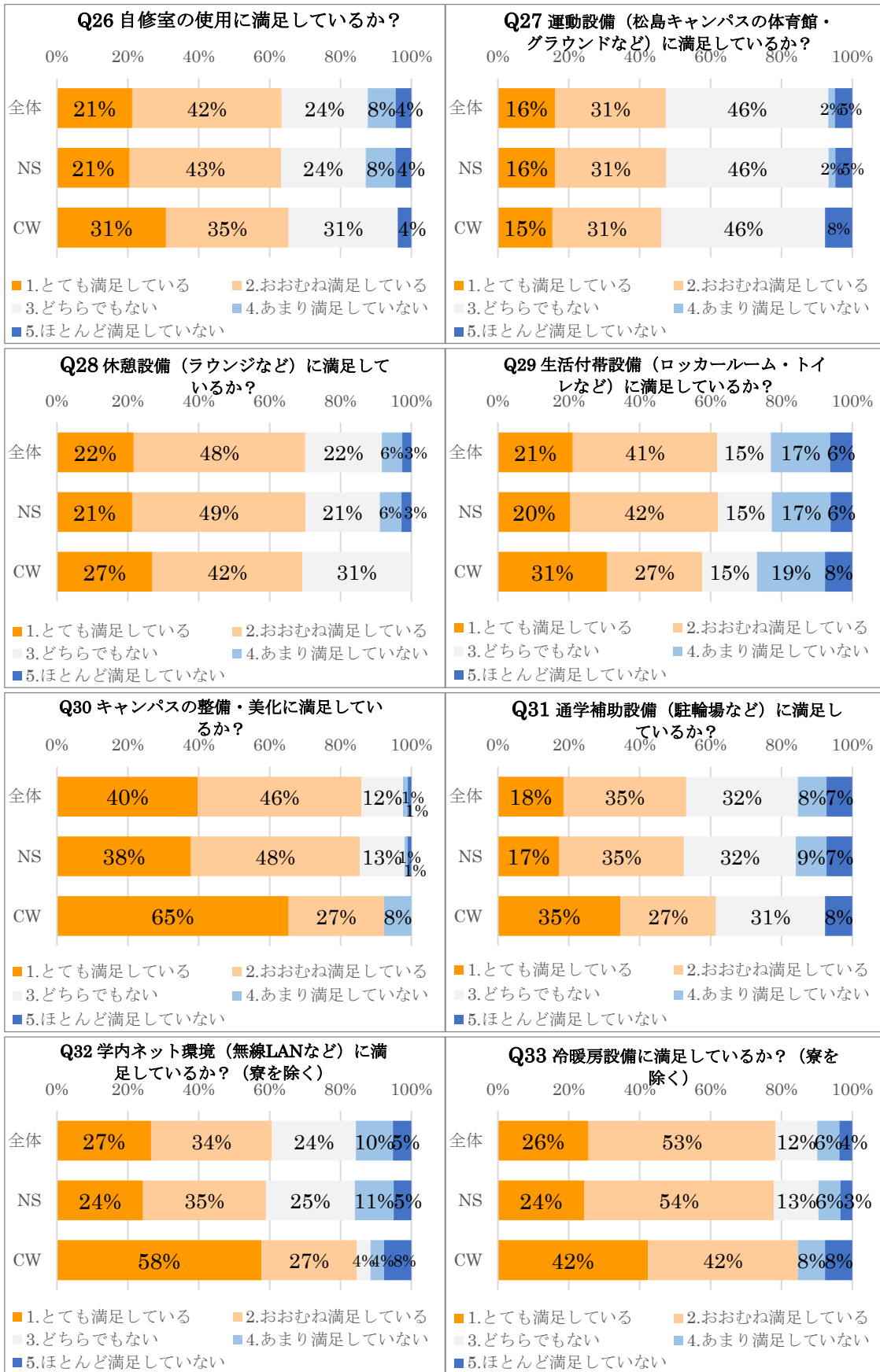
5) その他

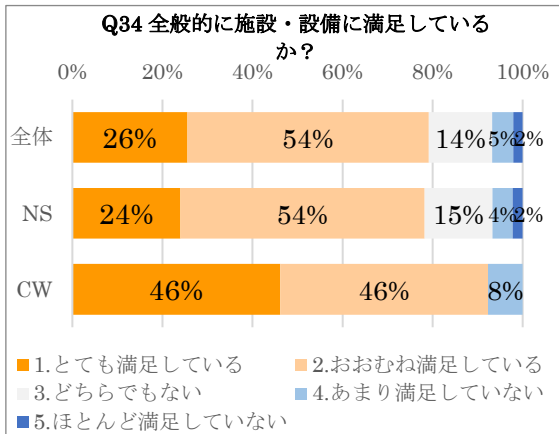




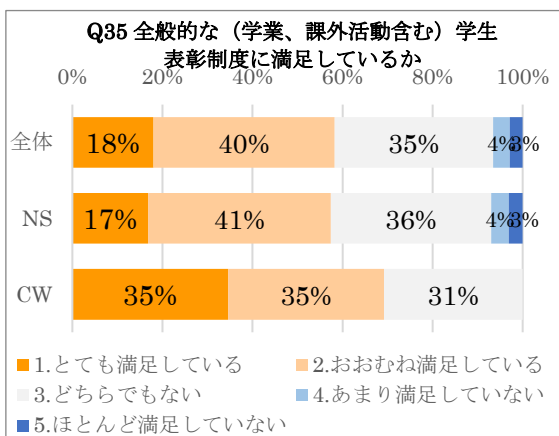
6) 施設・設備について







## 7) その他



## 8) 自由記述 (Q18、Q36~39)

### ①岡山キャンパスの学生生活について要望・意見

- ・更衣ロッカーについて (ロッカールームが狭い、ロッカー自体が小さい、学年が同一場所だと更衣しづらい)
- ・教室にゴミ箱がない。教室移動時に消しゴムのカスを捨てることに困る。
- ・空きコマに使える部屋を増やしてほしい。
- ・電車通学でも駅からの自転車通学を許可してほしい。
- ・駐輪場に屋根がない。野ざらしはやめてほしい。雨ガッパをかけるところがなく濡れてしまう。
- ・原付バイク通学を認めてほしい。
- ・駐車場がほしい。
- ・駅からスクールバスを出してほしい。
- ・4階ラウンジが狭く、飲食できる場所を増やしてほしい。
- ・電子レンジ数を増やしてほしい。
- ・食堂での現金使用を可能にしてほしい。
- ・ソラカフェメニューが少ない。
- ・自販機においてほしいもの：アイス、お菓子、軽食、カップ麺

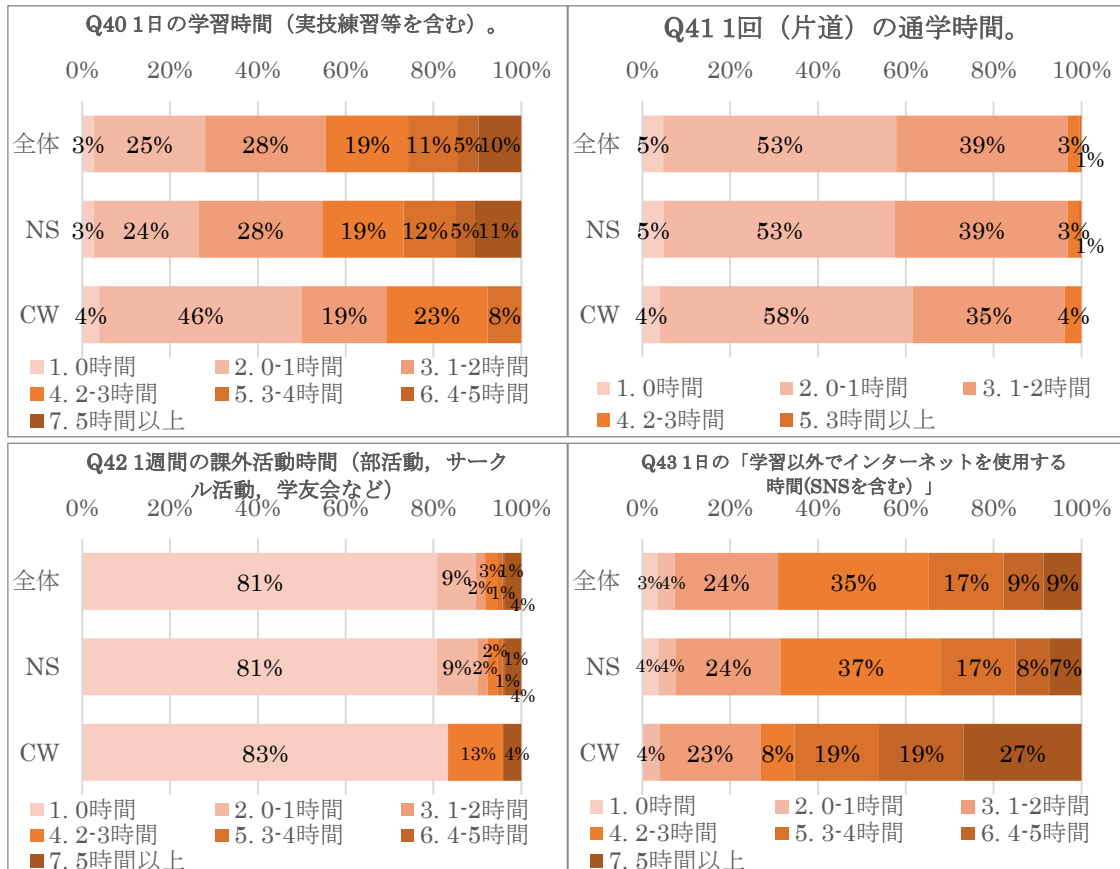
②松島キャンパスでの学生生活について要望・意見

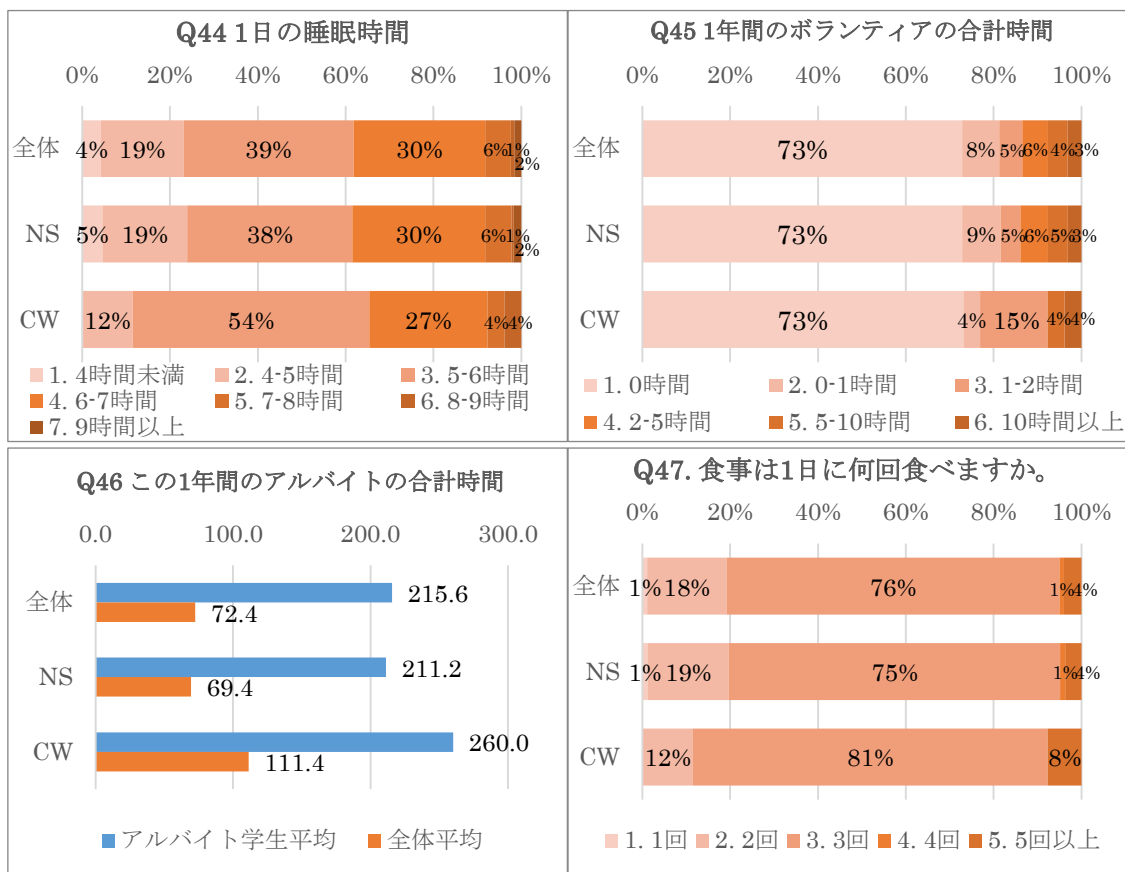
- ・遠い。駅から自転車通学したい。
- ・休憩スペースが少ない。もう少し椅子やソファなどほしい。
- ・夏は暑すぎる。冬は1階は寒すぎる。

③岡山キャンパスの講義室・設備・環境について

- ・302 教室では、1 番前だとスクリーンが見づらい。
- ・マイクが聞こえなかったり、ビデオの音が大きかったり不具合がある。
- ・椅子が固すぎて座りづらい。クッションのあるものにしてほしい。実習室の椅子も背もたれのあるものにしてほしい。
- ・机が狭い。高さがもう少し欲しい。
- ・隣の人との間隔が狭い。
- ・冷暖房の調節が悪い時がある。
- ・トイレに行きづらい。

2. 生活実態調査





### Ⅲ. 分析まとめ

#### 1. 看護学科

##### 1) 学生満足度調査

##### ◆学科支援について

担任による支援、教員支援については75%以上、アドバイザー支援については看護学科全体では70%を少し切っているが1年次生は83.4%の学生が満足しており、満足していない学生はいずれも10%未満であった。学科行事に満足していない割合は10.1%であり、昨年度(25%)よりかなり減少している。新型コロナウイルス感染予防対策をとりつつ、新校舎に移転した中でも可能な限り行事を行ったことで不満足である学生が減少したと考えたい。総合的に所属学科に満足している学生が76.9%であることから学科としての学生支援はおおかたできていると考える。しかし、学年によっては学科支援に満足していない学生が10%以上いるため、学科支援に対する自由記述を設けて学生の意見を聞くことも必要である。

◆事務支援71.1%、図書館77.5%の学生が満足しており、不満足な学生は10%未満であった。

◆健康支援室等の学生生活支援については約半数の学生が利用しておらず、利用した学生はほぼ満足している。

◆部・同好会については約70%の学生が入部をしておらず、大学行事についても約50%の学生が参加していない。参加した学生は満足している傾向にあるが半数の学生が参加して

いない。

今年度は学園祭も実施されたが、キャンパスが離れたことで部活動への入部者が減り学園内の学生同士の結びつきが少ないことで参加者が少なかったとも考えられる。キャンパスは離れていても学園祭等行事には多くの学生が参加できるよう工夫が必要である。

◆Sora Café のサービス内容については、利用している学生が約 85%であり、そのうち 74%の学生は満足していた。営業時間を長くしてほしい、購入するのに時間がかかる、現金も使えるようにしてほしい等の意見が少数あった。飲食場所に満足していない学生が 23.1%と多いが、食事をする場所がない、狭い、座れない時がある等自由記述で意見を記述していたのは 7 件であった。令和 4 年度は新型コロナウイルス感染予防のため、カフェの座席数を少なくしていたことも要因であると考え。食事ができる教室は示してあり、数的には食事場所が不足することはなくても、昼休憩は 4 階でとりたくてもとれなかった学生がいたことが推測できる。次年度からは 4 階カフェの席を増やしているため、4 階で休憩ができる学生数が増えるのではないかと考える。

学生生活満足度調査は例年年度末に実施している。今年度は新キャンパスに移転したこともあり、前期終了時点で簡単な学生生活に関する調査を行った。100 大講義室で飲水許可、自修室が空いていれば食事摂取を可能にし、その時点でできることは改善した。売店の営業時間拡大の希望もあったが難しいため、自動販売機で購入できる商品の希望を聞き、次年度からアイスクリームの自動販売機を設置することになった。通学に関してはシャトルバスを出してほしいとの希望もあったが公共機関の利便性もよいため、「令和 5 年度の学びとキャンパスライフ」に公共交通機関について詳しく説明を加えた。

◆学びとキャンパスライフの利用について、57%の学生が利用すると回答していた。昨年度は 34%の学生しか利用していなかったため、担任をはじめ活用を促し、各自で考えて行動するようとのアプローチにより利用が増えたと考える。

「生活付帯設備」「インターネット環境」「冷暖房設備」に関しては、昨年度までは半数以上あるいは半数近くの学生が満足していないと回答していたが、今年度は満足していないと回答したが 20%未満に減少した。新キャンパスに移転し設備等が新しくなったことで改善がみられている。しかし、ロッカーが狭い、混雑する等ロッカールームに関する自由記述での意見は 18 件あった。3 年次生は学内で白衣等に着替える機会が少ないためか満足していない学生は少なかったが、1・2 年次生は 30%以上の学生が満足していないと回答していた。同じ学年が重ならないよう列ごとに異なる学年の配置にして工夫はしたが、上下 2 段になっているため狭く感じているのか。設備自体は変更できないため、学生の使用する場所等検討の必要がある。駐輪場の設備については 16%が満足しておらず、自由記述でも 10 件の意見があった。そのうち 3 件は屋根を付けてほしいとの意見であった。屋根の設置は難しくても雨具置き場を作る等の対策は必要である。

◆友人関係には 88%の学生が満足しており、全般的には 79.6%の学生が学生生活に満足していた。

## 2) 生活実態調査

1 日の学習時間が 0 時間の学生が各学年数人いること、余暇のインターネット利用時間については 1 日のインターネット使用時間（学習以外）が 2 時間以上の学生が 68.5%で、15%の学生は 4 時間以上使用している。そのためか睡眠時間が 6 時間未満の学生が 61.6%



であった。学習時間及び睡眠時間の確保とともに、SNSの利用については引き続き注意喚起を継続していく必要がある。所定の修業年数で卒業し国家試験合格のためにも、学修習慣がつき学力が定着するような指導及び働きかけが求められる。アルバイトについては、昨年同様実習期間中は禁止にしていたこともあり、学年が上がるにつれ、アルバイトをしていない学生数が増えている。

## 2. 医療介護福祉学科

### 1) 学生生活満足度調査

担任による支援、教員支援などの学科教員の支援体制に対して「満足している」「おおむね満足している」と回答している学生が8割を超えている。その結果から、教員の支援体制には満足していることが伺えた。また、大学や学友会による行事に対して「満足している」「おおむね満足している」と回答した学生は、46.1%であった。コロナ禍における学友会活動が少しずつ再開できるようになり、スポーツ大会やクリスマス会や学園祭の参加が可能となった。しかし、「参加していない」と答えた学生も34.6%おり、案内の仕方や積極的に学友会活動に参加する等の工夫をしながら学生生活の充実を図り、満足度を上げていく。また、クリスマスのイベントに関しては1年次生の在宅実習の時期でもあり参加できていない。学友会に医療介護福祉学科の学生が参加することで学友会活動の時期の見直しや実習のため参加できていない学生も楽しめる企画を学生が提案できるよう支援する。加えて、学生のボランティア活動についても、「0時間」「0-1時間」と答えた学生が76.9%であった。これはボランティア活動がコロナ禍で自粛されていたこともあるためであり、今後は、福祉施設のイベントも再開してボランティアの依頼が増えることも予測され、ボランティアの募集案内が学生にわかりやすく掲示するなど参加しやすい環境を整えていく。

また、講義室の整備については、「あまり満足していない」「ほとんど満足していない」と答えた学生が15.4%おり、椅子が固く学修に集中できないとの意見があがったが、学生の意見を反映して、新年度向け早急に椅子に変更する対策を行い学修環境は整った。

### 2) 生活実態調査

1日の学習時間が「0時間」「0-1時間」と答えた学生が50%おり、予習復習を含めた学修習慣が身につけていないことがうかがえる。3年後の国家試験を視野に入れた早期からの学修習慣の習得できるよう、学生の個々の持つ力を教員が知り、学生の個性にあわせた学修方法を工夫していく。

## 3. 大学全体まとめ及び対策

### 1) 学生生活満足調査に関するまとめと対応

学科による支援については、担任による支援、教員支援については「満足している・概ね満足している」が7~8割と教員・学科の支援に対する満足が窺える。それに対してコロナ禍であったためとも考えられるが学科行事に対する満足度がやや下がっていた。また、事務室や図書館に対する満足度も同様7~8割が概ね満足と答えている。学生の健康等への支援については、学生相談、健康支援室を利用しない学生も多数いるが、利用している学生への満足度は6~8割の学生が満足している。また、自由記述で要望もあったが、学習環境としての講義室、実習室の満足度は高かった。

岡山キャンパス移転となり、キャンパスの設備については、全般に満足している学生が7～8割であり、ネット環境、通学補助設備などが5～6割と低く、自転車通学の制限などが影響したと思われる。また、体育館設備が岡山キャンパスにはないことから運動設備についての満足度が低値となっている。

アンケートの自由記述では、ロッカールームの混雑、雨合羽置き場の設置希望、自転車置き場の屋根の設置希望、飲食可能場所の拡大希望、教室へのごみ箱の設置希望、自動販売機の種類を買う大等の希望が多数寄せられた。改善可能であった雨合羽置き場の設置、飲食可能場所の拡大、自動販売機にアイスクリームの導入など行い要望に応えた。

講義環境やネット環境については、教務部を中心にWi-Fiの基地局の調査・調整、プロジェクター、マイクなどの調整を早急に実施した。座椅子についても一部椅子を交換して対応した。

## 2) 生活実態調査のまとめ

生活実態調査では、1日の学習時間が0時間の学生が両学科ともに数人存在し、また1時間未満の学生も20～40%といることから予習・復習などの学習習慣が身につけていないことが窺えた。また、学習時間以外のインターネット使用時間の多さからも両学科ともに国家試験に臨む専門職であることを念頭に、継続的学習の重要性を指導していく方針を学生生活支援委員会をはじめ、大学全体で改めて共通認識した。

表7-4 令和4（2022）年度「川崎医療短期大学の教育・学生生活に関するアンケート（卒業後アンケート）」調査結果

### I. 調査時期、対象者、調査方法、回収結果

調査時期：令和4年8月、対象者：令和3年度卒業生

調査方法：Google フォームを用いたオンラインアンケート調査。卒業生にはQRコードを印刷したはがきを送付

回収結果：

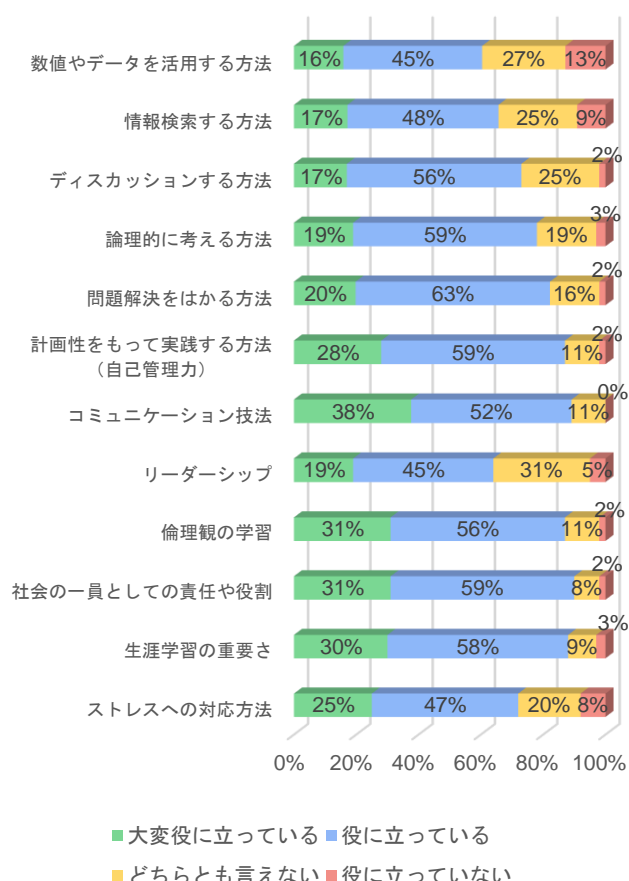
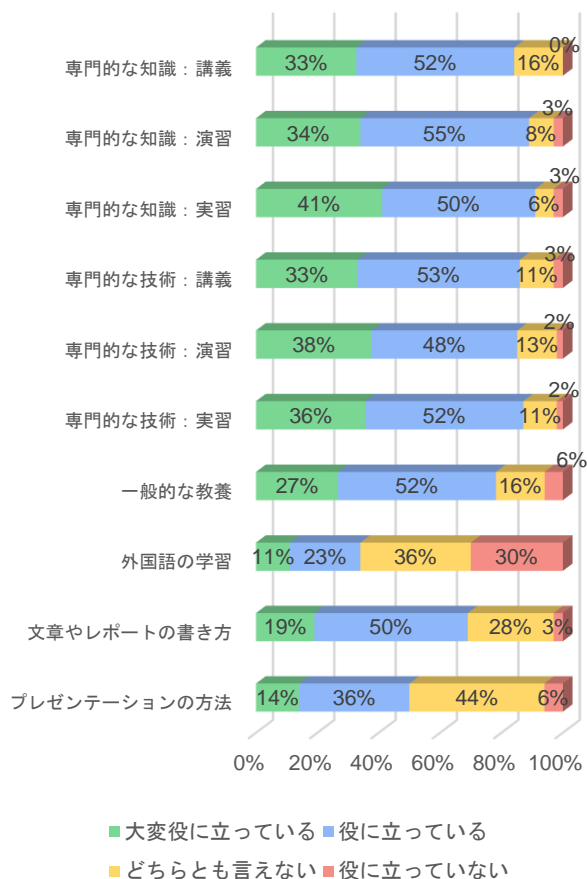
	対象者数	回収数	回収率	進路			
				就職	進学	その他	
総計	146	62	42.5%	57	4	1	
内訳	看護科	132	53	40.2%	49	3	1
	医療介護福祉科	14	9	64.3%	8	1	0

※なお、アンケート結果については学科名称変更前卒業生のため看護科、医療介護福祉科とする。

### II. アンケート結果

#### A. 教育・学生生活について

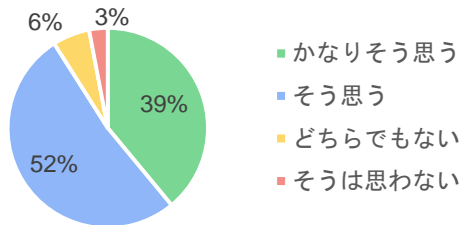
##### 1. 在学中の教育について



1-その他気になった点（自由記述 2件）

- ・グループワークを取り入れて、自分の意見を考えて述べる場を増やしたほうがよい。
- ・学生への対応が極端すぎる教員がおり、実習に響いた。

2. 本学の学びの評価（本学で学んでよかったと思うか）



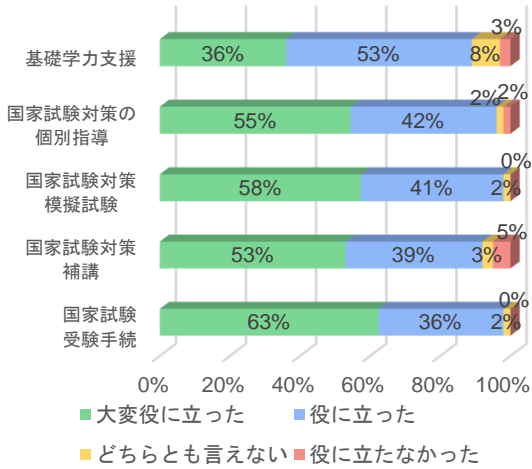
<本学で学んでよかった理由>（自由記述 13件）

- ・国家試験に力を入れていたから。
- ・実習や就職、国試の際にサポートしてくれた先生方がいたから。
- ・実習で得たことは力になっていると感じるから（2件）。
- ・厳しい看護の世界を学ぶにあたり、最高の学校だと思うから。
- ・3年間はかなりハードだったが、時間を有効活用する方法や友達と協力することの大切さを学ぶことができたから。
- ・わからないところを聞いたら優しく教えてくださったり、困ったことがあったときに相談しやすい先生がいたから。
- ・熱心に指導してくださる先生方と同じ目標にもった仲間と3年間頑張ることができたから。
- ・病院実習が苦痛だったが、振り返ってみると座学よりも実際に患者さんと接するほうが学べることが多くあったと思うから。同じ目標を持った友達と、テスト勉強や実技練習を頑張ることができて楽しかったから。
- ・面談があり先生方に相談しやすい環境であったことや、個々人に寄り添った関わり方でサポートしていただけたから。
- ・部署内に短大出身の先輩が大勢いて、話題が豊富になるから。
- ・コロナ禍での実習ではあったが、先生方がいろいろ考えてくださり、施設に行けないときにもそれに近い演習を組んでくださったから。疾患について深く学んだことが現場で役に立っているから。
- ・社会福祉士になるために進学したが、ディスカッションやレポート提出が非常に多い。短大でのグループワークが役に立っているから。
- ・介護についてたくさん学べたから。

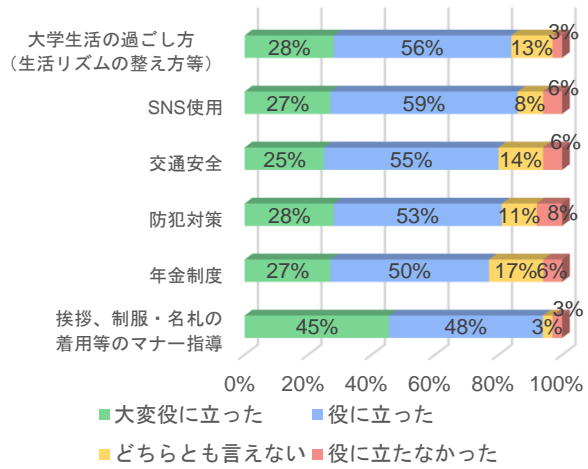
<他に本学で学びたかったこと>（自由記述 4件）

- ・注射
- ・救急実習
- ・臨床に出たからの行動計画の立て方
- ・学生同士での採血の技術演習

### 3. 在学中の教育支援について

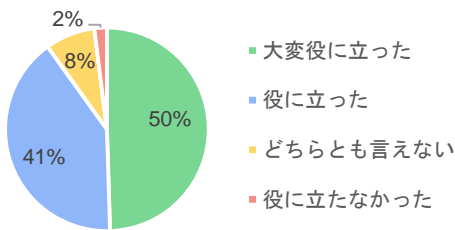


### 4. 在学中の学生生活支援について

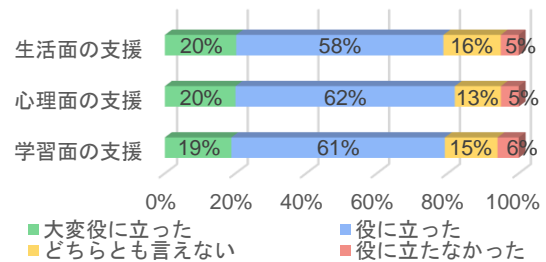


3・4-その他気になった点 なし

### 5. 担任制度について



### 6. 1年生のアドバイザー制度について (看護科のみ)



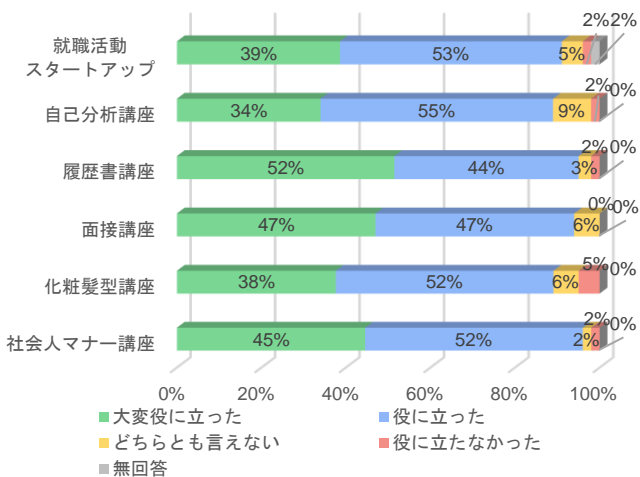
### 5-その他意見 (自由記述 2件)

- ・困った時や進路について相談しやすくて助かった。
- ・就職活動の相談をしたが、自分の意見を聞いてもらえなかった。

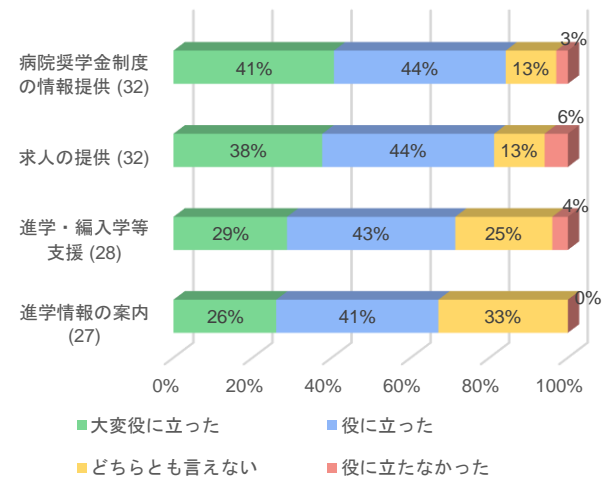
### 6-その他意見 (自由記述 2件)

- ・もう少し話す機会があれば良かったと思う。
- ・担任に相談できないことでもアドバイザーにならできることもある。

### 7. 就職・進学支援について



### ※該当者のみ



7-その他気になった点（自由記述 1件）

一般企業を対象にした就職活動にも理解を示してほしい。

8. 在学中にできなかったことで、学生時代にしてみたかったこと（自由記述 6件）

- ・学園祭への参加（2件）
- ・友達と旅行したり外食したりと普通の学生生活を送りたかった（2件）
- ・研修旅行 ・留学

まとめ 教育・学生生活支援について

本学の教育の有用性について、専門分野では約9割の卒業生が良好な評価をしていたが、一般的な教養等の基礎分野については6～7割であり、外国語学習は3割にとどまった。教育活動全般を通して涵養される能力についても、プレゼンテーションとリーダーシップ以外は7～9割の卒業生が高く評価しており、自己管理、コミュニケーション、倫理観、社会の一員、生涯学習が高かった。国家試験対策を始めとする教育支援は、ほぼすべての卒業生がその効果を実感していた。9割以上の卒業生が本学で学んでよかったと回答した。

学生生活支援は、いずれの項目も約8割の卒業生が役に立ったと回答し、マナー指導は9割を超えた。担任制度は9割、アドバイザー制度は約8割の卒業生がその良さを実感していた。昨年度よりもアドバイザー制度の評価が1割程度高かったが、回収率の低さのためかもしれない。就職支援は約9割の卒業生が評価したが、進学支援は約7割であった。

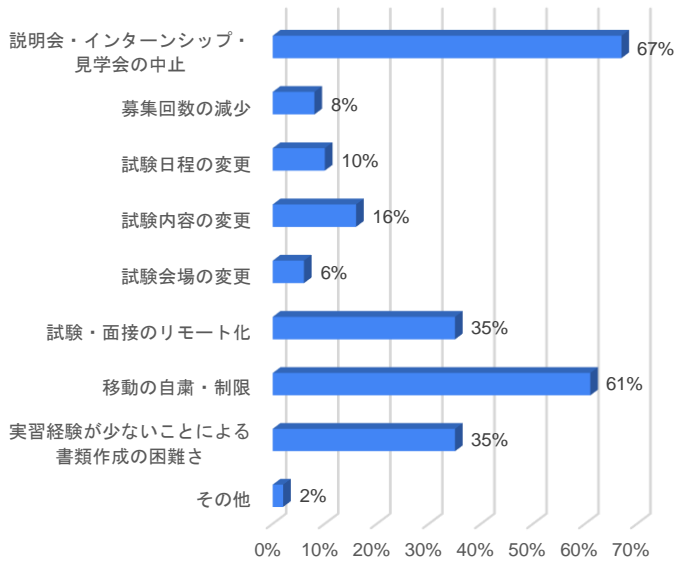
以上の結果から、今回の調査対象となった卒業生は、本学での学びを十分に実感し、就職にも満足しているものと推察される。また、倫理観や責任感、生涯学習、マナーなどの回答から、医療福祉の専門職としての自覚もできてきていることがうかがえた。一方、基礎分野の知識が業務に役立っているという認識は低かった。今後は、進学を希望する学生への支援を検討していく必要がある。

B 進路に対する新型コロナウイルス感染症の影響

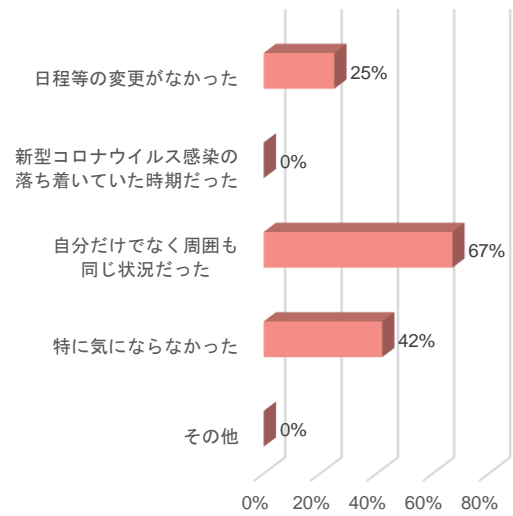
1. 就職活動 新型コロナウイルスによる影響の有無



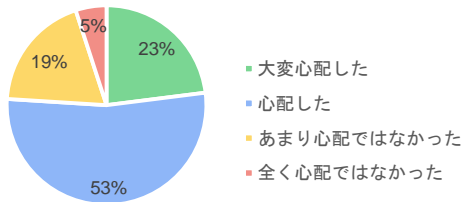
1-a 影響を受けたと感じた事象  
(複数回答可 49件)



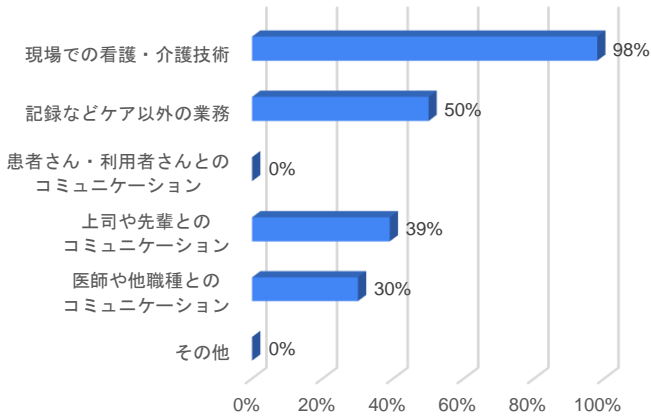
1-b 影響を感じなかった理由(12件)



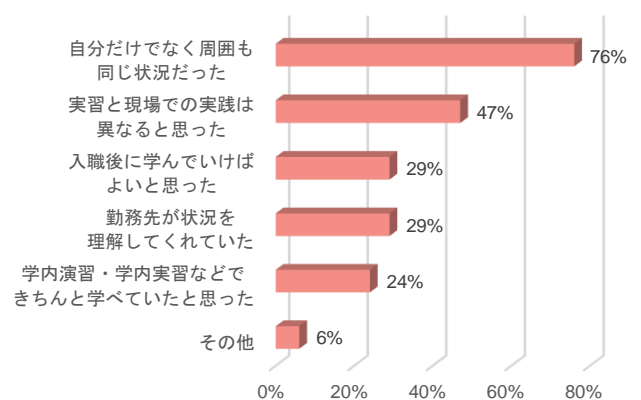
2. 入職前 学外実習の中止・短縮が仕事に影響する心配 (62件)



2-a 「大変心配した」「心配した」内容  
(複数回答可 46件)

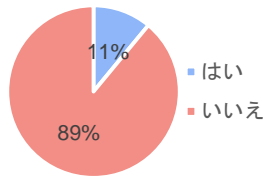


2-b 「あまり・まったく心配しなかった」理由 (17件)



(その他：医療機関への入職ではなかったため)

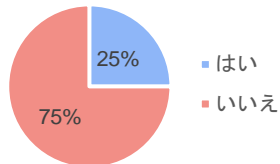
3. 現在 学外実習の中止や短縮による良い影響の有無 (62 件)



3-a 良い影響ありの場合の理由 (自由記述 2 件)

- ・在学当時、精神的な休息ができた気がしたから。
- ・入職後、できなくて当たり前で接してくれるから。

4. 現在 学外実習の中止や短縮による良くない影響の有無 (60 件)



4-a 良くない影響ありの場合の理由 (自由記述 6 件)

- ・ある分野だけ学べなかったから。
- ・経験できる場が少なかった分不安が大きいから。
- ・先輩や患者さんとのコミュニケーションに悩むことがあったから。受け持ち患者さん以外と関わる機会が少なかったため、経験できた技術項目も少なく、知識・技術不足を実感したから。
- ・実習中、患者さんの家族と関わることなく、入職してから家族とのコミュニケーションの仕方が難しいと感じたから。
- ・利用者さんとのコミュニケーションが最初は全然できなかったり、学んだ介護技術の応用が難しかったりしたから。
- ・介護技術など現場での経験を積み重ねないと就職してから影響しそうであるから。

まとめ 新型コロナウイルス感染症の就職活動に対する影響について

今回の調査対象となった卒業生は、看護科は2年次から、医療介護福祉科は1年次から新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。その結果、8割近くの卒業生が就職活動時にその影響を受けたと感じていた。影響を感じた内容を複数回答で尋ねると、「説明会等の中止」「移動の自粛・制限」が6割を超えた。一方、影響を感じなかった卒業生も2割程度おり、そのうちの3分2が、「自分だけでなく周囲も同じ状況だった」と回答していた。昨年度は「大変感じた」と回答した卒業生が5割を超えたのに比べると、影響の度合いは低くなった。

学外実習の中止や短縮については、現在、良い影響を感じているという回答が1割強、良くない影響を感じているという回答が4分の1で、いずれも昨年度より約1割低くなった。自由記述を見ると、「入職後、できなくて当たり前で接してくれるから」と、特に問題を感じていない卒業生がいた一方で、患者さんや利用者さんとのコミュニケーションに困難さを感じている卒業生や、技術の不足を感じている卒業生がいた。

社会がWithコロナの時代になり、採用する側もされる側も、求人、就職活動や採用試験などで遠隔方式を取り入れることに慣れてきたことが、前年度に比べて数字が改善していること背景にあるのではなかろうか。学生自身がWithコロナの生活を受け入れて、自分なりに取り組んだことがうかがえる。一方で、実習期間の短縮や現場での実践不足により、コミュニケーションに不安を覚えたり経験不足を感じる卒業生がいることから、状況に即した実習のあり方についても検討していく必要がある。



表7-5 令和4(2022)年度就職支援に関するアンケート

令和3・4年度「本学における就職支援に関するアンケート調査」結果概要  
 —就職活動への役立ち度の平均—

年度 講座名	令和3年度 回答者数		令和4年度 回答者数
	看護科 106人	医療介護福祉科 13人	看護学科 113人
就職活動スタートアップ	7.6	7.8	7.9
特に役立った項目	就職活動を始める前に、求められる人物像、情報収集	就職活動を始める前に、求められる人物像、情報収集	就職活動を始める前に、情報収集、求められる人物像
自己分析	7.7	8.3	7.5
特に役立った項目	自己PR作成、自己分析について、自己分析実践	自己分析について、電話・メール・お礼状のマナー、自己PR作成	電話・メール・お礼状のマナー、自己PR作成、自己分析について
履歴書の書き方	8.6	8.0	8.5
特に役立った項目	自己PR/志望動機作成ポイント、書き方の基本、履歴書とは	自己PR/志望動機作成ポイント、書き方の基本、履歴書とは	自己PR/志望動機作成ポイント、書き方の基本、履歴書とは
面接対策	8.4	8.3	8.3
特に役立った項目	面接の内容(自己PR)、面接のポイント、面接の内容(志望動機)、面接の基本	面接の内容(自己PR)、面接の基本、面接のポイント、面接の内容(志望動機)	面接のポイント、面接の基本、面接の内容(自己PR)、面接の内容(志望動機)
社会人基礎力・マナー	7.8	8.6	8.2
特に役立った項目	表情・言葉遣い、コミュニケーション・報連相、身だしなみ、ビジネス電話・メール、社会人基礎力	社会人基礎力、身だしなみ、表情・言葉遣い、コミュニケーション・報連相、ビジネス電話・メール	ビジネス電話・メール、表情・言葉遣い、コミュニケーション・報連相、身だしなみ、社会人基礎力
社会人としての意識の高まり度	8.4	8.5	8.5

役立ち度：1 全く役立たなかった～10 大いに役立った

意識の高まり度：1 全く高まらなかった～10 大いに高まった

なお、医療介護福祉学科の令和4年度卒業生はいない。

また、令和4年4月に学科名称を変更したため、令和3年度については当時の学科名称で記載。

調査結果を受けて：看護学科

本学では、就職活動支援講座として、マイナビによる「就職活動スタートアップ講座」「自

己分析講座」「履歴書の書き方講座」「面接対策講座」を実施している。それぞれの講座の役立ち度は7.5～8.5ポイントと令和3年度と同様に高く、講座の資料を活用して履歴書の作成や面接対策を行って就職試験に臨んだことが伺える。自己PRを書くに当たっては、講座の前に本格適性診断「MATCH plus」を受験し、その結果をふまえて自身の掘り起こしを行っている。今回の調査では、結果を生かせなかったと答えた学生もいたため、「MATCH plus」は、適職診断が主目的ではなく、自己分析のためのものであり、履歴書作成や面接試験の際に有益であることを伝え、結果を上手く活用できるように個別に指導していくことが必要である。講座以外では、「昨年度までの就職活動報告書」の利用率が高かった。先輩からの報告書は学生にとっても貴重な情報になるため今後も継続して提供していきたい。

今後の課題として、新型コロナウイルス感染症の影響からか、インターンシップや病院見学会に参加せず、病院のことをよく知らないまま受験する学生がいた。自分に合った病院選びが難しいとの声もあった。そのため、「自己分析講座」を受講する意味づけを今まで以上に説明するなど、自分に合った病院選びができるような支援を行うことが必要である。

就職前には「社会人基礎力・マナー講座」を開催している。この講座の役立ち度は、昨年度に比べて上昇した。特に、普段から使うことがないビジネス電話・メールの内容が役に立ったと回答している学生が多かった。就職先では、様々な価値観を持った患者さんへの対応が求められることが多く、採用側からも社会人基礎力・マナーを身につける必要性が求められているため、引き続き実施していきたい。

表7-6 令和4（2022）年度「卒業生採用に関するアンケート調査」結果概要

## I. 調査時期、対象施設、回収結果

調査時期：令和5（2023）年1月

対象施設：令和3（2021）年度卒業生就職先

	対象施設		回収数	回収率
	施設数	件数		
看護科	40	64	44	69%
医療介護福祉科	11		8	73%

・対象施設：看護科では1施設あたり複数部署に送る場合があるため、施設数と件数を示している

・回収数・回収率：看護科は件数、医療介護福祉科は施設数を示している

※なお、アンケート結果については学科名称変更前のため看護科、医療介護福祉科とする。

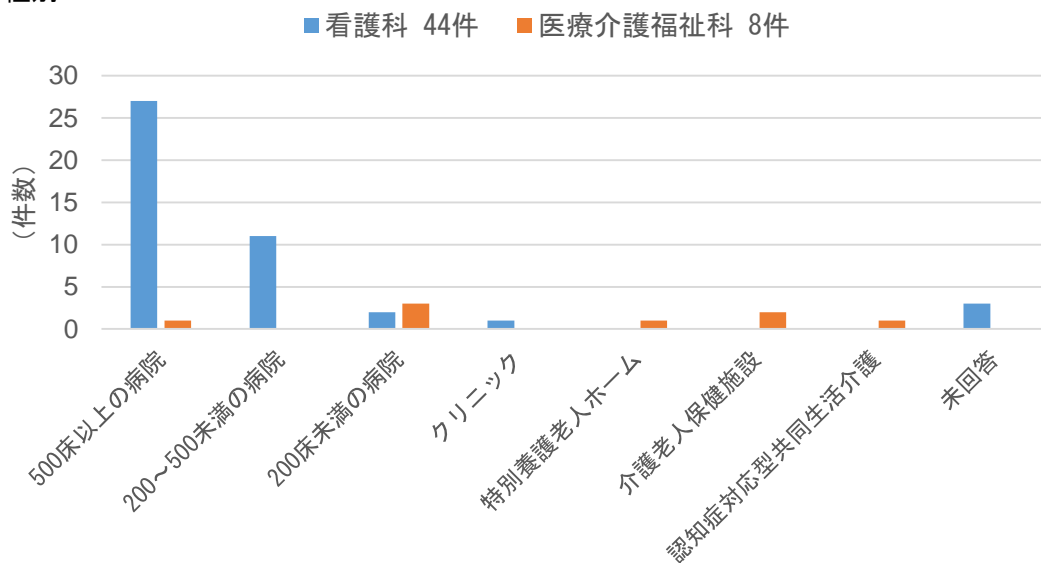
## II. アンケート結果および分析

### 1 施設基本事項（得られた回答数を示す）

#### 1) 地方・都府県別

地方	都道府県	看護科		医療介護福祉科	
		地方別	都道府県別	地方別	都道府県別
近畿地方	兵庫県	8	8		
中国地方	岡山県	31	27	7	6
	広島県		1		1
	山口県		1		
	鳥取県		1		
	島根県		1		
四国地方	香川県	1		1	1
	愛媛県		1		
九州地方	鹿児島県	1	1		
未回答		3		0	

#### 2) 種別



## 2 調査項目

### A 採用について

1) 2)は、それぞれの項目について、5段階（5：重視している、4：やや重視している、3：どちらともいえない、2：あまり重視していない、1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

3)は、当てはまるものを全て選ぶ質問。両学科とも、学科ごとの総回答数（回収数から未回答数を引いたもの）に対する%で示した。

#### 1) 組織で職務遂行上、重視する能力

	項 目	看護科	医療介護福祉科
①	主体性	4.5	4.4
②	他人に働きかける力	4.4	4.3
③	実行力	4.4	4.1
④	課題発見力	4.3	4.3
⑤	計画力	4.1	3.8
⑥	創造力	3.9	4.1
⑦	発信力	4.0	4.1
⑧	傾聴力	4.6	4.5
⑨	柔軟性	4.7	4.8
⑩	状況把握力	4.5	4.4
⑪	規律性	4.5	4.5
⑫	ストレスコントロール力	4.6	4.1

未回答：看護科4（うち、1件は採用担当でないため不明とあり）

その他重視している事項（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科6：コミュニケーション能力(2)、素直さ・誠実さ、接遇力、継続して学ぶ姿勢・人となり、タフさ

医療介護福祉科4：介護福祉士としてのプロ意識、協調性、他職種との連携、対人感受性

#### 2) 採用時に重視する能力

	項 目	看護科	医療介護福祉科
①	基礎学力	4.1	3.8
②	専門知識・技術	3.7	3.8
③	職務遂行能力(意欲、段取り力、実行力)	4.2	4.4
④	倫理観	4.7	4.4
⑤	社会性（公共心、誠実性、責任感）	4.6	4.5
⑥	コミュニケーション能力	4.7	4.5
⑦	対人関係・仕事の協調性	4.5	4.8
⑧	基本的マナー	4.5	4.6
⑨	課題解決能力	4.0	3.6

未回答：看護科3（うち、1件は採用担当でないため不明とあり）

その他重視している事項（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科2：素直さ(2)・謙虚さ・笑顔

医療介護福祉科1：素直さ

### 3) 面接時に注意してみる態度

	項 目	看護科	医療介護福祉科
a	入退出時の挨拶	61%	63%
b	服装・身なり・髪型	70%	75%
c	顔の表情	64%	75%
d	話し方・言葉遣い	82%	88%
e	声の大きさやトーン	41%	50%
f	話を聞くときの姿勢	73%	75%
g	話しているときの姿勢	52%	50%
h	目線の方向や動き	64%	50%

未回答：看護科 6

その他重視している事項（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科 5：間合い、質問に対する返答が的を射ているかどうか・自分の思いを伝えられるかどうか

質問内容：興味・動機を聞く、集合時間の厳守、電話の対応

医療介護福祉科 2：人を思いやれる考え方、自分の考えを持ち言葉で表現できる

### B 採用した本学の卒業生について

1) 2)は、それぞれの項目について、5段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

3) 5) 7)は、自由記述。

4)は、5段階（5：満足、4：やや満足、3：どちらとも言えない、2：やや不満、1：不満）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

6)は、学科ごとの総回答数（回収数から未回答数を引いたもの）に対する%で示した。

### 1) 本学卒業生の印象

	項 目	看護科	医療介護福祉科
①	基礎学力	3.2	3.6
②	専門知識・技術	3.1	3.8
③	職務遂行能力（意欲、段取り力、実行力）	3.2	3.6
④	倫理観	3.4	3.6
⑤	社会性（公共心、誠実性、責任感）	3.5	3.4
⑥	コミュニケーション能力	3.3	3.4
⑦	対人関係・仕事の協調性	3.3	3.5
⑧	基本的マナー	3.5	4.0
⑨	課題解決能力	3.1	3.4
⑩	注意や指導を受けた後の対応力	3.2	3.8

未回答：看護科 2

その他の印象（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科 5：素直で一生懸命頑張っている、相談・報告が適時に行える、個性を感じる、困っている時に自分から発言できない、おとなしい・受け身

医療介護福祉科 3：頑張っている、優しい、学校の特性というよりは個人の特性とも言える、課題に向き合い行動している。心配なのは頑張りすぎて無理をすること

## 2) 本学看護科卒業生が身につけている能力

項 目	平均
1 看護師に必要な知識とともに、専門職者としての基本姿勢と態度を備えている。	3.3
2 根拠に基づいた看護を提供できる実践能力を修得している。	3.1
3 看護専門職者としての誇りを持ち、研修・研さんを行う意欲と能力を身につけている。	3.2

未回答 2

## 3) 本学卒業生の傾向

①他校出身者と比較して優れている部分（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科 19： 素直さ(3)、やる気と優しさ(2)、コミュニケーション能力(2)・積極性、先輩看護師の質問や指導を正しく理解することができる(2)。自律性があり学習意欲が高い、かわいらしさ、学習面、協調性、社会人基礎力、努力を続ける姿勢、忍耐力、研修での学びや実践を振り返り課題を挙げて取り組める。取り組みの成果を確認することができる、誠実で課題を出されたら時間がかかってもやりきる、あまり変わらない(2)、傾向はない(2)
医療介護福祉科 7： コミュニケーション能力(3)・協調性・他職種連携がとれる、社会性・一般常識、知識が豊富・利用者様への接遇、比較の対象がない(3)

②他校出身者と比較して劣っている部分（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科 16： 課題発見力(2)、基礎学力(2)・社会人基礎力、コミュニケーション能力、思考力・分析力、積極性、発信力、環境に慣れるのに時間がかかった、あまり変わらない・特にない(7)
医療介護福祉科 7： 積極性、比較の対象がない(3)、特にない(3)

③過去の卒業生と比較して変わったと感じる部分（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科 16： 積極性に乏しい(2)、自分が嫌なことははっきり言う（Z世代の特徴か）、落ち着いている、おとなしい、コミュニケーション能力の低下、基礎学力の低下、社会人基礎力の低下、コロナの影響で実習が少なかったせいか看護業務や流れについていくのが困難でリアリティショックを受けているようだった、環境に慣れるのに時間がかかった、比較の対象がない(2)、特にない(4)、
医療介護福祉科 7： 仕事への意欲の高さ(3)、比較の対象がない(2)、特にない(2)

## 4) 本学卒業生を採用したことの総合的満足度

	看護科	医療介護福祉科
本学卒業生を採用したことに対する総合的満足度	4.2	4.8

5) 採用した学生について気づいた点（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは1件）

<p>看護科 9 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期に退職した</li> <li>・ 患者とのコミュニケーションがとれない</li> <li>・ コロナ禍のためか実習が少なく、経験が不足している</li> <li>・ とても素直でいろいろ言いやすい</li> <li>・ 素直に指導を受け、確実に成長している。社会性も高い</li> <li>・ 意欲的に研さんする姿勢がある。大切に育てていきたい</li> <li>・ 頑張ってくれている。ありがたい</li> <li>・ 特にない。一生懸命頑張っている</li> <li>・ 責任感がある。他校出身者との関係が良い</li> </ul>
<p>医療介護福祉科 6 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍の中、大変な業務をひたむきに頑張っている</li> <li>・ 知識も行動力もあり、常に周りを見て行動できる。不安なことは相談してくれるが、頑張りすぎて心配な時がある（こちらから積極的に声をかけてケアしていきたい）</li> <li>・ 入職初期にはストレスが高かったが、患者に対する姿勢が良い</li> <li>・ 入職初期より確実に成長している。自信がついたようだ</li> <li>・ 初めての体験を数多くしているのでこれからだと思ふ</li> <li>・ 同世代の職員をもっと増やすことができれば楽しく働けると思ふが、できずに申し訳ない</li> </ul>

6) 本学学生に充実を求める能力（上位3項目の選択）

	項 目	看護科	医療介護福祉科
a	基本的マナー	64%	38%
b	コミュニケーション能力	86%	75%
c	対人関係調整力	60%	63%
d	幅広い教養と基礎学力	26%	13%
e	深い専門的知識・技能	10%	0%
f	文章読解・表現能力	17%	25%
g	リーダーシップ	5%	25%
h	課題解決能力	45%	50%
i	プレゼンテーション能力	5%	0%
j	マネジメント能力	5%	0%
k	コンピュータ活用能力	5%	0%
l	指導能力	2%	0%
m	外国語の能力	0%	0%
n	国際的視野	0%	0%

未回答：看護科 2

その他充実が必要な事柄（自由記述：数字は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科 2：文章力、倫理観

7) 本学に対する意見、希望（自由記述；数字は件数、件数の記入がないものは1件）

<p>看護科 5 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続きよろしくお願ひしたい(3)</li> <li>・ 指導の先生が時々来てくださるとうれい</li> </ul>
--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの卒業生が当院で活躍している</li> <li>・貴校の卒業生のような学習意欲の高いスタッフがいることで他の新人看護師にも良い影響が出ている。今後の成長に期待したい。</li> <li>・特にない</li> </ul>
医療介護福祉科 5： <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後とも末長くお願いしたい(3)</li> <li>・結果はまだまだついてこないが、まじめで礼儀正しく意欲的という点がすばらしい</li> <li>・貴校の卒業生が多く活躍されている</li> <li>・すばらしい教育をされている</li> </ul>

## 今後の課題

### 1 学科の課題と対策

#### 1) 看護学科

本学科では、例年、大規模病院に就職する学生が多いが、小規模病院と比べて就職後の職場適応が困難になる学生もいるため、学生の特性にマッチした病院選択ができるような支援を行うことが課題であった。そのため昨年度から、就職活動支援講座の「スタートアップ講座」の中で、自分に合った病院選びに力を入れるとともに、事前に受験した本格適性診断「MATCH plus」の結果を活用した支援を行ってきた。その結果、今回のアンケート調査では、病院選択の指導を要望する意見はなかった。総合的満足度の平均値も、ここ数年の3.9～4.0が4.2に上昇し、指導の効果が現れていると思われるが、多様化する学生の増加に対応すべく、引き続き学生の特性に応じた病院選択ができるような支援を継続していく必要がある。本学科の学生に充実を求める能力の上位は、「コミュニケーション能力」「基本的マナー」「対人関係調整力」であった。「コミュニケーション能力」は、「他校出身者と比較して優れている部分」にも「劣っている部分」にも挙がっているため、個人差が大きいものと推察される。「コミュニケーション能力」「対人関係調整力」は対人関係職の基本的素養であるため、臨地実習での指導はもとより、学内の演習等の教育方法を工夫していく必要がある。「基本的マナー」は一朝一夕には身につかない。臨地実習はもとより、学内でも日常の中で指導を行っていく必要がある。就職前の「社会人基礎力・マナー講座」も、就職後の社会人としての対応を意識してもらおう意味でも引き続き実施していきたい。

#### 2) 医療介護福祉学科

今回のアンケート調査の結果を踏まえて、学生たちは、大学3年間で国家試験に合格できる知識を習得するだけでなく、社会人としての規律を学び身につける必要があると考えられた。そのため、社会人にとって必要なマナーである「話し方・言葉遣い」「基本的マナー」を、1年次からの実習や講義を通して、教員が意識して指導を行っていく必要がある。特に「コミュニケーション能力」については、入学時から苦手とする学生も多いため、講義の中でグループワーク、ペアワークを取り入れるなどの工夫を行い、自分の考えを適切に発信するとともに他者の意見に耳を傾けられるよう学生の成長を促したい。「コミュニケーション能力」と「対人関係調整力」は、利用者や患者との信頼関係を構築するためのみならず、多職種連携やチームケアを行ううえでも必要な能力であり、職員間での報告・連絡・相談にも不可欠であることから、学内外の実習を通じて、これらの能力を伸ばしていきたい。さら



に、「課題解決能力」については、1、2年次に培った知識や技術を基に、「よりよい生活支援につなぐ」ことを目標とする3年次での教育で身につけさせたい。

今回のアンケート調査では、本学科の卒業生を採用したことに対する総合的満足度の平均値は4.8と、高い評価をいただいた。令和4年度は本学科の卒業生はいない年度であるが、本学の就職活動支援講座は、就職や社会に出ることに対する良い意識づけになっていると思われる。これからも教員全員が協力して、学生が高い意識を持てるような教育を行っていききたい。

## 2 大学としての課題と対策

令和3（2021）年度卒業生の就職先に、令和5（2023）年1月にGoogle フォームを用いたオンラインアンケートを実施した。回収率は、看護科が69%、医療介護福祉科が73%であった。総合的満足度（1～5の5段階評価）の平均値は、看護科4.2、医療介護福祉科4.8と、昨年度を上回る評価をいただいた。2（やや不満）以下の評価はなかった。また、次の4つの観点から「チームで働く力」の重要性が明らかになった。

1. 「職務遂行上の能力」として、両学科に共通して「柔軟性」「傾聴力」「規律性」「主体性」「状況把握力」「ストレスコントロール力」が上位であったことから、社会人基礎力のうち「チームで働く力」が重視されていることが示された。相手の話を共感的態度で聴く力、意見や立場の違いを理解できる力、協調性を持ち、状況を正確に把握しながら主体的に業務に取り組める力や対応力を養う必要がある。

2. 「面接時に注意してみる態度」では、今年度の顕著な傾向として「話し方・言葉遣い」が最も重視されていた。医療福祉に携わる者として、身だしなみや姿勢、目線は、適切であって当然の項目とみなされていることがうかがえる。引き続き、身だしなみの指導に努めるとともに、「コミュニケーション能力」を身につけさせる必要がある。

3. 「採用時に重視する能力」と「本学卒業生の印象」は、同じ項目で評価していただくことで、採用側の期待と本学卒業生の実際の能力との食い違いについて検討することができるようにした。看護科では、その食い違いが大きいのが「コミュニケーション能力」「倫理観」「対人関係・仕事の協調性」であった。医療介護福祉科では、「対人関係・仕事の協調性」「コミュニケーション能力」「社会性」の食い違いが大きかった。採用側が意図するコミュニケーション能力や協調性と、これらの能力に関する学生の自意識との間に食い違いがある卒業生は、現場への適応が難しくなることも推察される。昨年度に比べ、「基本的マナー」には若干の改善がみられたことから、適切にコミュニケーションがとれ、患者と利用者の尊厳を第一に考える倫理観を持った学生を育てられるような指導を引き続き行っていく必要がある。

4. 「採用時に重視する能力」と「本学学生に充実を求める能力」を比較すると、両学科とも「コミュニケーション能力」「対人関係調整力」「問題解決能力」を十分に持つ学生を育成する必要があることが示された。看護科では「基本的マナー」の充実も指摘された。この結

果からも、対人援助職者として身につけておくべき対人能力や課題形成能力が、就職先の期待よりもやや低かったことがうかがえる。「本学卒業生の印象」「他校出身者と比較した本学卒業生の傾向」「採用した学生について気づいた点」は、本学の指導に対する好評価につながるものが多く、就職先とのミスマッチのご指摘も少なくなった。

○「チームで働く力」の涵養を図るために、就職活動支援講座を充実させるとともに、大学と学科が連携し、入学時のオリエンテーション、講義や演習・実習、担任の集団指導・個別指導などにおいて、繰り返し指導を行っていく必要がある。両学科ともに高い評価をいただいた素直さや意欲、頑張りといった良い資質を生かしつつ、問題に直面したときに周囲と相談したり適切に対処することのできる社会的スキルを身につけさせたい。また、入学時から3年間の学生生活を通じて、将来の職場が病院や施設であるということを認識させ、学びと社会性に対する動機づけを図るとともに、自身の看護観や介護観を考えさせ、根拠に基づいた実践ができる人材を育てていきたい。

令和4（2022）年度主要行事

※ 学内会議（運営委員会・教授会・教職員会、各種委員会会議）は省略

令和4.4.1	辞令交付式
〃	新入生オリエンテーション（～7）
4	入学式
6	新入生健康診断
16	川崎学園入学時合同研修（各施設でDVD視聴）
5.14	オープンキャンパス
21	スポーツ大会
6.1	学園創立記念日
4	防災訓練
6	医療介護福祉学科 実習開始式
19	3校合同オープンキャンパス
7.16	第1回公開講座
24	3校合同オープンキャンパス
8.20	オープンキャンパス
9.22	前期末卒業証書・学位記授与式
24	総合型選抜入試一次審査通過者発表
10.1	総合型選抜入試二次審査
15	学園祭（～16）
22	予約制入試・進学相談会
27	中国四国厚生局指導調査
29	看護学科継灯式
11.1	総合型選抜入試合格発表
5	第2回公開講座
12	学校推薦型選抜前期入試
12.1	学校推薦型選抜前期入試合格発表
13	学校推薦型選抜後期入試A日程
14	学校推薦型選抜後期入試B日程
17	学校推薦型選抜後期入試合格発表
24	第1回キャンパスカミングデイ
令和5.1.4	仕事始め
20	川崎学園防災の日
2.1	一般選抜前期入試A日程
2	一般選抜前期入試B日程
8	一般選抜前期入試合格発表
12	第112回看護師国家試験
16	在学生健康診断（2/21, 2/22）
3.4	第2回キャンパスカミングデイ

10	一般選抜後期入試
14	一般選抜後期入試合格発表
15	卒業証書・学位記授与式
18	協定会評議員会
24	第 112 回看護師国家試験合格発表
26	3 校合同オープンキャンパス
28	在学生健康診断[レントゲン撮影・尿検査] (～30)

## あ と が き

近年内部質保証を軸に大学教育の改善改革が進められており、本学も平成5（1993）年より自己点検・評価を行っています。本学では、アセスメント・ポリシーに基づき点検評価委員会において点検評価を実施し、毎年報告書を公表することによって質向上を目指しています。本年度は、従来の点検評価に加え、新キャンパス移転に伴って教育環境や地域連携の変化なども加味しながら1年の経過を振り返り、新キャンパスにおける教育活動・大学運営の点検評価を行いました。

さらに、教育体制としては、両学科ともにカリキュラムの変更により年間の進度が複雑化しました。看護学科においては、4月より新カリキュラムを開始したことによって、新科目である地域連携を念頭に置いた科目が新たに展開したため、一定期間その実習に教員の指導が集中して必要になったことや医療介護福祉学科においては3年課程カリキュラムの2年目であり、翌年の3年次生で学ばせる医療系分野、特に病院実習や地域介護実践実習への綿密な打ち合わせと指導体制を整えることなど特別な調整が必要な年でした。

また、本学はここ数年、18歳人口の減少やコロナ禍において県外受験の手控え等を含む種々の影響により学生募集に苦慮しています。1年間を振り返って、新規にメディアを利用したTVオープンキャンパスに参加したり、従来のオープンキャンパス以外に新たに放課後キャンパスツアーを開催したりと新たな対策も打ち立てました。従来の高校訪問や高大連携、出前授業等にも力を入れてきましたが十分にその効果が表れていないのが現状です。この状況は、岡山キャンパスに移転後の教育環境の良さや利便性の高さ等十分に広報できていないことや今どきの高校生のニーズをキャッチしきれていないのではないかと推察しています。今後も工夫を凝らしながら、実践力を身につけた看護師、医療の知識を学んだ介護福祉士など本学の教育の魅力を発信していきたいと考えます。

最後に、岡山市に移転後、関係機関の方々をはじめ、町内会や商店街など地域の方々に温かく迎え入れていただき初年度を本学らしく医療福祉教育機関として無事に成し終えたこと、加えて、本報告書を作成にあたって日々尽力した教職員に感謝いたします。

令和5（2023）年11月1日

川崎医療短期大学  
副学長 新見 明子

# 自己点検・評価報告書

令和4（2022）年度

発行日 令和5（2023）年11月  
編集 川崎医療短期大学点検評価委員会  
発行 川崎医療短期大学  
〒700-0821 岡山県岡山市北区中山下二丁目1番70号  
TEL 086-201-5333 FAX 086-201-5676  
ホームページ <https://j.kawasaki-m.ac.jp>